

福井県観光新戦略

平成27年3月

福井県

目 次

はじめに	1
第1章 本県観光を取り巻く現状と主要課題	
1 わが国の観光を取り巻く環境の変化	2
2 本県観光の現状	6
3 「新ビジットふくい推進計画」における成果と課題の総括	10
4 本県観光の主要課題	12
第2章 福井県観光新戦略の基本理念と数値目標	
1 基本理念	13
2 基本目標	15
3 計画期間	17
4 戦略プロジェクトの体系	18
第3章 戦略プロジェクトの展開	
基本戦略1 極める	19
(1) 世界に冠たる「恐竜王国 福井」に	
(2) 一乗谷朝倉氏遺跡を世界文化遺産に	
基本戦略2 輝かせる	26
(1) 「海湖と歴史の若狭路」の広域観光圏の確立	
(2) 「100万人観光地」の整備	
(3) 福井の食や食文化の魅力を全国、そして世界に	
(4) 新しい「福井ならではの」のツーリズムの推進	
基本戦略3 繋げる	48
(1) 県内交通アクセスの利便性の向上	
(2) 自治体間の広域連携・相互交流の推進	
基本戦略4 伝え、動かす	53
(1) 首都圏等における新規顧客の開拓	
(2) 近隣府県からのリピーターの獲得	
(3) 県内交流の活発化と県民による情報発信	
(4) インターネットを活用した情報の発信	
基本戦略5 心をつかむ	62
(1) 感動を呼ぶおもてなし環境の整備	
(2) 着地情報の充実・発信	
(3) カワイイお土産の開発	
(4) 地域や観光産業を担う人づくり	
基本戦略6 世界から招く	71
(1) 各国・地域のニーズにあった誘客活動の強化	
(2) 外国人受入環境の整備	
(3) イベント・コンベンションの誘致推進	
第4章 推進体制	
1 推進体制・進行管理	80
2 役割分担	81
(参考1) 福井県観光新戦略策定委員会	84
(参考2) 新ビジットふくい推進計画の検証	86
(資料) 観光統計	98

はじめに

福井県には、奥越の山々や越前海岸、若狭湾等の自然景観をはじめ、人の営みと自然が調和した里山里海湖や、時代を超えて受け継がれてきた歴史・文化、伝統産業など、国内外に誇ることができる数多くの魅力があります。

また、本県は、子どもたちの学力・体力は日本一であり、「県民幸福度」と「子どもの幸福度」も日本一の評価を受けるなど、全国から注目されています。

去る3月14日に、北陸と首都圏とを直結する北陸新幹線が金沢まで開業しました。これにより、「北陸は遠い」とのイメージが改善され、首都圏や沿線地域からの大きな人の流れが生まれつつあります。

今後、平成28年度の中部縦貫自動車道永平寺大野道路の開通や、平成34年度の新幹線敦賀開業など、さらなる高速交通ネットワークの整備が進むとともに、平成30年には福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会、平成32年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。

人口減少時代における地域経済の活性化と魅力ある地域づくりを進めるに当たり、こうした好機をとらえ、福井県が持つ「ふるさと力」を結集し、本県観光を活気のある次のステージへと引き上げるため、このたび、新たな観光戦略を策定しました。

本県が誇る自然や景観、歴史・文化、食、環境、暮らしなど、「福井ならではの」魅力をさらに磨き上げ、力強く発信し、国内外から多くの観光客を呼び込み、何度でも訪れていただけるように、本県観光の振興を総合的かつ戦略的に推進します。

こうした取組みを県民、民間事業者・団体、市町、県等が一体となって進めることにより、住む人だけでなく、訪れる人の人生も楽しく豊かにする「元気あふれる日本一のふるさと」を目指してまいります。

平成27年3月

福井県知事 西川 一誠

第1章 本県観光を取り巻く現状と主要課題

1 わが国の観光を取り巻く環境の変化

(1) 人口減少社会の本格化

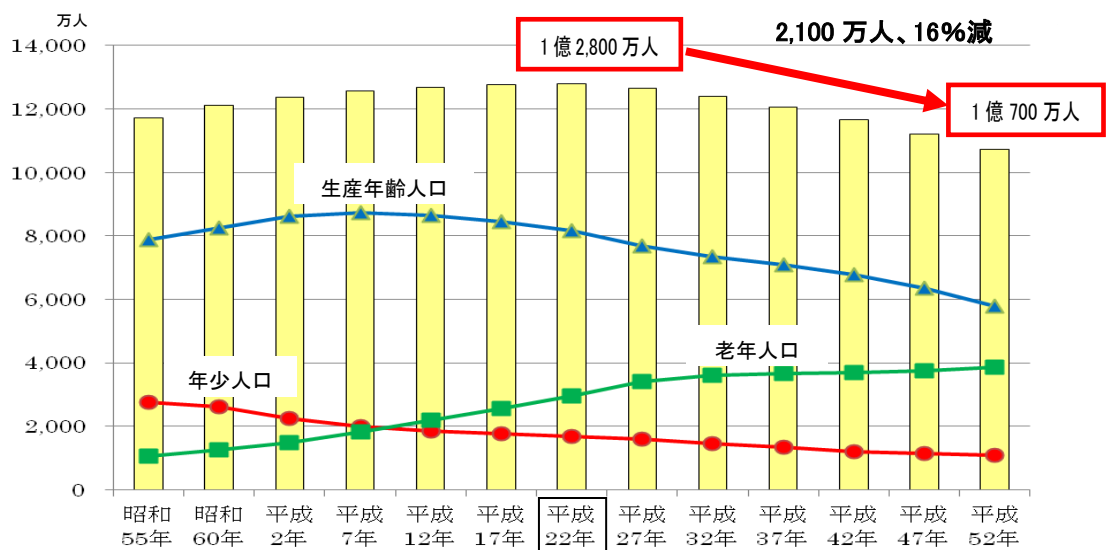
日本は本格的な人口減少社会が到来しています。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、平成22年の1億2,800万人から今後30年間で約2,100万人、約16%の減少が見込まれています。

本県においても、平成22年の80万6千人から、約17万人、約21%の減少が見込まれています。

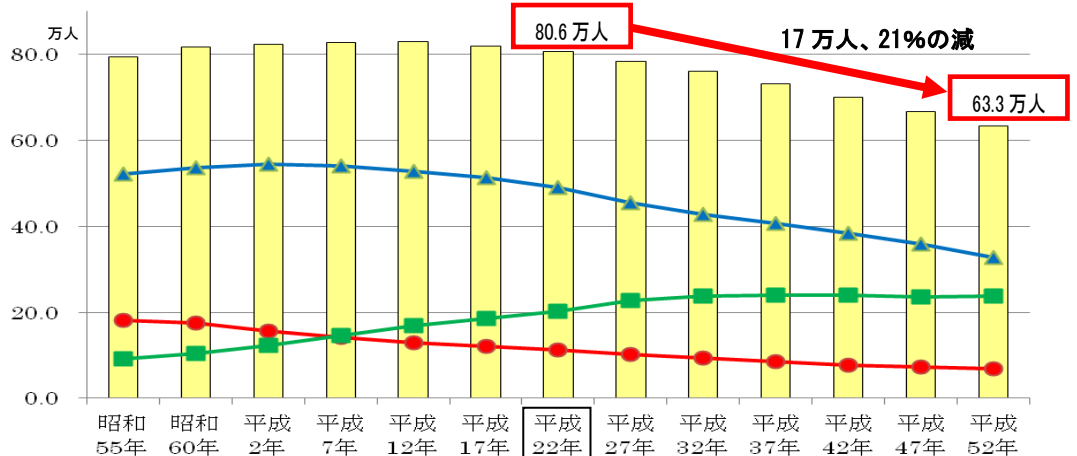
人口減少による地域経済の縮小分を補い、地域活力の維持や活性化を図るためには、観光による交流人口を拡大していくことが重要です。

観光庁の試算によれば、定住人口が1人減少することによる経済規模の縮小は、国内の宿泊旅行者ならば26人分、または日帰り旅行者ならば83人分で補うことができるとされています。

図表1 わが国の将来人口の推計



図表2 福井県の将来人口の推計

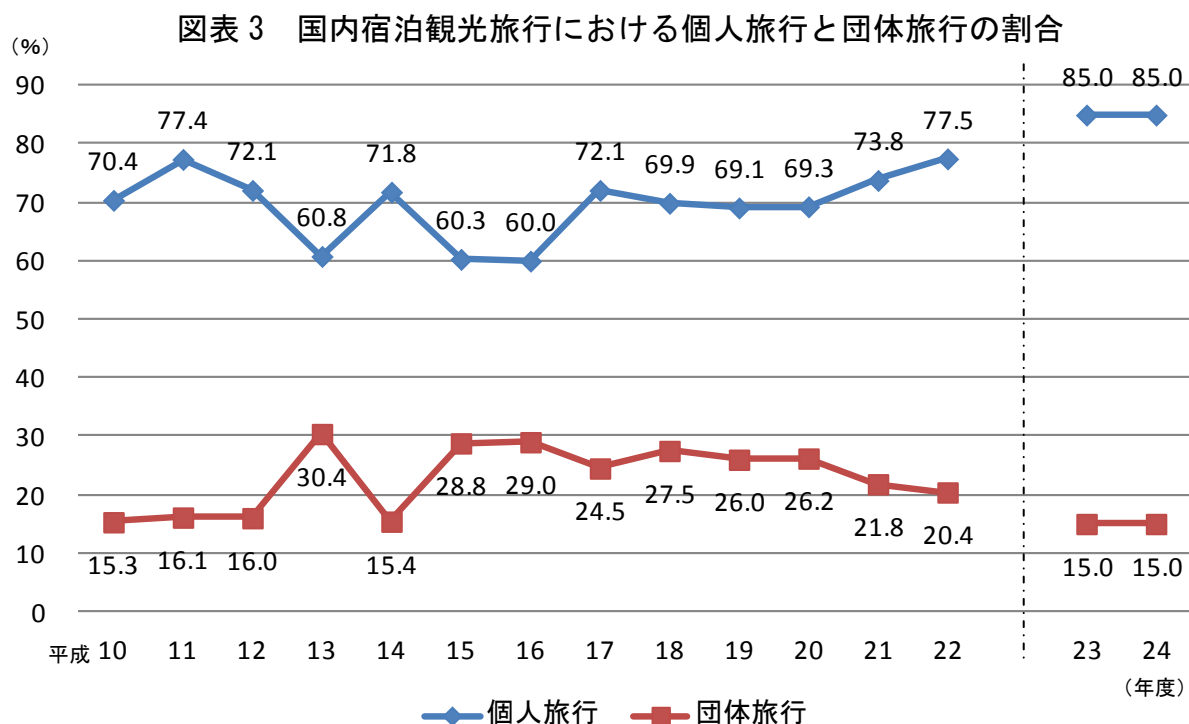


(出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口(25年3月)」)

(2) 旅行形態の変化

価値観やライフスタイルの多様化を背景として、旅行形態は、団体旅行から、家族・友人等との小グループやひとり旅などの個人旅行にシフトしています。

また、観光客のニーズは、単に観光地を訪れるだけでなく、その土地ならではの食や歴史・文化、自然、農林漁業等の体験、地元の人との交流などへと広がっています。



※平成 23 年度から調査方法が変わっているため、平成 22 年度以前と以降の比較ができない。

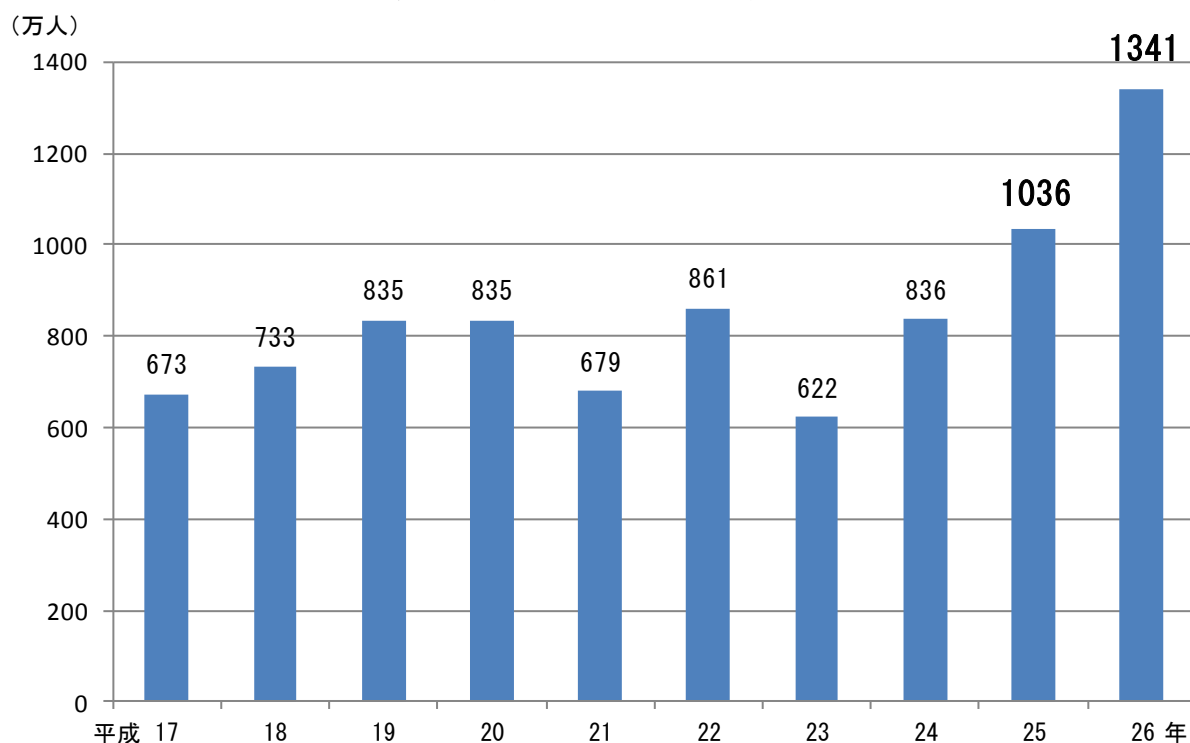
(出典：公益社団法人日本観光振興協会「平成 25 年版 観光の実態と志向」)

(3) 訪日外国人旅行者数の増加

訪日外国人旅行者数は、東日本大震災や日中・日韓関係の悪化などの影響により、平成23年、平成24年と減少しましたが、アジアにおける格安航空会社（Low Cost Carrier）の就航拡大や東南アジア諸国を対象とした訪日ビザ発給要件の緩和、円安による訪日旅行の割安感等により、平成25年に初めて1,000万人を突破し、平成26年には1,341万人となりました。

国においては、平成32年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を機に2,000万人を目指すため、アクション・プログラムを策定するなど、訪日外国人旅行者数は、今後、さらに増加するものと期待されています。

図表4 訪日外国人旅行者数の推移



(出典：日本政府観光局 (JNTO))

(4) インターネットの重要性の高まり

インターネットの普及が拡大する中、近年、一般世帯においてもスマートフォンやタブレット端末などの利用が急速に広がり、旅行先の観光情報の入手をはじめ、鉄道や航空機、宿泊、レストラン等の予約に至るまで、インターネットで行われるようになってきています。

また、ブログやツイッター、フェイスブックなどのSNS[※]を通じて、旅先での実体験を自ら情報発信することも盛んになっており、観光におけるインターネットの重要性が高まっています。

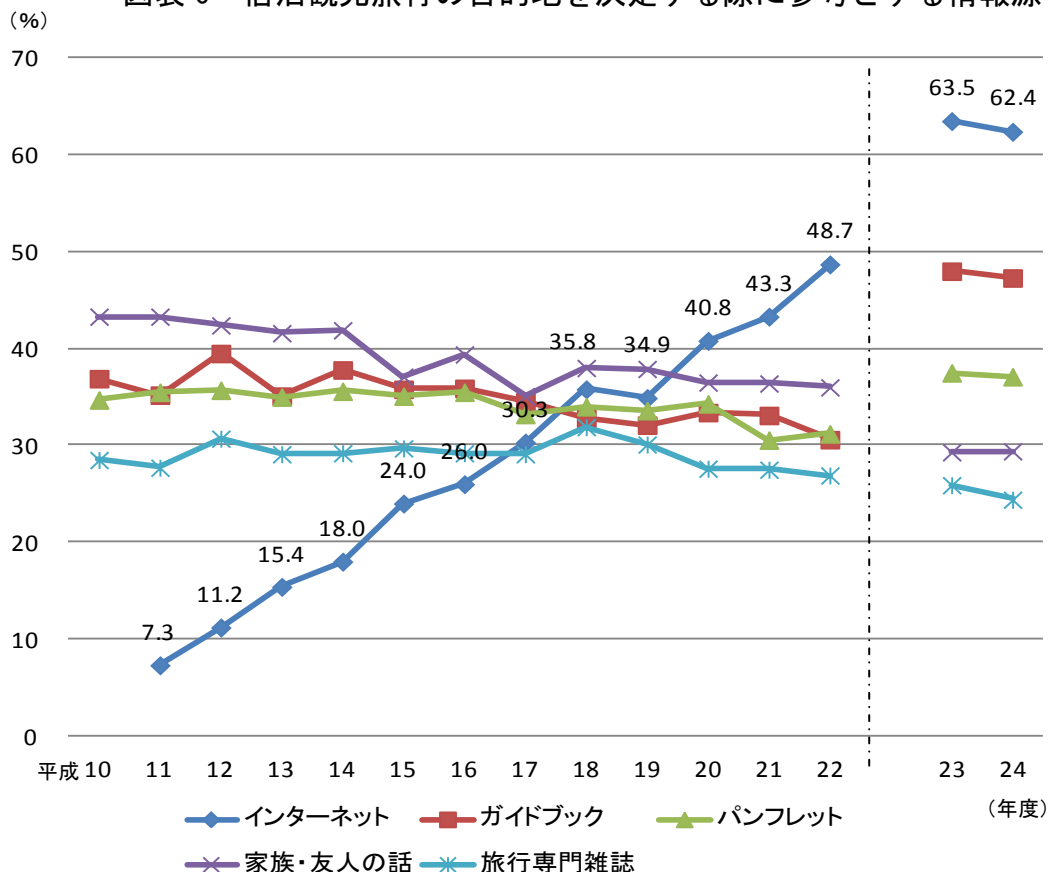
※SNS【Social Networking Service】 人と人とのつながりを支援するコミュニティ型のWebサイト

図表5 インターネットの普及率および情報通信機器の世帯保有率

年	H15	H21	H22	H23	H24	H25
インターネット	64.3%	78.0%	78.2%	79.1%	79.5%	82.8%
スマートフォン	-	-	9.7%	29.3%	49.5%	62.6%
タブレット端末	-	-	7.2%	8.5%	15.3%	21.9%

(出典：総務省「平成25年通信利用動向調査の結果」)

図表6 宿泊観光旅行の目的地を決定する際に参考とする情報源



※平成23年度から調査方法が変わっているため、平成22年度以前と以降の比較ができない。

(出典：公益社団法人日本観光振興協会「平成25年版 観光の実態と志向」)

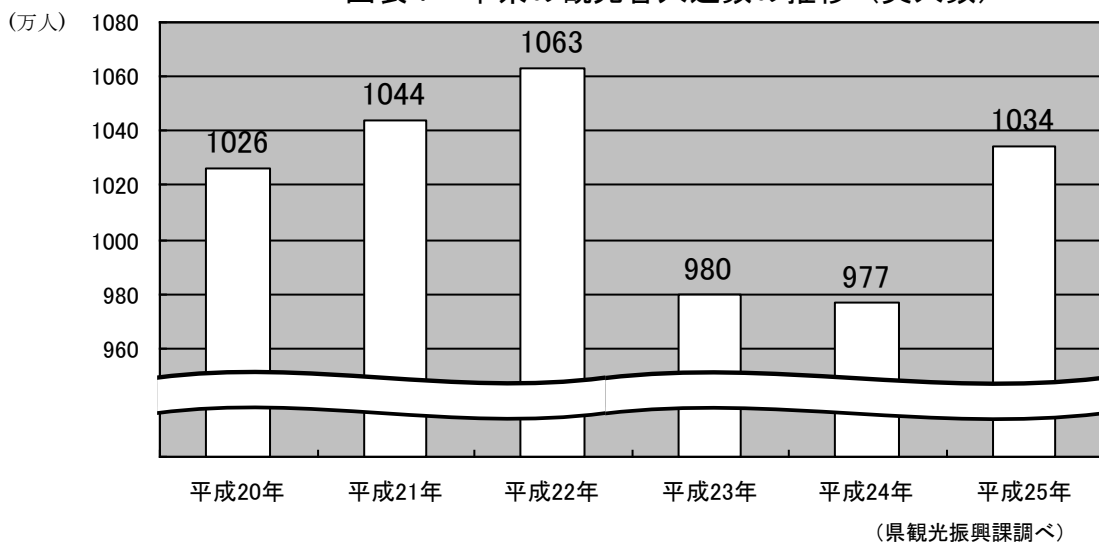
2 本県観光の現状

(1) 観光客入込数の推移

本県の観光客入込数については、平成25年に3年ぶりに1,000万人を超えて1,034万人（実人数）となりました。

新ビジットふくい推進計画期間（平成21～25年度）中の推移をみると、平成21年には1,044万人（対前年比1.8%増）、平成22年には過去最高の1,063万人となりましたが、平成23年には980万人、平成24年に977万人と2年連続で1,000万人を割り込みました。これは、東日本大震災による旅行自粛の影響や景況感の悪化のほか、一部の主要観光地が観光統計の集計方法を変更したことなどが要因と考えられます。

図表7 本県の観光客入込数の推移（実人数）



図表8 北陸三県の観光客入込数（実人数）の推移

（単位：万人）

	H5	H10	H15	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H20とH25の比較
福井県	901	902	922	1,026	1,044	1,063	980	977	1,034	+8 (+0.8%)
石川県	2,228	2,118	2,151	2,077	2,072	2,155	2,099	2,106	2,163	+86 (+4.1%)
富山県	—	—	—	1,748	1,774	1,665	1,561	1,669	1,780	+32 (+1.8%)

（注）富山県は平成18年まで公表していない。

（出典：各県観光統計）

(2) 県外客の発地別入込状況

平成25年の県外からの観光客入込数は、対前年比6.7%増の456万人になりました。

また、北陸新幹線金沢開業に向けて、東京・丸の内での大恐竜展の開催をはじめ、首都圏や北陸新幹線沿線地域での観光プロモーション活動を強化したことなどにより、関東地区からの観光客入込数（実人数）が過去最高となりました。

地区別に見ると、関西地区および中京地区からの入込みが全体の約7割（関西地区42.0%、中京地区27.1%）を占め、以下、北陸地区（17.3%）、関東地区（6.6%）の順となっています。

図表9 県外客の発地別入込状況

(単位：人、%)

区分	観光客入込数(実人数)		対前年比	平成25年構成比
	平成25年	平成24年		
関西地区	1,917,000	1,830,000	104.8	42.0
中京地区	1,236,000	1,169,000	105.7	27.1
関東地区	303,000	279,000	108.6	6.6
北陸地区	788,000	694,000	113.5	17.3
その他	316,000	301,000	105.0	7.0
計	4,560,000	4,273,000	106.7	100.0

(県観光振興課調べ)

(3) 外国人宿泊客数

平成25年の外国人宿泊客数は、観光庁が統計を取り始めた平成19年以降最高の28,460人（対前年比35.3%増）となりました。

しかしながら、北陸3県で比較すると、石川県の10分の1、富山県の4分の1以下にとどまっています。本県には空港がないことや、海外において知名度が高い観光地がないことが一因となっていると考えられます。

図表10 北陸三県の外国人宿泊客数の推移

(単位：人)

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H20とH25の比較
福井県	21,790	16,010	20,190	13,480	21,030	28,460	+30.6%
石川県	168,550	121,980	188,340	117,450	180,190	311,640	+84.9%
富山県	96,850	57,300	84,570	48,270	79,000	125,600	+29.7%

(出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」)

(4) 高速交通ネットワークの整備の進展

平成26年7月の舞鶴若狭自動車道「若狭さとうみハイウェイ」全線開通により、嶺南地域において嶺北地域からの観光客とともに、関西、中京、北陸に加え、中国・四国、東海地方など、より遠方からの観光客が増加しています。

また、平成27年7月に予定されている京都縦貫自動車道の全線開通により、琵琶湖を囲み、本県と関西圏とを結ぶ大小2つのループが形成され、交通の利便性が向上します。

平成27年3月に北陸新幹線が金沢まで開業し、平成34年度には、敦賀までの延伸が予定されています。新幹線開業により、首都圏、信越など新幹線沿線地域からの観光客の増加が見込まれるとともに、外国人観光客の利用も期待されます。

中部縦貫自動車道については、平成28年度の福井北～大野間の永平寺大野道路開通によって、奥越地域への観光客の増加や県内の周遊性の向上が期待されます。

図表 11 福井県から伸びる高速交通ネットワーク



(5) 小松空港の利活用の高まり

本県の空の玄関口と位置付ける小松空港の平成25年度の国際線利用者は、台北便が9.3万人で対前年比45%増となりました。

一方で、上海便およびソウル便については、日中・日韓関係の悪化等の影響により、それぞれ対前年比で減少しました。

しかし、経済発展が著しく、今後ますます海外旅行客の増加が見込まれるアジア各国から直行便が就航している意義は、本県にとって大きいと言えます。

国内線では、東京（羽田）便のほか、札幌便、仙台便、成田便、福岡便、那覇便が就航しており、平成25年度の国内線利用者は212万人でした。

今後、北陸新幹線金沢開業により、東京便などの利用客の減少が懸念されますが、小松空港利用者のうち、本県を目的地とする人の割合が増加することが見込まれ、国内外からの誘客を進める上で、東京（羽田）乗継便を含め、小松空港の利活用の拡大が重要となります。

図表 12 小松空港国際線利用実績

(単位:千人)

年度	H15	H20	H21	H22	H23	H24	H25
ソウル便	33	46	45	49	43	44	35
上海便		22	25	36	36	36	30
台北便		19	21	23	36	64	93
チャーター便	8	6	2	4	5	7	9
合計	41	92	93	112	120	151	167

(出典：小松空港資料)

図表 13 小松空港国内線利用実績

(単位:千人)

年度	H15	H20	H21	H22	H23	H24	H25
東京便	2,076	1,833	1,601	1,582	1,548	1,670	1,738
札幌便	122	102	85	68	70	70	68
仙台便	47	41	31	25	17	27	48
成田便		21	21	31	41	47	57
福岡便	181	144	126	123	121	135	145
那覇便	93	87	79	83	80	76	65
その他	鹿児島 18		静岡 34	静岡 19			
合計	2,537	2,228	1,977	1,931	1,877	2,025	2,121

(出典：小松空港資料)

3 「新ビジットふくい推進計画」における成果と課題の総括

本県では、平成21年度から25年度まで、「新ビジットふくい推進計画（以下、「前計画」という。）」に基づき、「Ⅰ みがく ―観光地の活性化―」、「Ⅱ たかめる ―推進体制の強化―」、「Ⅲ そだてる ―観光の人づくり―」、「Ⅳ しぼる ―対象を絞ったアプローチ―」、「Ⅴ つたえる ―情報発信の質と量の強化と優れた文化の次世代への伝承―」の5つを基本戦略に掲げ、各種施策を進めてきました。

前計画の検証については、後述の「(参考2) 新ビジットふくい推進計画の検証（85ページ～96ページ）」のとおりですが、成果と課題について整理した結果、次の6つの課題が、特に重要と考えられます。

(1) さらなる観光地の活性化

- ・ 「目玉となる観光地づくり事業（平成21～23年度）」や「観光まちなみ魅力アップ事業（平成24～29年度）」により、地元市町とともに、東尋坊や永平寺門前、敦賀金ヶ崎など主要観光地の魅力づくりにハード・ソフトの両面から取り組んでいますが、いまだ整備途上です。引き続き、着実に整備を進め、発信力を高める一方で、周辺の観光地と結び付け、周遊観光の核としていく必要があります。
- ・ 舞鶴若狭自動車道「若狭さとうみハイウェイ」の全線開通や北陸新幹線の金沢開業等、高速交通ネットワークの整備効果を最大化するため、自然や歴史・文化、環境、暮らしなど本県ならではの特色ある観光素材を掘り起し、磨き上げ、旅行会社等への売込みを強化してきましたが、訴求力が高まっていません。多くの方が福井県に行きたくなるよう、地域に埋もれている観光素材のさらなる掘り起しと磨き上げが必要です。
- ・ 二次交通アクセスについては、あわら温泉・東尋坊・恐竜博物館・永平寺など、主要な観光地間を結ぶ周遊観光バスの実証運行等を実施しましたが、今後、その結果を踏まえ、新たな実証運行や民間事業者主体の運行を促進していく必要があります。

(2) 連携と推進体制の強化

- ・ 平成21年4月にブランド力の強化や観光振興を所管する観光営業部を創設し、さらに24年4月には、文化振興や景観づくり、食のブランド化の業務を同部に集約し、本県の観光と営業の推進体制を強化しました。今後、さらに県庁内の他部局や市町、観光団体・事業者等との連携を強化し、総合的かつ戦略的に観光施策を推進する必要があります。
- ・ 平成27年秋の北陸デスティネーションキャンペーンの実施に向けて、北陸三県やJR各社が連携して準備を進めていますが、今後、さらに高速交通ネットワークの整備が進む中で、各地の魅力をつなぎ合わせ、広域観光を推進するため、県内市町や隣接府県、北陸新幹線沿線地域、交通事業者などとの連携・協力を深めていく必要があります。
- ・ 観光統計については、対象となる観光地の見直し等を適宜行ってきましたが、今後、観光客の動向やニーズ、リピート率など本県観光の実態把握を行い、精度を高めていく必要があります。

(3) 観光の人づくりの推進

- ・ 観光おもてなし研修や、観光ボランティアガイド養成講習などを実施したことにより、ボランティアガイド数は、平成20年度の336人から、平成25年度には384人となり、約3割増加しました。その一方で、ガイドの高齢化が進んでおり、若い人材の確保や、市町を越えた広域的な活動の促進が必要となっています。
- ・ 平成30年の福井国体を控え、県全体でのおもてなし活動や、まちの美化などのおもてなしの空間づくりを加速していくことが重要です。
- ・ 今後、観光を通じて地域の活性化を図るためには、観光産業やまちづくりを担う人材を育成するとともに、高校や大学においても、観光を学ぶ環境を整える必要があります。

(4) ターゲットに応じた観光誘客の拡大

- ・ 旅行会社による中高年や女性向けの旅行商品の造成への支援のほか、学生合宿誘致のための助成制度の設置などを進めた結果、特に教育旅行については平成20年の1.2万人から平成25年には約6倍の6.9万人となりました。今後、高速交通ネットワークの整備進展に伴い、対象エリアに応じた誘客を進める必要があります。
- ・ 海外からの誘客については、多言語の観光マップやPRビデオ、ホームページの作成のほか、ファミトリップの実施、国際旅行博への出展などにより、誘客拡大を図ってきましたが、外国人宿泊者数については伸び悩んでいます。今後、国・地域それぞれの特性やニーズに応じた誘客宣伝活動を強化するとともに、無料無線LANの整備など、外国人観光客の受入環境の整備を進める必要があります。

(5) 情報発信の強化

- ・ 福井県観光情報ポータルサイト「ふくいドットコム」を全面リニューアルし、旬の食情報や、動画による魅力発信、宿泊予約機能等を追加しました。
- ・ テレビ、新聞、雑誌等への本県観光地等の掲載を働きかけるとともに、「ふくい南青山291」に加えて、銀座に「食の國 福井館」を開設するなど、首都圏における魅力発信を強化しました。
- ・ 一方で、旬の話題など、観光地や宿泊施設等による発信力が十分ではなく、インターネット等を活用したタイムリーな情報発信を強化する必要があります。

(6) 「ふくいブランド」を活かした本県認知度の向上

- ・ 北陸新幹線の開業など、高速交通ネットワークの整備進展に伴い、本県への交通アクセスの利便性が向上する首都圏等を中心に、「恐竜」や「越前がに」を前面に打ち出した観光宣伝を展開してきましたが、本県の認知度はいまだ低い状況です。
- ・ 今後、さらに、「県民幸福度」日本一や福井ならではの歴史・文化、自然、食の魅力などを強く発信し、本県の認知度を高めることが重要です。

4 本県観光の主要課題

わが国の観光を取り巻く環境の変化、本県観光の現状、前計画の成果と課題等を踏まえ、これからの本県の観光振興を進めるに当たり、以下のような課題に対応していく必要があると考えられます。

(1) 地域間競争に打ち勝つ観光地の創造

各地域が観光振興に取り組む中で、厳しい地域間競争に打ち勝つためには、観光地の強みを極め、国内外から観光客を引き付け、他の追随を許さない観光地を創ることが必要です。

(2) 福井の魅力を活かした「核となる観光素材」への磨き上げ

全国的に低位にある本県の魅力度を高めるためには、本県が強みを持つ観光資源を、「美」や「学び」などのフィルターを通して磨き上げ、「核となる観光素材」として輝かせることが必要です。

(3) 広域連携の促進による発信力と周遊性の向上

認知度の向上や、観光客入込数、観光消費額をさらに増大させるためには、観光地を単品としてではなく、個々の素材を磨き上げ、自然、歴史・文化、産業、体験など、テーマごとに各観光地を結びつけることが重要であり、今後、広域的な連携を促進し、発信力の強化や周遊性を高めることが必要です。

(4) 多様なニーズに応じた戦略的な情報発信の強化

全国的に低位にある本県への関心を高めるためには、旅行形態の変化やエリアごとの特性を踏まえ、多様なニーズに応じた戦略的な情報発信を強化することで本県の魅力をより多くの人に伝え、観光意欲を喚起することが必要です。

(5) 観光客の満足度を高める地域づくりの推進

何度も訪れてもらう観光地とするためには、観光客の満足度を高める地域づくりを進め、「住んでよし、訪れてもよしの福井県」として観光客の心をつかむことが必要です。

(6) 選択と集中による外国人誘客の拡大

外国人の誘客を拡大するためには、重点市場となる国・地域を明確にした上で、効果的な観光プロモーションを実施するとともに、広域観光ルートの構築と受入環境の整備を進める必要があります。

第2章 福井県観光新戦略の基本理念と数値目標

1 基本理念

本格的な人口減少社会が到来している中で、地域活力の維持・向上を図るためには、国内外から多くの人を呼び込み、交流人口を拡大するとともに、県内の人々の自信と誇りを高め、「ふるさと愛」を醸成していくことが喫緊の課題となっています。

また、観光は交流人口を拡大し、地域経済の活性化につながることから、次世代の成長分野として期待されています。観光産業は、旅行業や宿泊業、飲食業、交通事業者といった分野だけでなく、製造業、農林水産業など幅広い分野に関連がある裾野の広い産業であり、観光消費による地域全体への生産波及効果や雇用創出効果が期待されます。

本県では、平成26年7月の舞鶴若狭自動車道「若狭さとうみハイウェイ」の全線開通や、平成27年3月の北陸新幹線の金沢開業など新たな高速交通ネットワークの整備が進展するとともに、平成30年の福井しあわせ元気国体・福井しあわせ大会や平成32年の東京オリンピック・パラリンピックの開催など、観光を取り巻く環境が大きく変化し、誘客拡大の絶好の機会を迎えています。

こうした中で、本県観光地が国内外の多くの観光客から選ばれ、満足してもらうためには、観光客をひきつける魅力的な観光地を作り上げるとともに、本県ならではの観光素材を磨き上げていく必要があります。

福井県には、自然の「美」、歴史や文化・伝統の「美」、食の「美」、心の「美」など、国内外に誇ることができ、輝きを放っている様々な「美」が各地に数多く存在します。また、様々な調査研究で「幸福度日本一」と評価を受けている県民の暮らしをはじめ、古くから培われてきた伝統文化や、多種多様な自然、恐竜や年縞といった地球の科学を学ぶ素材など、人を育て、人生を豊かにする「学び」の環境に恵まれていることも特徴です。

これらは、県民の誇りであり、ふるさとを愛する源にもなっていると言えます。このような本県の「美」や「学び」などを活かして、他の土地では味わうことができない「楽しさ」や「いやし」、「心のうるおい」、「知的好奇心の刺激」などの感動を与え、観光客が笑顔になる旅、心に残る旅を提供することにより、本県の観光を活気のある次のステージに引き上げます。

このため、「極める」、「輝かせる」、「繋げる」、「伝え、動かす」、「心をつかむ」、「世界から招く」の6つを基本戦略として、本県観光の振興を総合的かつ戦略的に推進します。

○福井県の「美」

福井県には、都会にはない、雄大な自然と四季折々の風景など人々を魅了する「美観」、里山里海湖が育んだ「^{さとやま さとうみ}美食」、繊細な技術と心意気が伝わる「美技」、心なごむ安らぎの「美湯」、訪れる人々をあたたかく迎える「美心」があります。

福井県にある日本の「ほんもののふるさとの美」に触れることで、感動を得たり、心身を潤し、幸せな（楽しく豊かな）気持ちになれます。

「美観」…断崖絶壁・世界三大奇勝で知られる「東尋坊」、軍事・政治・文化に優れた朝倉氏の歴史ロマンを感じることができる「一乗谷朝倉氏遺跡」、日本の原風景を楽しめる「里山里海湖」を代表する「三方五湖」など

「美食」…おいしいお米の代名詞でもある「コシヒカリ」、日本海味覚の王者「越前がに」、大根おろしがたっぷり入った冷たいダシをかけて食す「越前おろしそば」、身が良く締りプリプリと弾けるおいしさ「若狭ふぐ」、御食国若狭の雲上の珍美「若狭かい」など

「美技」…日本最初のお札用紙に採用され、美術界でも横山大観などの芸術家に支持された1500年の歴史を誇る「越前和紙」、日本六古窯に数えられる「越前焼」、国内外のトップシェフからも絶賛される「越前打刃物」など

「美湯」…立ち並ぶ約30軒の旅館では、湯元が違うことから、温泉の泉質・成分・効能の違いが楽しめ、温泉療法医がすすめる名湯百選にも選ばれている「あわら温泉」など

「美心」…嶺北地域は、浄土真宗とゆかりの深い「真宗王国」、「大本山永平寺」のお膝元であり、嶺南地域は大陸との交易で栄え、数多くの古刹や仏像があり、信仰心が篤く、人と人とのつながりを大切にしている人が多い。

○福井県の「学び」

福井県は、伝統的な精神文化に生まれ、恵まれた教育環境にあることなどから、児童生徒の学力・体力は日本トップクラスにあります。

県内では、観光客も大小様々な学びを楽しみながら体感できます。「五感+α」で知らず知らずのうちに、自分を磨き、人生を豊かなものにすることができます。

○本県の「学び」の要素

「恐竜」… 日本一の恐竜化石の発掘数を誇り、世界で3本の指に数えられる恐竜博物館がある。

「年縞」… 水月湖の堆積物層で、地質学・考古学上の年代測定のための世界標準となっている。

「大本山永平寺」… 日本曹洞宗の第一道場。道元禅師の禅や精進料理の心を学ぶ。

「若狭の文化財群」… 大陸と奈良や京都を結ぶ玄関口として栄え、古刹や仏像が密集している地域である。

「食育」… 福井県出身の石塚左玄が唱えた「身土不二」や地産地消に基づき食の大切さを学ぶ。

「児童生徒の学力」… 全国学力テストにおける都道府県別平均正答率の順位（平成26年 文部科学省）

小学6年 国語A 9位、国語B 3位、算数A 2位、算数B 2位

中学3年 国語A 2位、国語B 1位、数学A 1位、数学B 1位

「児童生徒の体力」… 全国体力テストにおける都道府県別体力合計点の順位（平成26年 文部科学省）

小学5年 男子 1位、女子 1位、中学2年 男子 1位、女子 1位

[観光資源や素材の磨き上げ]

福井県の魅力ある旅行商品を数多く造成していくためには、旅行事業者をひきつける観光素材を提供していく必要があります。本県には、美しい風景、豊かな食、伝統・文化、祭り、体験、工芸、暮らしなど、「福井にしかない」「福井ならではの」観光資源が地域に数多く埋もれています。

今後、こうした観光資源を掘り起し、磨き上げて、地域お勧めの観光素材として提供していくことが重要です。特に、「期間限定」や「初めて」実施することによりプレミアム感を高めたり、福井の「美」や「学び」を高める観点から付加価値を付けたり、素材を組み合わせるテーマ性やストーリー性を持たせるなど、地域の特色を引き出しながら特別な観光素材にしていきます。

このことは、県民が地域の魅力を再発見し、誇りと自信を持つことにつながります。また、地域の元気を引き出し、本県全体の魅力をさらに輝くものにします。

2 基本目標

指標	現状値 (平成25年)	目標値 (平成31年)
(1) 観光客入込数 ※1	1,034万人	1,300万人
(2) 観光消費額 ※1	836億円	1,200億円
(3) 観光客入込数100万人以上の観光地数 ※1	1か所	5か所
(4) 教育旅行受入数 ※2	6.9万人	10万人
(5) 外国人宿泊者数 ※3	2.8万人	10万人

※1 「福井県観光客入込数（推計）」（県観光振興課調べ）

※2 「教育旅行調査」（県観光振興課調べ）

※3 「宿泊旅行統計」（観光庁）

[目標設定の考え方]

(1) 観光客入込数（実人数）

・地域社会を活性化させるための交流人口の増加を計る指標

発地	現状値 (平成25年)	目標値 (平成31年)	備考	
県内	578万人	700万人	嶺北・嶺南の交流促進等により20%増	
県外	関西	192万人	230万人	観光素材の磨き上げ等により20%増
	中京	124万人	148万人	〃
	関東	30万人	60万人	プロモーションの強化等により倍増
	北陸	79万人	95万人	観光素材の磨き上げ等により20%増
	その他	31万人	67万人	観光素材の磨き上げ、外国人誘客拡大等により倍増
計	456万人	600万人		
合計	1,034万人	1,300万人		

(2) 観光消費額

・地域経済を活性化させるための経済効果の波及を計る指標

現状値 (平成25年)	目標値 (平成31年)	増加	備考
836億円	1,200億円	約44%増 (364億円増)	<ul style="list-style-type: none"> 観光客入込数3割増 宿泊増や新たな観光土産品、サービスの開発により観光客1人1日当たり1,000円の観光消費額の増

(3) 観光客入込数100万人以上の観光地数

・県内各地において集客力の高い魅力的な観光地を創る指標

現状値 (平成25年)	目標値 (平成31年)	増加	備考
1か所	5か所	4か所増	<ul style="list-style-type: none"> 観光地のまちなみ整備を県内7か所で推進 すべての市町で全国に誇れる地域づくりを進め、地域の魅力を高め、集客を拡大 観光素材の磨き上げとともに、北陸グスティネーションキャンペーン等の誘客宣伝を強化

(4) 教育旅行受入数

・学生合宿、体験学習、修学旅行等の教育旅行の増加を計る指標

現状値 (平成25年)	目標値 (平成31年)	増加	備考
6.9万人	10万人	3.1万人増	・学生合宿 5.9万人→8.4万人 40%増 ・体験学習等 1万人→1.5万人 50%増 ・海外からの教育旅行 200人→1,000人

(5) 外国人宿泊者数

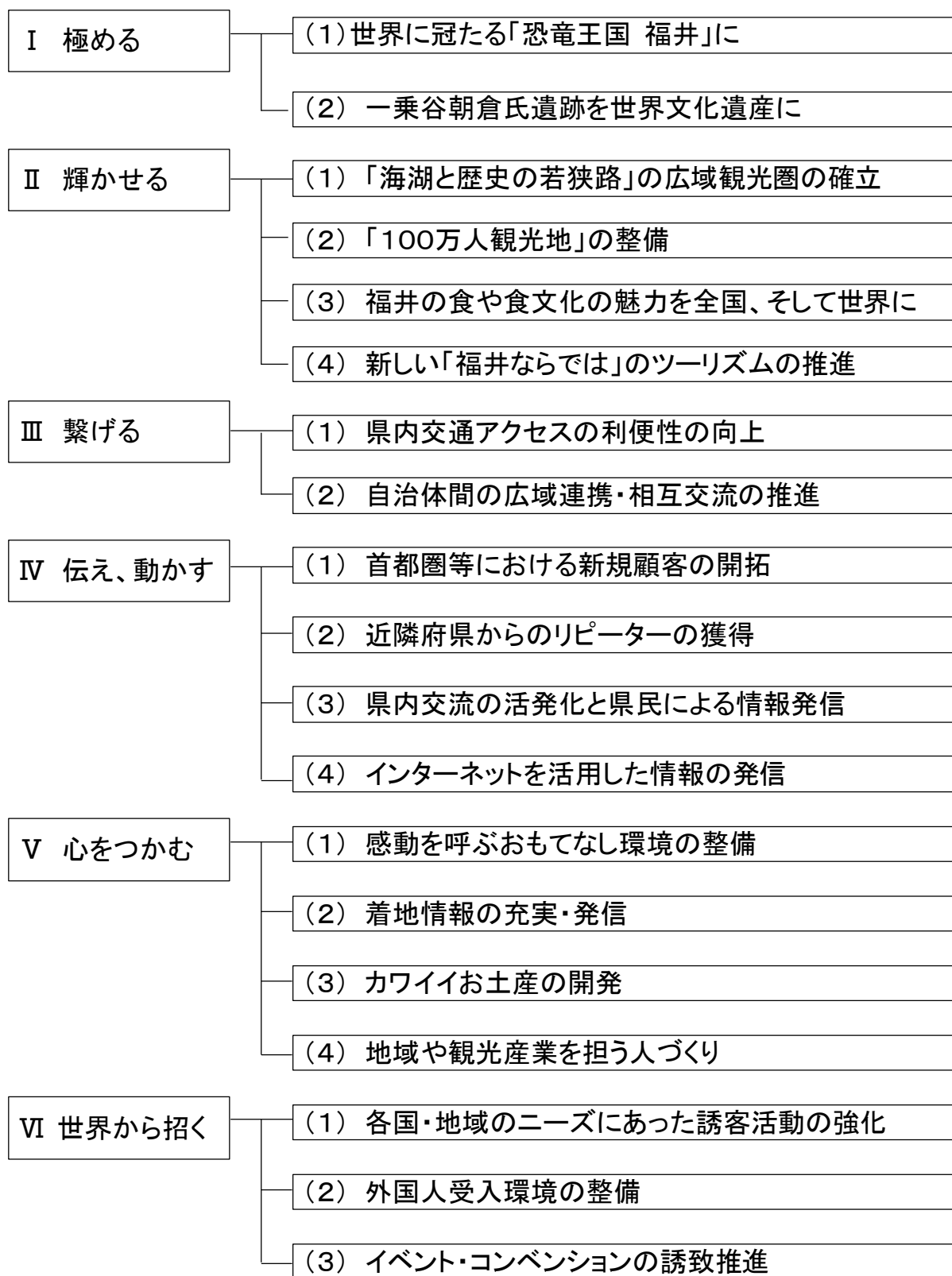
・外国人の誘客拡大を計る指標

国・地域	現状値 (平成25年)	目標値 (平成31年)	備考
中国	4,550人	21,000人	現状値の4倍以上
香港	2,680人	13,000人	〃
台湾	9,710人	40,000人	〃
シンガポール	540人	2,000人	〃
タイ	210人	1,000人	〃
その他	10,770人	23,000人	現状値の2倍以上
合計	28,460人	100,000人	

3 計画期間

平成27年度～平成31年度（5年間）

4 戦略プロジェクトの体系



第3章 戦略プロジェクトの展開

基本戦略1 極める

日本一の恐竜研究機関である福井県立恐竜博物館を核に築いてきた福井県のダントツ日本一ブランド「恐竜」と、我が国最大の戦国城下町の遺構「一乗谷朝倉氏遺跡」の強みを極め、他の追随を許さない、誰もが認める観光地を創ります。

(1) 世界に冠たる「恐竜王国 福井」に

現状と課題

- ・ 恐竜博物館は、平成21年度44万人であった入館者数が、平成25年度には70万人を超えるようになりましたが、全国的には「恐竜王国 福井」の認知度はまだまだ低い状況です。
- ・ 入館者の約9割は県外からですが、他の観光地への周遊につながっていません。
- ・ 冬季間（12月～2月）における入館者は年間の1割程度であり、年間を通じた入館者の平準化を図る必要があります。
- ・ 平成26年2月に福井県公式恐竜ブランド「Juratic」を発表し、関連商品の開発を進めていますが、まだまだ商品数、売上ともに低い状況にあります。

※東京駅アンケート調査結果（H25.8）（県観光振興課調べ）

- ・ 恐竜博物館の認知度 27%（東尋坊 80%、大本山永平寺 73%、あわら温泉 40%）

※来館者アンケート調査結果（H26.8～10）（県立恐竜博物館調べ）

- ・ 日帰り客の他の観光地への立寄り割合 15.3%

※「Juratic」関連商品（H26.12末現在）（県ブランド営業課調べ）

- ・ 商品数 74 商品、194 アイテム
- ・ 売上規模 約 3,200 万円

[方向性・目指す姿]

世界トップレベルの学術研究レベルを誇る恐竜博物館の研究成果を活かし、恐竜や地球の科学を子どもから女性、高齢者、外国人など誰もが楽しむことができる、そしてわかりやすく学べる、世界一のエデュテイメント（学ぶ education＋楽しむ entertainment）恐竜博物館にし、入館者100万人以上を目指します。

また、「恐竜王国 福井」を国内外に発信するとともに、恐竜博物館を核に、奥越地域の自然体験等と組み合わせた滞在型観光や、県内の観光地を巡る周遊観光を推進します。

<恐竜博物館のレベルアップと長尾山総合公園の魅力の向上>

⑨ 誰もが楽しみ学べるエデュテイメント機能の強化

- ・第2恐竜博物館の整備も視野に入れ、3D映像や動く恐竜ロボットなどを駆使した迫力ある恐竜世界の体験施設、ミュージアムショップやレストラン等を充実するとともに、多言語の音声ガイドシステムや展示解説員等によるガイド機能を強化します。【県、民間】

⑩ 学術・研究機能の強化

- ・恐竜化石発掘調査や国内外の共同発掘調査・研究を継続して進めるとともに、アジア6か国で構成する「アジア恐竜協会※」の中心的役割を担い、アジアにおける恐竜研究の拠点としての地位を確立します。【県】

※アジア恐竜協会 平成25年7月にアジア6か国（日本、中国、モンゴル、タイ、ロシア、韓国）で設立した組織で、若手研究者への支援、企画展などの共同開催、恐竜研究の情報発信等を行っており、事務局を福井県立恐竜博物館に置いている。

- ・福井県立大学恐竜学研究所においては、恐竜博物館と連携しながら国内外の研究機関との学術交流を推進し、研究のレベルアップを図るとともに、次世代を担う研究者の育成等を行います。【県】
- ・恐竜博物館の学術性を高めるとともに、本物による魅力の向上を図るため、新たな全身骨格化石等を購入し、組立工程の公開も含め展示のスケールアップを図ります。【県】
- ・小中学生に恐竜や地球の科学をわかりやすく学んでもらうため、学年に応じた展示解説員による解説、新たな学習ビデオの制作、学校への出前授業等を行います。【県】

⑪ 長尾山総合公園（かつやま恐竜の森）の総合的な魅力アップ

- ・恐竜博物館がある長尾山総合公園の新たな魅力アップを図るため、恐竜をテーマに、アミューズメント性を備えた施設の整備を進めます。【市町、民間、県】
- ・恐竜博物館入館者の利便性の向上を図るため、公園内の駐車場やアクセス道路等の整備を進めます。【市町、県】

⑫ 恐竜博物館を恐竜ファンの「聖地」に

- ・恐竜博物館を恐竜ファンの「聖地（最高峰の地）」として全国に発信し、小・中・高校生を対象にした恐竜の知識などを競う「恐竜甲子園（仮称）」等を開催します。【県、民間】

④ 入館者の平準化とリピーターの拡大

- ・冬期間の入館者の増加を図るため、民間企業とのコラボレーションによるアミューズメント性の高い企画展や展示解説員によるきめ細かなガイドツアーを拡充します。
【県、民間】
- ・新たな話題を常に提供し、恐竜博物館へのリピーターを拡大するため、最新の研究成果等を発表する特別展示を定期的実施するほか、年間パスポート会員に対する特典の充実などを行います。【県、民間】

<「恐竜王国 福井」の国内外への発信の強化>

④ 民間との連携等によるプロモーションの展開

- ・大都市圏における恐竜展や全国各地でのミニ恐竜展への骨格標本の貸出し、話題性のある恐竜映画とのコラボレーション等により、「恐竜王国 福井」を発信します。
【県、民間】
- ・海外での観光プロモーションにおいて、福井県の魅力と併せて、「恐竜王国 福井」をアピールします。【県】

④ 「Juratic」を活用したプロモーションの強化

- ・福井県公式恐竜ブランド「Juratic」を活用し、恐竜博物館をはじめ、県内外の大型集客施設や地域でのイベント、観光宣伝への参加などにより、「恐竜王国 福井」を全国に発信し、「Juratic」のファンを拡大します。【県】

<集客力の県全域への波及>

④ 恐竜トレインや恐竜バスの運行、オフィシャルホテル等の整備

- ・「恐竜王国 福井」の認知度を向上し、恐竜博物館等へ向かう観光客のワクワク感を高めるため、恐竜ラッピング電車やバス等を運行します。【民間、県】
- ・県内宿泊施設において、恐竜をモチーフとした客室の整備、食事の提供等を促進し、「恐竜王国 オフィシャルホテル」として認定します。【民間、県】
- ・恐竜モニュメントや大型フラッグ、恐竜ベンチ等を県内主要駅や道の駅、主要道路沿いに設置するなど、県内全域で「恐竜王国 福井」をアピールします。【県、市町、民間】

④ 奥越地域の自然体験等と組み合わせた冒険ツアーの造成

- ・勝山市や大野市における恐竜やアンモナイト等の化石発掘、まち歩き、ジオパーク、自然、歴史文化、農林業等の体験プログラム、宿泊施設等を組合せ、奥越地域の魅力を体感できるツアーを充実します。【民間、市町、県】
- ・子ども向け化石教材や化石紹介DVD作成、化石アドバイザーの養成などにより、小・中学生の遠足を誘致します。【市町】

④ 「福井ならではの」子ども向け体験の活用

- ・えちぜん鉄道での電車運転体験、芝政ワールドでの日本海の自然の体験、越前松島水族館での見学、嶺南地域での魚さばき体験など、子どもたちが楽しめる様々な体験を活用し、恐竜博物館から県内全域への周遊観光を促進します。【民間、市町、県】

④ 嶺南地域でのミニ恐竜展の実施

- ・嶺南地域での恐竜展の開催や市町が実施する集客イベントに恐竜骨格標本等を貸し出すことにより、恐竜ファンを増やすとともに、嶺南への誘客を促進します。【市町、県】

<恐竜ビジネスの拡大>

④ 「Juratic」等を活用した福井発の恐竜グッズの全国展開

- ・県内外の企業とのコラボレーションにより、話題となるグッズや全国流通商品を開発し、県内のみならず、全国の流通店舗等での販売を促進します。【民間、県】

④ 恐竜博物館のコレクションの活用

- ・恐竜骨格標本や恐竜フィギュアの県内外のイベント等への貸し出しを広げていくとともに、恐竜グッズ製作の監修などによるビジネスを拡大します。【県】

④ 恐竜関連産業の集積の促進

- ・恐竜のフィギュアやロボットの製造、イベント等を実施する恐竜工房等の誘致を推進し、関連産業を集積させます。【民間、市町、県】

(2) 一乗谷朝倉氏遺跡を世界文化遺産に

現状と課題

- ・ 現在、一乗谷朝倉氏遺跡は、山城跡を含む278haが国の特別史跡、遺跡内の諏訪館跡庭園など主要な4庭園が特別名勝に指定されています。さらに、遺跡出土品2,343点が重要文化財に指定されるなど、国内有数の文化的価値の高い貴重な遺跡です。
- ・ 一乗谷朝倉氏遺跡の観光客は、テレビCMのロケ地として取り上げられた効果もあり、平成23年には、一時的に50万人台から94万人に達しましたが、平成25年には70万人を下回りました。
- ・ 全国唯一の中世の城下町遺構がそのまま残る他に類例のない大規模遺跡であり、観光地としてのポテンシャルは非常に高いものの、遺跡の全体像や歴史的価値を紹介する場、遺構をそのまま見学できるところが少ないことから、見学者にその貴重さなどの価値が伝わりにくく、歴史的空間としての魅力を体感することが難しい状況にあります。
- ・ JR福井駅から約10km離れており、公共交通アクセスが不十分となっています。

※観光客アンケート調査結果 (H25) (県文化振興課調べ)

- ・ 滞在時間 1時間未満の滞在が約60%
(主な見学コースは「復原町並」「唐門・朝倉館跡」「諏訪館跡庭園」)
- ・ 自由意見
 - ・ 自然が素晴らしい
 - ・ 見学施設や解説が少ない
 - ・ 戦国時代の城下町をイメージしづらく楽しめない
 - ・ 飲食・休憩スペースが少ない など
- ・ 交通手段 自家用車8割以上、公共交通機関利用1割未満、その他(レンタカー、タクシー、自転車など)

[方向性・目指す姿]

一乗谷朝倉氏遺跡のさらなる調査研究を進め、世界文化遺産への登録を目指します。

また、戦国城下町の日本一のフィールドミュージアムとして、スケール感のある歴史的空間の整備を進めるとともに、観光客に遺跡の魅力が分かりやすく、また楽しみながら一乗谷の歴史や文化が学べるように、展示・ガイダンス機能を強化した拠点施設の整備を行い、本物の魅力や歴史的価値を国内外に発信し、100万人以上の観光客を呼び込みます。

⑨ 世界文化遺産登録に向けた取組み

- ・山城や遺跡周辺部などのさらなる研究調査による新たな発見や特別史跡区域の拡大、関係資料の重要文化財指定などを進め、一乗谷朝倉氏遺跡の文化財としての価値を向上し、世界文化遺産への登録を目指します。【県、市町】
- ・登録に当たっては、構成資産として、周辺の大本山永平寺や白山平泉寺などを含めた文化遺産群についても検討を進めます。【県、市町】

⑩ 全国の中世研究の拠点、遺跡観光のゲートウェイとなる「博物館」の整備

- ・全国レベルの中世の研究拠点として、研究・収蔵機能を充実・拡大し、研究者の受入や交流の推進、研究の高度化を図ります。【県、市町】
- ・遺跡の玄関口に、遺跡の全体像や価値を分かりやすく知ってもらえるビジターセンターとしての「一乗谷朝倉氏遺跡博物館（仮称）」を整備します。【県、市町】
- ・遺跡景観の保全のため、博物館に隣接して大型駐車場を整備し、パークアンドライドの導入による遺跡内への車の乗入れを抑制します。【県、市町】

⑪ 本物の歴史空間としての遺跡の魅力向上

- ・特別名勝庭園の再生や復原町並の拡充【県、市町、民間】
室町時代の庭園が日本で唯一そのまま残る特別名勝庭園の再生や復原町並の拡充・活用など、朝倉ならではの見どころの整備・活用を進めます。
- ・イメージが広がる“見える化”の推進【県、市町、民間】
一乗谷全体が巨大な城塞都市であったことをイメージできるよう、遺構の露出展示による“見える化”や戦国時代の一乗谷が楽しめるAR（拡張現実、Augmented Reality）システム、山城の立体復原、眺望ポイントの整備を進めます。
- ・往時の歴史が感じられる大景観の創造と回遊性の向上【県、市町、民間】
山際の美化や当時の植生による草木の植栽など遺跡と調和した大型の景観づくりを進めるとともに、これと併せた周遊道の整備や誘導の強化等を図り、快適な回遊環境の整備を進めます。
- ・遺跡内の利用サービスの向上【県、市町、民間】
遺跡案内ガイド、周遊手段、食・土産物の充実を図るほか、復原町並を中心に戦国の生活実演や体験プログラムを提供するなど、遺跡観光をより楽しんでもらうためのソフトを強化します。
- ・朝倉レストラン（仮称）の整備【市町、民間】
遺跡内の風情を楽しめるしつらえの中で、地元の食材等を使った料理を提供する「朝倉レストラン（仮称）」を整備します。

④ 本物の魅力や歴史的価値の発信

- ・観光資源としての価値も高め、一乗谷朝倉氏遺跡に対する県民の意識の向上を図るとともに、その本物の魅力や歴史的価値を国内外に積極的に発信します。【県、市町、民間】
- ・一乗谷朝倉氏遺跡の歴史的価値を広く発信するため、書籍化や映像化を進めます。【県、市町】

⑤ 交通アクセスの向上や周遊観光の推進

- ・JR福井駅からのアクセスを向上させるため、乗合タクシープランの新設やシャトルバスの増便などを行うとともに、福井インターチェンジ等からの誘導を強化します。【民間、市町、県】
- ・周辺観光地である大本山永平寺、大野まちなか、白山平泉寺、丹南地域の伝統工芸品産地のほか、嶺南地域の金ヶ崎城跡（敦賀市）、国吉城跡（美浜町）などの合戦の舞台や若狭武田氏関係史跡（小浜市）など、戦国ゆかりの文化遺産をストーリーでつなぎ、テーマ性のある周遊観光を促進します。【県、市町、民間】

⑥ 一乗谷朝倉氏遺跡の整備、活用体制の強化

- ・県や福井市、地域団体等の役割や業務を見直し、遺跡を円滑に整備、管理・活用する体制を強化します。【県、市町】

基本戦略2 輝かせる

舞鶴若狭自動車道「若狭さとうみハイウェイ」の全線開通を機に、県と嶺南6市町が連携して進めてきた「海湖と歴史の若狭路」の魅力づくりをさらに進める必要があります。

さらに、観光客をひきつけ、観光産業の振興を図るため、東尋坊、あわら温泉、大本山永平寺をはじめとして、県内各エリアで「100万人観光地」を創出するとともに、「福井にしかない」、「福井ならではの」の歴史・文化、自然、食、暮らしなどの観光素材を輝かせ、新しいツーリズムを推進します。

(1) 「^{うみ}海湖と歴史の若狭路」の広域観光圏の確立

現状と課題

- ・ 若狭路には、三方五湖や若狭湾、瓜割の滝などに代表される美しい自然・景観、古くから大陸の玄関口である港、「都」文化との交流を背景とした多くの歴史的・文化的遺産や、若狭塗箸などの伝統工芸、新鮮な魚介類などの食や御食国として育まれた食文化など、全国に誇る魅力があります。
- ・ 平成26年7月に全線開通した舞鶴若狭自動車道「若狭さとうみハイウェイ」を活用して、嶺南・嶺北両地域の一体化や、若狭路の魅力についての認知度向上、県内外からの誘客をさらに拡大する必要があります。
- ・ 観光客にもう一足伸ばしてもらい、地域内での周遊観光を促進し滞在時間を延ばすことや、宿泊者数を増やすなどして、観光消費額をアップさせ、若狭路の地域活性化に結び付けていくことが重要です。

※舞鶴若狭自動車道「若狭さとうみハイウェイ」 平成26年7月20日全線開通
京都縦貫自動車道 平成27年7月 全線開通予定

※H25嶺南6市町の観光客入込数（のべ人数） 7,328千人（県全体の30.1%）

※嶺南6市町の宿泊施設数 533施設、収容人員23,066人（1施設当たり43.3人）

[方向性・目指す姿]

若狭路が有する貴重な資源や特性を活かした地域づくりを推進するとともに、市町間や近隣府県等との共同PR事業などにより、自然や歴史・文化、食などに触れ合うことができる「海湖と歴史の若狭路」という広域的な観光圏を確立します。

④ 自然や歴史・文化等を活かした観光・交流拠点の整備

- ・各市町において、自然、歴史・文化、伝統工芸、農林水産業を活用した観光・交流拠点の整備を進めるとともに、これら観光施設や周辺観光地との相互連携により周遊観光・滞在型観光を推進します。【市町、県】

④ 「海湖と歴史の若狭路」の魅力発信の強化

- ・県と嶺南6市町、民間事業者等が連携し、新たな広域観光ルートの開発やイベント開催時期の調整、県内外での共同出向宣伝などにより、魅力の発信を強化し、誘客拡大とリピーターの確保につなげます。【市町、県、民間】
- ・舞鶴若狭自動車道「若狭さとうみハイウェイ」や平成27年7月全線開通予定の京都縦貫自動車道などを活用し、北近畿エリアでの周遊観光を促進するため、近隣府県等と連携して魅力を発信します。【県、市町】

④ 海湖の体験や「年縞^{ねんこう}」を活かしたツアーの充実

- ・若狭路における体験メニューを拡充し、漁家民宿への分散宿泊等により、小・中学生などの教育旅行を誘致促進するとともに、受入体制を整備します。【市町】
- ・定置網、魚釣りなど漁師体験プログラムを開発するほか、獲った魚を自分で調理して食べるなど、食を学ぶツアーを充実させます。【市町】
- ・学術的に貴重な水月湖「年縞」の魅力を、わかりやすく学べるツアーを造成します。【県、市町】
- ・県里山里海湖研究所の「福井ふるさと学びの森」での森の手入れや「かや（ヨシ田）」の手入れなど、自然環境をテーマにした教育旅行を推進します。【県、市町】

④ 花と光をテーマにした新たな観光地づくり

- ・梅、山桜、あじさい、ひまわり、コスモス、紅葉、椿など、若狭路各地で四季を通じて花が楽しめる観光を促進します。【市町】
- ・若狭湾に沈む夕日やイカ釣り船の漁火をはじめ、歴史的まちなみや寺社仏閣等のライトアップ、花火大会、大火勢、イルミネーション等の光のイベントなど、光をテーマにした観光を推進し、宿泊客の増加を図ります。【市町】

④ 若狭路の「歴旅」の推進

- ・普段見られない仏像、庭園、史跡の特別公開や伝統的な民俗芸能と、郷土料理の提供などを組み合わせたガイド付きバスツアーなど、季節限定の「歴旅」を造成します。【県、市町】

- ・小浜西組や熊川宿など歴史を感じる伝統的な景観を活用し、まち歩き観光を促進します。【市町、県】
- ・土木遺産に認定された旧北陸本線隧道群を活用し、今庄宿や敦賀赤レンガ倉庫などの周辺の観光地を宿泊付きで巡ります。【県、市町】

⑨ 若狭と都を結ぶ往来文化遺産群を活かした観光の推進

- ・古来、御食国と呼ばれた若狭と都をつないだ交易の道、文化の道であった「鯖街道」沿いに集積している有形・無形の文化財を活かして、鯖街道をテーマにした観光ツアーや鯖街道トレイルの構築などによる観光誘客を推進します。【民間、市町、県】

⑩ 「地魚の聖地 若狭路」を活かした食ツーリズムの推進

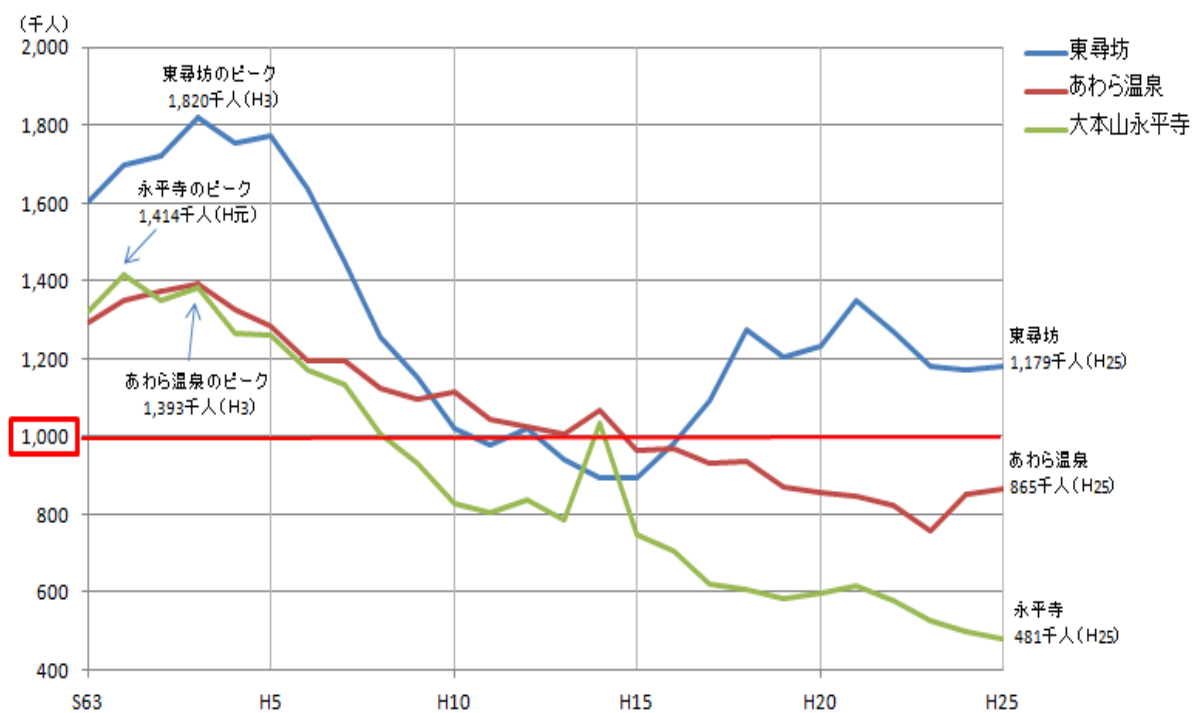
- ・御食国や鯖街道、昆布ロード、若狭塗箸といった日本の食文化を支えた歴史を前面に打ち出すとともに、若狭湾の若狭ふぐ・ぐじ・かれいなどの新鮮な魚介類を満喫する「若狭もんツアー（若狭のうまいもんツアー）」を提供します。【市町】
- ・「若狭路ご膳」、「若狭路海鮮どんぶり」を、気軽に楽しめる若狭の海鮮グルメとして、関西・中京を中心にPRを強化します。【民間、県、市町】
- ・新鮮な魚介類を販売するテント市や競り見学会などのイベントを定期的で開催します。【市町】

(2) 「100万人観光地」の整備

現状と課題

- 福井県を代表する観光地である東尋坊、大本山永平寺、あわら温泉については、平成25年には、東尋坊がピーク時の182万人から118万人に、大本山永平寺は141万人から48万人に、あわら温泉は139万人から87万人になっています。
- 東尋坊、大本山永平寺、あわら温泉は、本県観光をリードしてきた「100万人観光地」であり、全国的な知名度も高いことから、まずは、これらの観光地のレベルを高め、誘客拡大を図ることが重要です。
- また、県内各エリアには、「福井ならではの」魅力的な観光地や、自然、歴史・文化、食などの県内外に誇ることができる観光資源が数多く存在しますが、十分な誘客につながっていない状況です。
- 今後、高速交通ネットワークの整備進展による本県への誘客拡大が見込まれる中で、こうした観光地等を活かして、地域経済の活性化を図っていくためには、エリアごとに集客力のある核となる観光地を県、市町、観光団体、民間事業者等が連携して創り上げていく必要があります。

※東尋坊、大本山永平寺、あわら温泉の入込数の推移



(県観光振興課調べ)

※北陸三県の主要観光地の入込数（H25）

（単位：千人）

	福井県	石川県	富山県
1位	東尋坊（坂井市） 1,179	兼六園（金沢市） 1,703	富岩運河環水公園（富山市） 1,265
2位	あわら温泉（あわら市） 865	金沢21世紀美術館（金沢市） 1,478	道の駅「氷見」 氷見漁港場外市場 ひみ番屋街（氷見市） 1,250
3位	西山公園（鯖江市） 824	金沢城公園（金沢市） 1,008	海王丸パーク（射水市） 1,002
4位	恐竜博物館・かつやま 恐竜の森（勝山市） 733	和倉温泉（七尾市） 926	立山黒部アルペンルート（立山町） 958
5位	一乗谷朝倉氏遺跡（福井市） 670	千里浜（宝達志水町、羽咋市） 856	道の駅「福光」（南砺市） 916

（出典：各県観光統計）

[方向性・目指す姿]

全国的に知名度が高い東尋坊、あわら温泉、大本山永平寺については、それだけで目的地となる観光地であり、さらなるレベルアップを図ることにより、国内外から観光客を呼び込みます。

また、県内各エリアの主要観光地をハード・ソフト両面から磨き上げ、さらに魅力を高めることにより、100万人以上の集客力のある「100万人観光地」を創出します。

④ 東尋坊、あわら温泉、大本山永平寺のレベルアップ

- ・全国的な知名度が最も高い東尋坊については、商店街の空き店舗の活用や夕陽を活かしたイベントの実施等により魅力を高めるとともに、周辺の三国湊や雄島、越前松島水族館などとの連携を深め、県内最大の観光地として、さらなるレベルアップを図ります。【市町、民間、県】
- ・平成27年に開湯130周年を迎える、あわら温泉については、温泉情緒あふれるまちなみを整備するとともに、温泉地全体でのおもてなしの向上や集客力のあるイベントの開催など、県内随一の温泉地としての魅力を高めます。【市町、民間、県】
- ・770年の歴史を誇る大本山永平寺については、禅の精神を活かし、訪れた人々に感動と癒しを与える空間として、旧参道の再生をはじめ、周辺の景観整備等を進めます。【市町、民間、県】
- ・こうした観光地と県内外の主要観光地を結び付けて、広域観光を推進し、国内外からの誘客を拡大します。【市町、民間、県】

① 東尋坊・三国湊周辺（188万人）

※東尋坊(117.9万人)、越前松島水族館(29万人)、芝政ワールド(33.9万人)、三国湊散策(7.6万人)の合計

例 東尋坊における「日本の夕陽百選」を活かしたイベントの拡充
東尋坊商店街等の空き店舗を活用したアートイベントの開催、カフェ・雑貨屋
など女性向けのおしゃれな店舗の誘致
東尋坊におけるスマートフォンなどを活用した解説の多言語表記やバリアフ
リー対策の促進
海産物や坂井北部丘陵地の農産物を活かした和膳の開発や食イベントの開催
雄島周辺での海女さん体験の充実
ボテさん（魚売り）による三国湊きたまえ通りでの朝市の復活
三国湊の町家を保存・活用したゲストハウス、ショップ等の開業
周辺の観光施設（越前松島水族館、芝政ワールド等）と連携した誘客PR

ほか

② あわら温泉（87万人）

例 浴衣でまち歩きしたくなる温泉情緒あふれるまちなみの整備
「芦湯」と連動した湯のまち広場での定期的な参加型イベントの開催
地元の旬の食材を使った料理や地酒など食によるおもてなしの向上
年間を通じたあわら・三国温泉泊覧会（オンパク）での体験イベントの充実
海外からの誘客に向けた温泉旅館の施設・設備のレベルアップ
JR芦原温泉駅前の観光拠点の整備やあわら湯のまち駅を起点とした散策
ルートの開発
周辺観光地との連携による情報発信の強化や二次交通アクセスの充実

ほか

③ 大本山永平寺（48万人）

例 凜とした雰囲気の中、ゆっくりと禅の心に触れることができる旧参道の環境整
備や門前の景観整備
広域的な観光案内所の整備
自動車乗り入れの制限による門前商店街の賑わい創出
大本山永平寺の精進料理や朝課（朝のおつとめ）の体験
坐禅、写経等の体験メニューの充実
地元の川魚や地酒を提供する交流拠点の整備および周遊ルートの開発

ほか

（注）入込数は「福井県観光統計（県観光振興課調べ）」平成25年のデータ

④ 新たな「100万人観光地」の創出

- ・ 県内各エリアの豊かな自然や景観、歴史遺産・文化施設、伝統産業・農林水産業などの観光スポットや体験型交流施設などを核に、周辺の魅力ある観光資源を結び付けて、各エリアをハード・ソフト両面から磨き上げ、新たな「100万人観光地」を創出します。【市町、民間、県】

① 福井まちなか（57万人） ※養浩館庭園(5.3万人)、福井市立郷土歴史博物館(6.5万人)等の合計

例 自然史博物館分館や観光案内所、観光物産館の整備など、福井駅西口再開発ビル内における「にぎわい交流拠点」の形成
駅舎の巨大壁画の設置など福井駅における恐竜ブランドの発信
福井城址や養浩館庭園、グリフィス記念館、由利公正広場、愛宕坂など幕末福井の歴史を活かしたまちなか観光ルートの開発
城址、中央公園などを一体化した「福井城址公園」の整備
浜町界隈での料亭街に相応しい景観整備と食を活かした賑わいの創出
足羽川における親水空間の創出

ほか

② 吉崎・北潟湖・丸岡城・竹田周辺（61万人）

※吉崎御坊跡(7.5万人)、北潟湖畔(14.4万人)、丸岡城(35.2万人)、竹田・たけくらべ(3.4万人)の合計

例 宗教文化を核とした吉崎御坊の賑わい再生
越前加賀県境の館を活用した情報発信の強化
北潟湖畔でのカヌーやサイクリング、淡水釣りなどの体験観光の推進
金津創作の森での企画展やガラス作り体験等の充実
丸岡城の遺構および一筆啓上資料館（仮称）を活用した周辺の整備
JR丸岡駅から丸岡城へのアクセスの向上
旧竹田小学校、たけくらべ広場、メロディーパークを一体としたエリア整備
吉崎御坊、北潟湖畔、金津創作の森、坂井北部丘陵地における農業体験、ゆりの里公園、児童科学館、丸岡城、しだれ桜の里 竹田、竹人形の里等を組み合わせた周遊観光ルートの整備

ほか

③ 大野まちなか・六呂師高原（68万人）

※大野まちなか観光(57.4万人)、六呂師高原(10.8万人)の合計

例 天空の城「越前大野城」の再整備と情報発信の強化
町家の保存・再整備などまちなみ景観や湧水の保存と活用
市民所有の美術品や昔のまちなみの写真等を集めたまちなかプチ美術館等の整備
四季折々に開催するイベントの拡充、まちなか遠足や農林業体験学習の誘致促進
自然やスポーツ、レクリエーションを通年で楽しめる六呂師高原の活性化（奥越高原牧場や自然保護センターなどの既存施設の活用や連携、宿泊施設や周遊環境の整備等）

ほか

④ 勝山まちなか・越前大仏・白山平泉寺周辺（37万人）

※ゆめおーれ勝山（12万人）、白山平泉寺（12.6万人）、越前大仏・勝山城博物館（12.6万人）の合計

例 白山平泉寺大門周辺観光振興拠点を核にした散策
史跡見学会（白山平泉寺旧境内～南谷発掘整備地）の実施
ガイドンス施設白山平泉寺歴史探遊館「まほろば」の展示等の充実
越前大仏・勝山城博物館周辺の散策と賑わいの創出
旧料亭花月楼や大清水、本町通り界限、ゆめおーれ勝山など、勝山まちなか観光の推進

ほか

⑤ 越前海岸（66万人）

※越前町、南越前町の越前海岸の合計

例 ダイビングや海水浴、磯遊び、船釣りなどのマリンアクティビティの充実
「浜の活井」などの新鮮な魚介類を活かした料理の提供
大都市圏における越前がにや越前水仙の集中的なプロモーションの実施
越前がに・水仙シーズンにおけるJR武生駅や鯖江駅からの観光バスの運行
道の駅「越前」、水仙の里、北前船主の館・右近家等の周遊観光の促進

ほか

⑥ 西山公園（82万人）

例 桜、つつじ、もみじなどのライトアップ等景観整備
歴史公園としての価値を伝えるガイドの育成と散策ルートの充実
西山動物園のレッサーパンダグッズの充実
道の駅「西山公園」を活かしたカフェやご当地グルメの開発
周辺商店街との連携による食べ歩きメニューの充実

ほか

⑦ 丹南の伝統工芸・地場産業産地（40万人）

※うるしの里会館（10.7万人）、越前和紙の里（9.9万人）、越前陶芸村（10.5万人）、めがねミュージアム（7.9万人）等の合計

例 伝統的工芸品（越前漆器、越前和紙、越前打刃物、越前焼、越前箆笥）の歴史
や価値の発信強化と産地を紹介できるガイドの育成
和紙の文化博物館のリニューアル、作業が見学できる工房の「見える化」
本格的に職人から教わる修行体験観光の造成
各産地が連携した話題性のある新しい商品の開発
伝統的工芸品を活かした新たな食の開発や「粋な暮らし」の提案
眼鏡の聖地のシンボル「めがねミュージアム」での世界に一つしかない自分だけの眼鏡づくり体験等の充実
やまぎわ天下一街道を活用した周遊観光の推進

ほか

⑧ 武生まちなか・南越前町・池田町（４１万人）

※たけふ菊人形（８．８万人）、蔵の辻界隈・万葉菊花園・紫式部公園（１１．９万人）、花はす公園・そまやま・今庄宿（１３．９万人）、冠荘・かずら橋（６．７万人）の合計

例 武生まちなかの景観の整備

「たけふ菊人形」の展示・催事の拡大と情報発信の強化

今庄宿での宿場町の歴史を活かしたまちなみ景観整備やガイド機能の充実

広域観光案内や県産品販売の充実

右近家・中村家など北前船の歴史空間の整備

池田町での木と森を活かしたレクリエーション施設や木育拠点施設の整備

ほか

⑨ 敦賀金ヶ崎周辺（８０万人）

※金崎宮（１３．５万人）、氣比神宮（６２．４万人）等の合計

例 赤レンガ倉庫を活かした鉄道と港のジオラマ館、レストラン館の整備

金ヶ崎緑地周辺の一体的景観（駐車場、路上植栽等）および夜景景観の整備

市立博物館のリニューアルおよび金ヶ崎～博物館通り～氣比神宮での散策促進

と、それによる周辺商店の活性化・新規店舗開業の促進

赤レンガ倉庫、人道の港 敦賀ムゼウム、鉄道資料館等への回遊ルートの充実

杉原千畝に関する人道の港 敦賀ムゼウムなどの情報発信の強化

外国人旅行者等へのウェブアクセスの環境整備

ほか

⑩ 三方五湖（３８万人）

※レインボーライン（３０．２万人）、レークセンター（３．６万人）、若狭三方縄文博物館・縄文プラザ（４．３万人）の合計

例 レインボーラインや三方五湖湖畔での四季折々の花を楽しめる景観の整備

ボートや湖畔でのサイクリングやウォーキングなどスポーツ観光の推進

遊覧船による早朝運行や花火大会の観覧など宿泊を絡めた誘客の推進

学術関係者等と連携した水月湖「年縞」の魅力発信と年縞を活かした観光の促進

丸木舟体験、ライトアップイベントなどを活かした魅力的なソフトの充実

ほか

⑪ 若狭湾岸（７３万人）

※氣比の松原海水浴場、水晶浜海水浴場、若狭和田海水浴場等の合計

例 若狭湾岸の景観が楽しめる国道１６２号を「ふぐ街道（仮称）」としてPR

漁家民宿等の魅力の向上による海水浴客の宿泊拡大

海水浴場の国際的な環境認証「ブルーフラッグ」の取得の推進

シーカヤック等のマリンスポーツや漁業体験など海での体験観光（アクティビティ）の充実

海釣り客に対する休憩場所や食事の提供などの有料サービスの充実

若狭湾の海の幸などを活かした食イベントの充実

地元産品が購入できる物販施設の整備

ほか

⑫ 若狭の文化財群・小浜西組まち歩き（32万人）

※御食国若狭おばま食文化館(16.8万人)、国宝めぐり(9万人)等の合計

- 例 若狭の名刹・古刹めぐり、秘仏公開の実施
小浜西組の風情のある外観の整備や伝統的民家を活用したカフェ等の誘致
御食国若狭おばま食文化館を核とした賑わいの創出
放生祭など伝統的な祭りや民俗芸能の発信強化
若狭塗箸研ぎ出し体験等の充実
鯖街道や西の鯖街道、丹後街道など、歴史・文化が行き交った街道を活かした
周遊観光ルートの実施
地元ガイドと巡るまち歩き観光プランの実施

ほか

(注) 入込数は「福井県観光統計（県観光振興課調べ）」平成25年のデータ

(3) 福井の食や食文化の魅力を全国、そして世界に

現状と課題

- ・ 福井県は、自然や地形が変化に富み、豊かな食材や「御食国」「鯖街道」などの食にまつわる歴史、食を彩る様々な伝統的工芸品、大本山永平寺の精進料理、報恩講料理、各地域で受け継がれてきた伝承料理など、国内外に誇ることができる多様な食・食文化があります。
- ・ 県内各地には、四季折々の山海の食材を使った逸品料理や伝承料理があるものの、それらを「味わう」、「体験できる」場が少ない状況にあります。
- ・ 福井の食を目的とした誘客を進めるためには、地元の食材を使った福井ならではの料理のレベルアップ等を図るとともに、福井の食・食文化を発信していく必要があります。
- ・ 観光客の食の満足度を高めるために、「また来たくなる飲食店」づくりや「買って帰りたいくなる・お取り寄せしたくなる土産品」の開発を進める必要があります。

※郷土料理の保存・継承に取り組む団体へのアンケート調査結果 (県ブランド営業課調べ)
店舗等で郷土料理を提供している 32% (18/56 団体)

※ご当地名物が思いつかない都道府県ランキング (出典：NTTコム オンライン・マーケティング・ソリューション(株)2013 調査)
1位 島根県、2位 福井県、3位 岐阜県

※東京駅アンケート調査結果 (H25.8) (県観光振興課調べ)
福井の食の認知度 越前がに 66%、若狭ふぐ 24%、おろしそば 40%

[方向性・目指す姿]

エリアごとに地域ならではの特色ある食や食文化を各地のイメージリーダーとして磨き上げ、福井の食・食文化の魅力を国内外に強力に発信します。また、「食」によるおもてなし力を高めるなど、観光客に自信をもってお勧めできる飲食店・土産品づくりを進めるとともに、食文化や伝統的な料理を学ぶ場、体験できる場を増やすなど、食による誘客拡大を図ります。

<エリアごとの食・食文化の魅力を創造・発信>

山・海・里の自然が変化に富み、食材から行事食(伝統的な年中行事の際に食べる特別な食事)、食器から包丁まで、和食を彩るすべてがそろっている福井の食文化の多様性を活かし、エリアごとにその特長をテーマとして定め、魅力をさらに輝かせるとともに、県内外に分かりやすく発信し、誘客拡大につなげます。

① 福井・坂井エリア 「極上のおもてなし美食文化」

福井浜町界隈の歴史ある料亭や県内随一の温泉地であるあわら温泉の美味しい食事やおもてなしを活かし、食にこだわる観光客を魅了する美食地域としてPRします。

- ・地域の料亭や旅館等が四季折々にテーマ食材を定めて上質な料理や弁当をつくり、県内外でPRするなど、地域の食の魅力を向上
- ・富裕層向け会員誌や女性誌等、ターゲットを絞ったパブリシティ活動の展開
- ・坂井の食文化を伝える「越前坂井 うららの極味膳」の充実

ほか

② 三国・越前海岸エリア 「福井と言えばコレ！味覚の王様 越前がに」

福井の食のトップブランドである「越前がに」の素材の良さに加え、地元の調理技術で食べる素晴らしさをアピールし、「年に5か月しかない季節限定の楽しみ」として県外からのカニを目当てとした観光客の増加を図ります。

カニのシーズン外にも、美しい海岸線の景色を眺めながら地元の食材を美味しくおしゃれに楽しめるエリアとして、女性や若者をターゲットにPRします。

- ・越前がにの素材の良さに加え、目利き、ゆで方、さばき方などの地元の調理技術で食べる素晴らしさをパブリシティ活動や食のフェア等を通じてアピール
- ・三国から敦賀までの国道305号～越前・河野しおかぜライン～国道8号を「かにロード」としてPR
- ・海沿いへのおしゃれなレストランの誘致

ほか

③ 永平寺・奥越エリア 「情緒豊かなまちなみと受け継がれる先人の知恵 郷土食」

和食の原点を存分に体験できるエリアとしてPRし、白山水系の清らかな水の恩恵を受けた農林水産物と、精進料理や発酵食など伝統的な食文化を学び、味わうツアーを充実します。

- ・禅の心に触れることができる精進料理の提供
- ・「川釣りの聖地」として、鮎やサクラマスなどの川魚料理の提供
- ・発酵食品や大豆製品づくりを体験できる場の整備
- ・酒蔵見学のほか、なれずしや味噌、醤油等の発酵食、春の山菜、秋の里芋等の収穫体験と採れたての農産物を使用した郷土料理を味わうツアー等の充実
- ・おろしそばや「ぼっかけ」、「とんちゃん」などご当地料理のPRの強化
- ・和菓子やスイーツ、丁稚ようかんづくり体験や食べ歩きツアーの開催

ほか

④ 丹南エリア 「和食を彩る、伝統の技」

越前焼の茶碗や越前漆器のお椀、越前打刃物の包丁、越前和紙のランチョンマットなど、和食を彩る伝統的工芸品が集積している特徴を活かし、ご当地グルメ

と伝統的工芸品を組み合わせた旅行商品の造成を推進します。

- ・地元食材と伝統的工芸品を使った商品開発の促進
- ・飲食店での伝統的工芸品の使用の推進
- ・越前焼と越前海岸の新鮮な魚介を組み合わせた「浜の活井」の充実

ほか

⑤ 若狭路エリア 「御食国の歴史、魚介の宝庫」

御食国や鯖街道、昆布ロード、若狭塗箸といった日本の食文化を支えた歴史を前面に打ち出すとともに、若狭湾の若狭ふぐ・ぐじ・かれいなどの新鮮な魚介類を満喫する「若狭もんツアー（若狭のうまいもんツアー）」を提供します。

- ・「若狭路ご膳」、「若狭路海鮮どんぶり」を気軽に楽しめる若狭の海鮮グルメとして、関西・中京を中心としたPRの強化
- ・新鮮な魚介類を販売するテント市や競り見学会などの定期イベントの開催
- ・「浜ベキュー」など新鮮な魚介のバーベキューを楽しめる施設の充実
- ・漁家民宿で新鮮な魚介類を使った女将さんの手料理によるおもてなしとともに、「地魚の聖地 若狭路」の魅力の発信
- ・古来より、都の人々を満足させるために磨かれてきた加工技術に焦点を当てた、へしこや干物、小鯛の笹漬けなどの水産加工品のPR

ほか

<おすすめの食の店づくり>

⑧ 福井の食を味わえる一流店づくり

- ・都市圏の有名料理人等とコラボレーションし、県内に一流の食を味わえるレストランを中心としたオーベルジュをオープンさせます。【民間、市町、県】
- ・福井の旬の食材を使った料理を福井らしい景観などとともに楽しめる「福井レストラン（仮称）」を整備します。【民間、市町、県】

⑨ 福井食カレッジ（仮称）等の開催

- ・観光客の食に対する満足度を高めるため、料理人等を対象に、福井の食材や食文化、伝統的工芸品等を活かした料理技術や提供方法等を学ぶ「福井食カレッジ（仮称）」を開講します。【民間、市町、県】
- ・レストランのマネージャー、料亭や旅館の女将等を対象に、本県の食や食文化等の知識を深め、「食」によるおもてなし力を向上させます。【民間、市町、県】
- ・若手料理人を対象に、料理コンテストを実施するほか、国内外での一流店での修行を支援し、県内飲食店等の調理技術のレベルアップを図ります。【市町、県】

④ 精進料理や郷土料理を味わうことができる店づくり

- ・大本山永平寺の門前やあわら温泉などで、本格的な精進料理を楽しみ、味わいながら、「感謝」、「もったいない」などの禅の心に触れることができる飲食店や旅館等を増やします。【民間】
- ・本県の生活に根差し、伝承されてきた報恩講料理などの郷土料理を気軽に味わうことができる飲食店や旅館等を拡大します。【民間、市町、県】

⑤ 歴史的に由緒ある膳の復刻

- ・戦国時代の一乗谷朝倉氏や福井藩主越前松平家、勝山藩主小笠原家などで供されていたおもてなし膳や祝い膳等を復刻させ、観光客に提供します。【民間、市町、県】
例：朝倉氏：足利義昭 御成の献立、越前松平家：勇姫様御入輿御婚礼御式の膳、小笠原宗家：殿様料理

⑥ 女性が求めるスイーツづくりの促進

- ・一流パティシエ等の監修のもと、地元食材を使用し、女性がお土産として買いたくなるスイーツやその場で食べたいスイーツを開発します。【民間、市町、県】
- ・季節ごとに話題性のあるスイーツづくりを各店で進め、人気商品については、旅行雑誌等での紹介や集客イベントでの販売を支援します。【民間、市町、県】

<福井の食・食文化の魅力を全国、そして世界に>

④ 大都市圏等における福井の食の営業展開

- ・民間事業者や市町と連携し、首都圏の一流ホテルや高級レストランに対し、越前がに、若狭ぐじ、三ツ星若狭牛、ふくいポーク、上庄里芋、福井米、地酒など福井が全国に誇る県産食材を、越前漆器や越前焼、越前打刃物、若狭塗箸などの伝統的工芸品とともに売込みます。【民間、県、市町】
- ・食の専門誌や富裕層向け会員誌や国際的な展示会等において、福井の食・食文化のPRを強化します。【民間、県、市町】

⑤ 「越前がに」の魅力発信の強化

- ・越前がにの美味しさや鮮度の良さに加え、目利き、茹で方、さばき方等の地元の調理技術で食べるのが一番美味しいということなどを、パブリシティ活動や食のフェア等を通じて全国へアピールします。【民間、市町、県】
- ・越前がに漁の解禁日関連イベントとして、官民一体となり「越前 かに王国祭（仮

称)」を開催するなど、注目度を高め、全国への発信を強化します。【民間、市町、県】

- ・「福井といえば越前がに」というイメージを確立するため、鉄道会社や航空会社等とコラボレーションし、駅や空港などで「越前がに」のPRを行います。【民間、県】

⑨ 「越前おろしそば」などご当地グルメの全国発信

- ・県内各地の特色ある「越前おろしそば」、「焼き鯖寿司」などのお店めぐりを促進するとともに、その魅力の発信を強化します。【民間、市町、県】
- ・地域の飲食店等が盛り上げる「カニ丼」や「越前坂井辛み蕎麦」、「ボルガライス」、「醤油カツ丼」、「敦賀ラーメン」、「鯖おでん」などご当地グルメの発信を強化します。【民間、市町、県】
- ・全国レベルの食による地域おこしイベント（例：B-1グランプリ）等を開催します。【民間、市町、県】

⑩ 和食文化の海外への発信強化

- ・平成27年に「食」をテーマに開催される「ミラノ国際博覧会」への出展を機に、福井県が誇る食・食文化の魅力を世界に発信するとともに、観光誘客、伝統的工芸品・県産品の販路拡大につなげます。【県、市町、民間】
- ・コシヒカリなど県産食材の台湾などへの輸出を拡大するほか、航空会社とタイアップし、国際線機内食等での県産食材の利用を進めます。【県、民間】

<食文化を学び体験できる場、食旅を増やす>

⑪ 食文化を学び、収穫や料理体験ができる場づくり

- ・産地見学や収穫体験を行い、収穫した食材の地元ならではの料理方法を学んだり、料理を食べられる場を整備するとともに、家庭でも簡単に作れるようなレシピの提供を促進します。【民間、市町、県】
- ・廃校になった校舎等を利用し、なれずしといった発酵食品や大豆製品づくり、昆布だしの取り方などを、歴史や伝統を学びながら料理体験ができる場を整備します。【民間、市町】
- ・自然環境を学び、ハーブや薬草などの収穫体験と、山野草等を活かした料理が楽しめる場を整備します。【民間、市町】

⑨ 福井の「食旅」の推進

- ・ソースカツ丼や若狭路海鮮どんぶり、浜の活井など、美味しい丼を食べに出かけるとともに、周辺の観光地を訪れるなど、福井を楽しむ「丼ツーリズム」を促進します。【民間、市町】
- ・観光客向けに、福井の冠婚葬祭などの行事に利用されてきた和菓子や季節のスイーツなどを活用したお菓子づくり体験や食べ歩きツアーを実施します。【民間、市町】
- ・塗り箸の研ぎ出し体験とその箸で食べる若狭の味覚など、観光スポットや食イベント、伝統工芸体験等と地域の料理を組み合わせたツアーを造成します。【県】
- ・食の魅力を体感できる福井の食文化や「食旅」のガイドブックを発刊するほか、福井の食・食文化のポータルサイトを開設するなど、発信力を強化します。【県】

(4) 新しい「福井ならではの」のツーリズムの推進

現状と課題

- ・ 福井には、四季折々の豊かな自然、日本の原風景といえる貴重な景観、人と豊かな自然が共生した里山里海湖、子供たちの学力・体力日本一の教育環境や豊かな居住環境、またこれらを背景にした幸福度日本一の暮らしがあります。
- ・ 福井ならではの魅力は県民にとっては、何気ない普通のものですが、観光客にとっては、非日常で多くの感動と癒しを与える観光素材になり得るものです。
- ・ 福井の観光素材に磨きをかけ国内外に発信し、誘客につなげていくことが必要です。
- ・ 年代測定の世界標準に認められた水月湖「年縞」などを新たな観光素材として活用していくことが重要です。

[方向性・目指す姿]

福井ならではの人や自然、歴史・文化、環境、暮らし、景観、教育など特色ある観光資源を磨き上げ、観光素材として組み合わせ、訪れる人に新たな発見や感動などを提供する「福井ならではの」のツーリズムを推進します。

㊦ 観光資源の掘り起しと観光素材づくり

- ・ その土地ならではの自然、歴史・文化、体験など、観光資源を掘り起こし、観光素材として磨き上げることで新たな観光につなげます。【民間、市町、県】
- ・ その地域に行かなければ出会えない魅力的な「人」、特定の時間・季節・場所でなければ見られない特別な瞬間、「福井にしかない」、「福井ならではの」の素材などを特別観光素材として磨き上げます。【民間、市町、県】

㊦ 観光素材をつなぎ合わせたストーリーやルートづくり

- ・ 福井の歴史スポットや文化財などを、福井ならではのユニークなテーマやストーリーでつなぐことで、新たな切り口の文化的観光素材群を創出するとともに、各地で受入環境の整備や文化財の価値向上を目指します。【民間、市町、県】

例 若狭の往来文化「鯖街道」、泰澄と白山信仰、白山平泉寺

- ・ 福井の風土が育んだ訴求力の高い農山漁村風景や歴史的まちなみについて、「重要文化的景観」や「重要伝統的建造物群保存地区」の選定を推進し、文化的価値を大幅に引き上げるとともに、保全・整備、地元の受け皿づくりを進めます。【民間、市町、県】

例 勝山市北谷小原の山村景観、高浜町日引の棚田、南越前町北国街道の町並

- ・ 活用が低調な既存の街道やルートを、道の駅、温泉・温浴施設、美術館、博物館などと組み合わせ、新たな観光ルートとして再生します。【市町、民間、県】

④ 福井らしい魅力を活かした旅行商品の造成

- ・福井らしい魅力ある観光素材や特別観光素材を活かした、新たな旅行商品の造成を旅行会社に積極的に働きかけます。【県、市町、民間】
- ・福井県観光連盟や旅行業を登録している市町観光協会などが参加する「着地型旅行商品造成会議（仮称）」を創設し、新たな旅行商品を造成するとともに、商談会等での販売プロモーションを強化します。【県、市町、民間】
- ・まちなかツアーや体験ツアーを推進するために、地元ガイドの養成を促進するなど、地域が主体となって観光客を受け入れる仕組みを作ります。【民間、市町】

例：①若狭と都を結ぶ往来文化遺産群（鯖街道）を巡る旅

- ・古来、都と関係が深い若狭「御食国」のルートをたどり、仏像や寺院などの文化財の歴史的意義を学びます。
- ・若狭歴史博物館を核に、博物館の専門的知見も活かして、文化財群をガイド付きで巡ります。

②中世の歴史を巡る周遊観光

- ・一乗谷朝倉氏遺跡、大本山永平寺、白山平泉寺など中世の歴史遺産を巡る周遊観光を促進します。
- ・中世から受け継がれてきた若狭の祭りなどの民俗芸能を組み込みます。

③北前船の歴史に出会う旅

- ・往時の繁栄を偲ばせる建物や蔵を整備するとともに、語り部やガイドを養成し、三国湊町、南越前町の右近家など北前船の歴史を学びます。

④幕末維新の偉人の功績をたどる旅

- ・幕末維新に活躍した由利公正、橋本左内、グリフィスなどの偉人の功績や史跡を探索するコースを造り、まちなか観光を推進します。

⑤近代化遺産を周遊する旅

- ・土木遺産に認定された旧北陸本線隧道群を活用し、今庄宿や赤レンガ倉庫などの周辺の観光地を宿泊付きで巡ります。
- ・北陸新幹線の「新北陸トンネル」の工事現場見学等も組み込み、鉄道の歴史も学べる旅にします。

⑥自然環境を学ぶ旅

- ・都会では味わえない、奥越の山々や若狭の海、夕陽やホタル、農林漁業などを活かした自然体験プログラムを実施するとともに、「環境教育観光」を進めます。

⑦幸福度日本一を体感する暮らしツアー

- ・三世代同居の家庭への訪問を通して、地元の人との交流や、福井の暮らしやすさを体感できるツアーを推進します。

⑧健康長寿の魅力を体感するツアー

- ・全国トップクラスの長寿県である福井県の食事や生活環境、健康づくりなどを体験するツアーを推進します。

⑨食を学ぶツアー

- ・幼児の手だけで全ての調理を行う「キッズ・キッチン」をはじめ、野菜収穫体験や漁師体験、市場見学体験、塗箸の研ぎ出し体験等と組み合わせた、福井の食を学ぶツアーを推進します。

⑩花を楽しむフラワーツーリズム

- ・春の梅や桜、つつじ、夏の菖蒲やアジサイ、花はす、ひまわり、秋の菊やコスモス、冬の水仙などの魅力を県内外へ発信し、四季折々の花や関連イベントを楽しむ旅行を促進します。
- ・日本二大菊人形の一つである「たけふ菊人形」を拡充するとともに、周辺観光地の情報発信を強化し、県外からの誘客拡大を図ります。

⑪河川や湖の魅力を活かしたツーリズム

- ・九頭竜川などでの鮎やサクラマス釣り、北潟湖の鮎や三方五湖の鯉釣りなどを楽しむ釣りファンを県外から誘客します。
- ・カヌーやゴムボートでの川下りや木舟の乗船など、河川や湖における新たな体験観光を推進します。

⑫冬を楽しむツアー

- ・スキーやスノーボードなどのウインタースポーツをはじめ、冬の味覚の越前がにや若狭ふぐ、ぼたん鍋のほか、荒々しい日本海と越前水仙など、福井の冬を楽しむツアーを提案します。

⑬里山を学ぶツアー

- ・コウノトリが飛来した越前市白山地区等で、里山での暮らしや環境について学びます。
- ・野菜の苗植えや収穫、自分で収穫した野菜や薬草などを使った料理作り体験など里山の恵みを活かした豊かな里山を満喫するツアーを推進します。

⑭山の暮らしを体験する旅

- ・山の仕事や動物の生態、環境の変化などを通して自然との共存の大切さを猟師から学べる旅を提供します。
- ・勝山市小原地区で、古民家に宿泊し堅豆腐づくりやきのこと採集、薪で暖をとるなど、山里の暮らしが体験できるツアーを推進します。

⑮年縞を学ぶツアー

- ・学術的に貴重な水月湖「年縞」の魅力をわかりやすく学べるツアーを提供します。
- ・県里山里海湖研究所の「福井ふるさと学びの森」での森の手入れや「かや（ヨシ）田」の手入れなど、自然環境をテーマにした教育旅行を推進します。

⑯ジオツアーの充実

- ・恐竜化石や東尋坊などの世界的にも希少な地質遺産や地形と、関連する豊かな生態系、歴史・文化などの魅力を発信するとともに、それらを楽しむジオツアーを推進します。

⑰登山やトレッキングコースの充実

- ・四季折々の自然・風景やふるさと景観等が楽しめる登山やトレッキングコースの新たなコースの設定や情報発信を推進します。
- ・地域が主体となって造成したコースを利用したトレッキング・ウォーク大会などを開催し、地域全体の活性化を図ります。

⑱ウォーキングやサイクリングコースの充実

- ・松尾芭蕉など歴史上の人物が歩いた道のほか、福井鉄道や旧京福電鉄廃線跡などの産業遺産や四季折々の自然・風景が楽しめるルートを整備します。
- ・大規模自転車道（九頭竜川沿い、日野川沿い、北潟湖畔、若狭湾岸）などを活用したサイクリングイベントの開催を推進します。

⑲県内のローカル鉄道を活用した観光

- ・JR越美北線や小浜線をはじめ、えちぜん鉄道、福井鉄道を利用し、各駅停車の旅をPRします。
- ・列車の整備場の見学や運転体験が楽しめるよう、受入体制を整備します。

④ 産業観光の推進

- ・ 体験等を通じて、伝統や技などを学び楽しむ産業観光を推進します。【民間、市町、県】

例：①伝統産業を巡る旅

- ・ 1500年の歴史を持つ越前和紙や越前漆器など、本県が全国に誇る伝統的工芸品の歴史や技を学ぶとともに、職人の指導によるものづくり体験を楽しむツアーを促進します。

②繊維産業を学ぶ旅

- ・ 繊維産業について、松平春嶽や由利公正といった県の偉人との関わりや、機業場などの近代化産業遺産、世界に通用する現在の最先端技術を学べるツアーを促進します。

③眼鏡産業を学ぶ旅

- ・ 世界にひとつしかないオリジナルの眼鏡の製作のほか、100年以上続く歴史や高度な生産技術を学ぶツアーを促進します。

④農林水産業を体験する旅

- ・ 田植えや収穫、漁業体験など、自然の恵みを実感しながら、地元の人との交流も楽しむことができる体験ツアーを促進します。

⑤酒造りを学ぶ旅（酒蔵ツーリズム）

- ・ 県内各地の歴史ある酒蔵を活かし、福井の酒米作り、豊かな水、歴史・文化などを学びながら、多種多様な地酒の味わいとその土地の食を楽しむ酒蔵ツアーを拡充します。

⑥北陸新幹線等の大規模土木工事や土木遺産を学ぶ旅（インフラツーリズム）

- ・ 今しか見ることができない大規模土木工事の現場や土木遺産を見学するツアーを促進します。

④ 教育旅行の誘致促進

- ・ 自然体験・環境・農林漁業等の体験実習の受入の調整やサービスをワンストップで提供できる組織体制を整備するほか、廃校舎等を利活用した拠点施設を整備し、小中学生の体験学習や遠足を誘致します。【市町】
- ・ 中京・関西に加え、北関東や長野など北陸新幹線沿線の内陸エリアから、小・中学

生等の海の体験学習を誘致します。【市町、県】

- ・スポーツ合宿等の誘致とともに、大学のゼミ等と地域が連携し、研究・実習の場としての活用を促進します。【市町、県】

⑨ 美術館・博物館 を活用したミュージアムツーリズムの推進

- ・県立美術館、歴史博物館、若狭歴史博物館、こども歴史文化館、児童科学館、こども家族館など、県や市町等の文化・教育施設の学術的機能を高め、魅力的な展示や企画展、情報発信の強化により、多くの人を呼び込みます。【県、市町、民間】
- ・博物館や資料館、美術館等をネットワーク化することにより、連携した情報発信を充実するとともに、県内の美術館・博物館めぐりや、美術館・博物館を核に周辺観光地を組み合わせたミュージアムツーリズムを推進します。【県、市町、民間】

⑩ 大河ドラマ等を活用した誘客拡大

- ・本県の歴史を活用し、大河ドラマを誘致するための組織づくりを進めるとともに、機運を盛り上げるための歴史講座、シンポジウム等を開催します。【民間、市町、県】
- ・映画やドラマなどのロケについて、県市町間で情報共有し、広域的に支援・対応できる体制を整備します。【市町、県】
- ・歴史上の人物のゆかりの地を巡る観光ツアーを造成します。【市町、県】

⑪ クルーズ客船の誘致促進

- ・国内外の大型クルーズ客船の誘致を促進するため、古くから「海の玄関口」として人・物・文化が交流する敦賀港や、地域の産業と生活を支える福井港について、クルーズ客船社の運航責任者の招へいや国際展示会への出展等による誘致活動を展開します。【市町、県、民間】
- ・敦賀港・福井港から訪れることができる観光地や物販施設等を組み合わせた観光ルートを設定し、売り込みます。【市町、県、民間】

基本戦略3 繋げる

車による県内観光の周遊性を高めるとともに、北陸新幹線を利用する観光客や訪日外国人旅行者の増加、高齢社会の進展に対応するため、観光地間をつなぐ公共交通機関などの利便性の向上を図ります。

また、県内市町間や近隣府県との連携で情報発信力を強化することにより、県内外の観光地や観光素材を広域的につなげ、発信力と周遊性を高めます。

(1) 県内交通アクセスの利便性の向上

現状と課題

- ・ 県内の公共交通機関は運行本数が少なく乗継ぎなどが不便なため、観光地間の移動には主に自家用車やレンタカーが使用されています。主要な観光地間を結ぶ定期観光バスも少ないため、JR駅等からの二次交通による観光周遊ルートを充実させる必要があります。
- ・ 県内13か所の道の駅も、単なる観光情報の提供や休憩施設としての機能だけではなく、地域の特色を活かし、様々な魅力を提供する拠点として整備する必要があります。このため、観光客にとって利便性の高い交通アクセスや周遊性の向上、誘客の拠点化を図る必要があります。

※目的地に着くまでに利用した主な交通手段 自家用車 69.0% (全国平均 42.5%)

(出典：㈱リクルートライフスタイルじゃらんリサーチセンター)

※道の駅の数 県内13か所 (他に整備予定3か所)

整備済：①みくに (坂井市)、②さかい (坂井市)、③九頭竜 (大野市)、

④パークイン丹生ヶ丘 (越前町)、⑤越前 (越前町)、⑥河野 (南越前町)、

⑦西山公園 (鯖江市)、⑧若狭おばま (小浜市)、⑨三方五湖 (若狭町)、

⑩若狭熊川宿 (若狭町)、⑪名田庄 (おおい町)、⑫うみんぴあ大飯 (おおい町)、

⑬シーサイド高浜 (高浜町)

整備予定：①一乗谷あさくら水の駅 (福井市)、②永平寺温泉 (永平寺町)、

③ (仮称) 結の故郷 (大野市)

[方向性・目指す姿]

交通事業者間で連携して、ダイヤ改正や割引メニューの提供など、交通アクセスにおける利便性を高め、周遊観光の促進を図るとともに、観光客が移動そのものを楽しみ、移動に負担を感じないよう、SA・PA、道の駅等の充実・強化や観光列車の導入を促進します。

<公共交通機関の利便性向上>

⑧ 交通アクセスと周遊性の向上

- ・主要駅と観光地、観光地間などを結ぶ道路について、観光振興に資する効果的な整備を進めます。【県、市町】
- ・県内の主要駅と観光地、宿泊地を結ぶ「一押しバスツアー」等の充実を図ります。【県、民間】
- ・地域の寺社仏閣や近代化遺産、伝統工芸産地などの観光スポットを周遊するための定期観光バスの充実を図るほか、観光地を巡るオンデマンドのジャンボタクシーの導入などを検討します。【民間、市町、県】
- ・県内のJRや私鉄、バスが連携したフリー乗車券を販売し、公共交通機関による移動の利便性向上を図り、県内周遊を促進します。【民間、市町、県】
- ・公共交通機関のダイヤ調整による乗継時間の短縮やスマートフォン等の乗り換え検索アプリへの対応を推進します。【民間】
- ・公共交通機関の運行時間や企画きっぷ等の情報を分かりやすく掲載したHPやガイドブック等を作成し、観光客の周遊をサポートします。【民間、市町、県】

⑨ 移動そのものを目的にする観光列車等の運行

- ・恐竜など福井の観光・ブランドを活かしたラッピング列車やバスの運行、レンタカーの提供を促進します。【民間、県】

<自家用車・レンタカー等を使用した観光の利便性向上>

⑩ SA・PAや道の駅の充実・強化

- ・SA・PAや道の駅における、周辺観光地や旬のイベント情報の発信をはじめ、地元特産品の販売、飲食・休憩等の機能を充実強化します。【民間、市町、県】
- ・わざわざ立ち寄りたくなる道の駅を目指して、建物のデザイン性を高めるとともに、ここでしか買えない名物グルメの開発や販売商品等のレベルアップを図ります。【民間、市町、県】

⑪ 高速道路乗り放題プランの実現による周遊性の向上

- ・県等が実施する観光キャンペーンに合わせて、高速道路会社等と共同で高速道路の企画割引を実施し、周遊性を高めます。【民間、県】

⑨ 県境を越えたレンタカーの利用促進

- ・近隣県やレンタカー会社と連携し、レンタカーによる県境を越えた観光地めぐりなどの周遊観光を促進します。【民間、県】

<空港を利用する観光客の利便性の向上>

⑩ 小松空港からのアクセスの向上

- ・小松空港を利用した観光客の福井県内の主要駅や観光地、宿泊地を結ぶ交通アクセスの向上を図ります。【民間、県】
- ・航空券とレンタカー、宿泊施設等を組み合わせたお得なセット販売により、首都圏等からの誘客を拡大します。また、航空会社と連携し、羽田空港の乗継便を活用した旅行商品の造成を促進します。【民間、県】

(2) 自治体間の広域連携・相互交流の推進

現状と課題

- 平成26年7月に舞鶴若狭自動車道「若狭さとうみハイウェイ」が全線開通し、県内はもとより京都府や滋賀県、岐阜県等からの所要時間が短縮し、若狭路の主要観光地への入込が増加しています。
- 平成27年7月には舞鶴若狭自動車道と京都縦貫自動車道が直結し、京阪神から若狭地域への交流が容易になります。また、中部縦貫自動車道については、平成28年度中に北陸自動車道の福井北JCT・ICから大野ICまでがつながる予定で、奥越地域への所要時間が短縮します。
- 北陸新幹線が平成27年3月に金沢開業し、平成34年度に県内へ延伸することに伴い、沿線の北関東や信越地域から北陸への所要時間が大幅に短縮され、観光客の増加が見込まれます。
- 高速交通体系の整備に伴い観光客の増加が見込まれる中で、市町間や他府県との連携を強化して広域的な周遊観光を進め、エリア内での滞在時間を延ばすことが必要です。

※主要IC間の短縮時間	小浜IC～福井IC	約33分短縮
	小浜IC～京都南IC	約23分短縮
	小浜IC～名古屋IC	約33分短縮

(出典：福井県「福井県新高速交通ネットワーク活用・対策プラン」)

※舞鶴若狭自動車道全線開通後6か月間の若狭路の主要観光地(8箇所)の入込数
平成26年 1,570千人(前年同期 1,368千人、15%増)
(県観光振興課調べ)

[方向性・目指す姿]

県内市町間や近隣府県との連携を強化し、広域観光ルートの開発を行うとともに、観光客の周遊性を高め、滞在時間を延ばす、効果的・効率的に広域的な観光情報の発信や共同誘客プロモーションを実施します。

④ 観光誘客にかかる市町等の連携促進

- 市町等と連携して、都市圏への出向宣伝や誘客プロモーションを実施します。【市町、県】
- 市町間や観光案内所間の連携を強化し、相互の観光情報やアクセス情報を提供でき

る体制を整備します。【市町、県】

- ・丸岡城と北ノ庄城址、金ヶ崎城跡といったテーマ性やストーリー性のある観光地について、連携してPRを強化するとともに、PRツールのデザインの共通化を進め、周遊観光を促進します。【市町】

⑨ 北陸新幹線等を活用した広域観光の推進（石川県、富山県）

- ・平成27年秋に北陸デスティネーションキャンペーン（DC）を北陸3県等で共同実施することにより、絶景、温泉、食、伝統工芸など北陸の魅力を、首都圏や新幹線沿線エリアを中心に強力に発信し、誘客拡大に努めます。【市町、県】
- ・石川県等と協力して、北陸新幹線と航空機を利用した広域観光コースの造成を図ります。【県】
- ・県境の市町、JA、商工会議所・商工会、県で構成する越前加賀広域観光推進協議会において、首都圏等での観光プロモーションの実施や旅行博等への参加により、当該エリアの観光スポットや食などの魅力の発信を強化し誘客拡大を図るとともに、県境を越えたレンタカーの利用を促進し、観光客の利便性を高めます。【民間、市町、県】

⑩ 中部縦貫自動車道を活用した広域観光の推進（岐阜県ほか）

- ・中部縦貫自動車道の整備に合わせて、北陸自動車道、東海北陸自動車道を活用した環白山の観光ルートの造成などを、岐阜県、石川県、富山県等の沿線各県と連携して進めます。【市町、県】
- ・越前美濃街道を介して古くから交流があった福井市、大野市と岐阜県郡上市、美濃市、戦国武将 金森長近公が城下町を整備した大野市と高山市、美濃市、杉原千畝の出身である八百津町と敦賀市など、岐阜県の市町にゆかりのある歴史や伝統、文化を活かした交流を深め、観光誘客を連携して進めます。【市町、県】

⑪ 舞鶴若狭自動車道等を活用した広域観光の推進（滋賀県、京都府、兵庫県）

- ・舞鶴若狭自動車道「若狭さとうみハイウェイ」および京都縦貫自動車道の全線開通により誕生する環状ネットワークを活用し、滋賀県、京都府、兵庫県等とともに広域観光ルートの開発、共同パンフレット作成などにより、当該エリアへの誘客拡大を図ります。【民間、市町、県】
- ・嶺南6市町が連携して、関西や中京圏をはじめ、嶺北地域や北信越地方、中国・四国地方に向けて、嶺南地域の魅力をPRします。【市町、県】
- ・高速道路会社等と連携して、誘客キャンペーン等に合わせた高速道路の企画割引を実施します。【民間、県】

基本戦略4 伝え、動かす

エリアや顧客ニーズに応じた重点的なプロモーション活動に加え、旅行会社や交通事業者等に対する継続的な「草の根営業」やインターネットを活用した情報発信を、効果的に組み合わせることにより、本県の旬の魅力をより多くの人に伝え、観光意欲を喚起します。

(1) 首都圏等における新規顧客の開拓

現状と課題

- ・平成27年3月の北陸新幹線金沢開業に向けて、平成24年度から首都圏や北陸新幹線沿線エリアでの誘客プロモーションを強化しています。
- ・平成25年の関東地区からの観光客入込数は過去最高の約30万人に上ったものの、観光客入込数は全体の約3%、また訪問率は9.8%に過ぎず、一層の顧客開拓を図ることが必要です。

※平成25年観光客入込数（実人数）（県観光振興課調べ）

関東 30万人（全体の3.0%（県外客の6.6%））

※福井への観光訪問率（出典：㈱ブランド総合研究所「地域ブランド調査2013」）

関東 9.8%（全国平均 12.9%）

観光訪問率・・・そのエリアの居住者のうち、観光を目的に福井県を訪れたことのある方の割合

[方向性・目指す姿]

首都圏や北陸新幹線沿線において、重点的な誘客プロモーションを充実するとともに、旅行会社や交通事業者等に対する継続的な「草の根営業」を行い、顧客の新規開拓を図ります。

また、首都圏の注目度の高いスポットに絞り、本県のイメージリーダーとして「恐竜」や「越前がに」を活用したPRを強化します。

さらに、北陸新幹線開業により、終着駅である金沢への観光客の急増が予想されるため、金沢での観光情報の発信を強化し、本県への誘客を拡大します。

④ 北陸新幹線沿線でのプロモーションの強化

- ・上野駅や大宮駅、高崎駅、長野駅など沿線の主要駅等において、誘客プロモーションを展開し、沿線住民に対して本県観光の魅力をアピールします。【民間、市町、県】
- ・沿線のメディア等へ福井の魅力を売り込み、テレビや雑誌等での取り上げに結び付けます。【市町、県】
- ・北陸新幹線や航空機による首都圏から本県への旅行商品の造成を促進するとともに、

本県への関心を高め、旅行を喚起するため、プレゼントキャンペーン等を実施します。【県、市町】

⑨ 継続的な「草の根営業」による顧客開拓

- ・ 県や県観光連盟職員等が、首都圏の旅行会社や交通事業者、メディアのほか、本県にゆかりのある企業・団体・著名人等を継続的に訪問する「草の根営業」を展開し、旬の魅力を売り込みます。【県】
- ・ 旅行会社や交通事業者等のPR誌での本県情報の掲載を働きかけます。【市町、県】
- ・ 営業を通して、ターゲットのニーズを把握し、効果的な宣伝活動に結び付けます。【民間、市町、県】
- ・ 県内報道機関を通じて、県民が話題にしたいくなる旬のイベントや祭事等の情報を提供することで、県民のブログやSNS等において福井県の県内外への情報発信量を増大させます。【県民、民間、県】

⑩ 注目度が高いスポットでのプロモーションの強化

- ・ 東京駅やJR山手線、東京スカイツリー、羽田空港、大手百貨店など集客力のあるスポットにおいて、誘客プロモーションを展開し、雑誌やテレビなどの取り上げに結び付けます。【市町、県】
- ・ 丸の内ビルでの恐竜展の開催など、大手企業等とのコラボレーションによる誘客プロモーションを実施します。【県】
- ・ プロモーションに際しては、本県のトップブランドである「恐竜」や「越前がに」を福井県の観光におけるイメージリーダーとして誘客宣伝に活用し、首都圏等において福井のブランドイメージの浸透を図ります。【県】

⑪ 東京のアンテナショップを活用した情報発信の強化

- ・ ふくい南青山291や食の國 福井館において、観光担当スタッフや各市町の観光パンフレットを配置し、観光モデルルートやイベント情報を発信します。【県、市町】

⑫ 物産と観光展における新たな魅力の発信

- ・ 物産と観光展において、大都市圏の消費者に対し、福井ならではの特産品の魅力を直に伝えることにより福井ファンを増やし、観光誘客につなげるとともに、会場周辺の駅での出向宣伝や美術館の特別展などと連動した新しい企画を展開することで、話題性のある新しい物産と観光展を開催します。【民間、県】

⑨ 金沢駅における観光PRの強化

- ・金沢駅構内の観光案内所内に「福井県観光コンシェルジュ」を配置するなど、福井県の観光地やイベント情報を容易に入手できる体制づくりを強化します。【県、民間】
- ・金沢駅構内でのデジタルサイネージ広告などにより、新幹線利用の観光客を福井県に呼び込みます。【県、市町】

⑩ 小松空港での航空機を利用した誘客強化

- ・小松空港において、動く恐竜ロボットを設置するなど、「恐竜王国 福井」をアピールするとともに、特産品の販売を強化します。【民間、県】
- ・JRや航空会社等の交通事業者とタイアップし、都市圏での観光情報の発信と誘客プロモーションを強化します。【民間、県】

(2) 近隣府県からのリピーターの獲得

現状と課題

- ・ 舞鶴若狭自動車道「若狭さとうみハイウェイ」の全線開通や中部縦貫自動車道の整備進展の効果を最大限に活かして、近隣府県からの誘客拡大を図る必要があります。
- ・ 本県の観光客の約4割が、自家用車等で概ね2時間圏内である関西・中京・北陸エリアからであり、今後、リピーター対策を強化することが必要です。

※観光客入込数（H25）（県観光振興課調べ）

関西 192万人（全体の18.5%（県外客の42.0%））

中京 124万人（全体の11.9%（県外客の27.1%））

北陸 79万人（全体の7.6%（県外客の17.3%））

※福井への観光訪問率（出典：㈱ブランド総合研究所「地域ブランド調査2013」）

近畿 25.1%、中部 24.1%（全国平均 12.9%）

観光訪問率・・・そのエリアの居住者のうち、観光を目的に福井県を訪れたことのある方の割合

※本県への利用交通手段

福井県 自家用車 69.0%、新幹線・特急列車 13.7%、観光バス等 3.7%

全国 自家用車 42.5%、新幹線・特急列車 18.8%、観光バス等 3.6%

[方向性・目指す姿]

関西、中京、北陸エリアからのリピーターの拡大を図るため、近隣府県および県内のSA・PA、道の駅などでの旬のイベントや祭事等の情報、地元の人しか知らないグルメ情報などを定期的に発信します。

また、近隣府県からのドライブ客が気軽に楽しめるご当地グルメやイベント等を充実します。

⑨ SA・PA、道の駅等の魅力アップおよび出向宣伝の強化

- ・ 養老SA（岐阜県）や多賀SA（滋賀県）など近隣府県のSA・PAや道の駅等における出向宣伝を強化し、福井県の観光地やアクセス情報を発信します。【民間、市町、県】
- ・ 県内のSA・PA、道の駅等において、観光やイベント情報の提供を充実させます。【民間、市町、県】

④ 近隣府県の地元メディア等を活用した福井県の魅力の発信強化

- ・新聞、テレビ、ラジオ、タウン誌などの近隣府県の地元メディアと連携し、福井県の旬のイベントや祭事等の情報を発信します。【民間、県、市町】
- ・近隣府県と関連のあるテーマを掘り下げた特集本を出版するとともに、広域観光ルートを設定し、近隣府県の方に身近な観光情報を発信します。【民間、市町、県】
例：北前船交易（富山県、石川県など）、鯖街道（滋賀県、京都府）、
明智光秀と細川ガラシャ（岐阜県、京都府、兵庫県）、
大谷吉継と石田三成（滋賀県）、命のビザ 杉原千畝（岐阜県）

④ ドライブが楽しくなるご当地グルメやイベントなどの充実

- ・県内の観光地や風光明媚な若狭湾岸などの道のりにおいて、観光客が気軽に楽しめるご当地グルメやランチの充実を図ります。【民間】
- ・若狭路ご膳や越前坂井うららの極味膳、井ツアーリズムなど、ご当地グルメを活用した「食旅」の発信を強化します。【民間、市町、県】
- ・「ふくい 味の週間」やB級グルメの全国イベントなど、ご当地グルメを活かした集客イベントを開催します。【民間、市町、県】

④ 県内を楽しむための観光マップの充実

- ・県内を楽しく旅行してもらうため、観光や絶景、体験スポットのほか、日帰り入浴施設やおすすめの飲食店、お土産処を満載したマップを作成します。【民間、県】

(3) 県内交流の活発化と県民による情報発信

現状と課題

- ・ 本県の観光客の約56%が県内客であることから、本県の観光振興を推進するためには、県内交流をさらに活発化させる必要があります。
- ・ 舞鶴若狭自動車道「若狭さとうみハイウェイ」の全線開通や中部縦貫自動車道の整備促進等を契機に、嶺南と嶺北の交流を活発化させることが重要です。
- ・ 観光で訪れたい都道府県は、県民の地元に対する愛着度（ご当地愛）が高い傾向があります。県民が県内の観光地を訪れ、楽しむ「観光の地産地消」を推進し、ご当地愛を高めることが重要です。

※観光客入込数（H25）（県観光振興課調べ）

県内 578万人（全体の55.9%）

※観光意欲度と愛着度（出典：㈱ブランド総合研究所「地域ブランド調査2014」）

北海道 観光意欲度 1位 愛着度 1位

沖縄県 観光意欲度 2位 愛着度 4位

京都府 観光意欲度 3位 愛着度 2位

福井県 観光意欲度 42位 愛着度 21位

[方向性・目指す姿]

地元の新聞、テレビ、ラジオなどと連携し、「ちょっと」出かけたくなるイベントや観光地の情報提供の充実を図るとともに、市町間等で連携を強化して、市町間での観光・イベント情報の相互発信を強化するなどして、嶺南・嶺北間の交流など、県内交流の促進を図ります。

また、県民のご当地愛を高めることにより、県民自らがその魅力を県内外に発信します。

④ 嶺南・嶺北の交流促進および市町間での観光・イベント情報の相互発信

- ・ 幼稚園や小学校の児童・生徒の遠足等を通じて、子どもの頃から県内の良いところを肌で感じてもらうとともに、嶺南・嶺北間の相互交流を促進します。【市町、県】
- ・ 地域の自治会や婦人会、老人クラブ等のほか、市町広報誌、回覧板等を活用し、地元だけでなく、他の市町の観光やイベント情報についても相互に発信します。【市町】
- ・ 県内イベントに市町や市町観光協会が相互に参加し、観光PR、特産品の販売、ゆるキャラ等の出演により、地元市町の観光地をPRします。【市町】

- ・市町の各観光案内所や文化施設等において、他の市町の観光地やイベント情報の提供を行います。【市町】

④ 地元メディアと連携した県民への県内観光情報の発信の強化

- ・地元の新聞、テレビ、ラジオ等、県民が日常的に活用しているメディアと連携し、県民に対する県内の観光やイベント情報の発信を強化します。【民間、県、市町】

④ 県民による情報発信の強化

- ・県民一人ひとりが、自慢できる地元の景観や自然、歴史遺産、おすすめの観光コースなど、身近にある宝を再発見するとともに、ご当地検定などを通じて地域の魅力を学ぶことなどにより、ご当地愛を高めます。【県民、民間、市町、県】
- ・観光ガイドブック等には載らないおすすめスポットや行事などを来県者に紹介するとともに、ツイッターやフェイスブックなどのSNSを活用して県内外に発信します。【民間、市町、県】

(4) インターネットを活用した情報の発信

現状と課題

- ・ 旅行の目的地を決定する際の情報源として、インターネットが最も利用されています。
- ・ 県内の民宿等の小規模な宿泊施設においては、インターネットを利用した情報発信が全体の半数に留まっています。
- ・ ICTの技術が日々、進展する中で、SNSやスマートフォンなどインターネットを有効に活用して情報発信を強化していくことが重要です。

※旅行の目的地を決定する際に参考とする情報源 インターネット 62.4%

(出典：公益社団法人日本観光振興協会「平成25年版 観光の実態と志向」)

※県内の民宿等でインターネットを利用していない施設 47.4% (県観光振興課調べ)

[方向性・目指す姿]

インターネットを有効に活用し、国内外に向けた観光情報等の発信を強化します。また、観光事業者等が、インターネットの双方向性を活用し、観光客のニーズや施設等の改善につながる情報収集・分析を行います。

④ インターネットにおける情報発信の強化

- ・ 福井県観光情報ポータルサイト「ふくいドットコム」において、市町等とも連携し、旬のイベントや観光地などの情報発信の充実を図ります。【県、民間、市町】
- ・ 観光案内所や宿泊施設等でツイッターやフェイスブック等のSNSを活用した旬の観光情報等の発信を充実・強化するとともに、県民による情報発信を促進します。【民間、市町】
- ・ インターネット専門の旅行会社とタイアップした誘客プロモーションを実施します。【民間、市町、県】

⑤ インターネットを活用した観光情報収集・分析

- ・ 携帯電話の位置情報データやカーナビデータなどを活用して、観光客の行程や滞在時間等の人の流れを「見える化」し、新しい観光ルートの開発などの観光施策の立案に役立てます。【市町、県】
- ・ 県内の観光地やイベントに関するインターネット上のユーザーレビュー等を収集し、消費者目線での問題点等の分析を行うとともに、各市町や観光団体等と共有し、観

光地におけるサービス等の改善を促進します。【民間、市町、県】

- ・インターネット専門旅行会社とタイアップし、観光動向についての調査を行い、全国的なマーケットニーズの把握に努めます。【県】

基本戦略5 心をつかむ

県全体でのおもてなし活動の推進、地域の歴史・文化、自然を活かした景観の形成、着地情報や土産品の充実など、観光客にとって快適な旅行環境を整えることにより、「住んでよし、訪れてもよしの福井県」として、何度も訪れてもらえるよう観光客の心をつかみます。

また、県民がふるさとに自信と誇り、愛着を持ち、人をひきつける観光のまちづくりを推進するため、地域の観光や観光産業を担う人材を育成します。

(1) 感動を呼ぶおもてなし環境の整備

現状と課題

- ・ 道端でのあいさつや手を振っての歓迎、困っている人への声かけなど、県民が観光客を温かくお迎えする雰囲気を醸成するとともに、観光客が目で見えて安らぐしつらえや風情のある景観を創出することが必要です。
- ・ 現状は、観光客からのおもてなしの評価が低く、観光事業者等の民間において、おもてなし機運が高まっておらず、民宿など規模の小さい宿泊施設は、設備の更新など投資できる体力もない状況です。
- ・ 平成30年開催予定の福井しあわせ元気国体・福井しあわせ大会において、県民一人ひとりが全国からの来県者を温かくもてなし、福井の魅力を発信することが重要です。

※じゃらん宿泊旅行調査 2014 結果 (出典：㈱リクルートライフスタイルじゃらんリサーチセンター)

地元の人のホスピタリティを感じた 福井県 18% (40位) (全国平均 23%)

[方向性・目指す姿]

観光客の満足度を高めるだけでなく、感動まで与えられるおもてなし環境を整えるため、観光事業者のおもてなしスキルを高めるとともに、県全体でおもてなし気運を盛り上げる県民運動を実施します。さらに、観光客がくつろぎ、楽しむことができる、統一的なデザインによるしつらえや空間、相応しい装い、ふるさと景観の創出を進めます。

⑧ おもてなし県民運動推進体制の構築

- ・ 県や市町、観光事業者、企業等が連携し、子どもから大人まで参加する、全国の人に喜んでもらう全県的なおもてなし運動を展開するための推進体制を構築します。

【県民、民間、市町、県】

⑨ “福井の笑顔（元気、しあわせ）のおすそわけ” 県民運動の展開

- ・来県者に福井県の魅力を実感し、喜んでいただくために、観光事業者をはじめ、企業や地域、学校などにおいても、それぞれの特徴を活かしたおもてなし活動を推進します。【県民、民間、市町、県】

例：笑顔、あいさつ、声かけ、言葉遣い、身だしなみ 等

- ・企業や地域等でおもてなし活動をリードする「おもてなしリーダー」を養成します。【民間、市町】
- ・観光客から心に残ったサービスやおもてなしなどのエピソードの募集や、模範的なおもてなし活動の表彰を行います。【民間、市町、県】

⑩ 観光事業者等を対象にした実践的なおもてなし研修の充実

- ・観光客が快適なおもてなしを受けられるように、観光事業者等を対象にした観光おもてなしスクールを充実し、接客や接遇、適切なクレーム対応、テーブルマナーや商品の包装等の実践的な研修も取り入れ、プロとしてのサービスの向上を図ります。【民間、市町、県】

⑪ おもてなし向上のための宿泊施設等の改善

- ・観光客に対して、快適で特別な時間を提供するため、宿泊施設や飲食店等でのお客様をお迎えする装いやしつらえなど、きめ細やかなサービスを提供します。【民間】
- ・清潔感にあふれ、お客様が心からくつろぎ、安らげる室内空間をつくります。【民間】
- ・四季折々の地元の食材を活かした料理を提供するとともに、本県の伝統的工芸品（越前漆器、越前焼、越前和紙、若狭塗箸等）を使って食に彩りを添えます。【民間】
- ・施設内での観光地の写真掲示や客室に観光パンフレットを配置するほか、フロント等での県内の見どころや味どころの紹介など、観光客のニーズに沿った着地情報の提供を行います。【民間】

⑫ 福井らしい景観の保全の推進

- ・歴史・文化に育まれた伝統的なまちなみ景観、農山村・漁村景観、都市景観の整備や、地域の自然景観に配慮した道路河川等の整備など地域の特色を活かし、自然と共生する景観づくりを進めます。【市町、県】
- ・里山里海湖での暮らしや、伝統的な建築様式が残るまちなみなど、風情のある景観を保全、継承するとともに、地域の景観づくり団体等の活動を支援します。【民間、市町、県】

- ・豊かな自然、歴史・文化を活かした観光地の魅力ある景観を創出するとともに、美しい田園、里地里山などのふるさと福井の原風景を保全するため、景観に配慮した建物や屋外広告物を設置するようルールを定めるなど、地域の景観づくりを支援します。【県、市町】

⑧ 福井国体に向けたおもてなしの充実

- ・平成30年の福井国体に向けて、主要駅や開会式会場、各競技会場などで、来県者のニーズに応じた観光コースの提案や隠れた観光地などを紹介できるコンシェルジュの養成を進めます。【市町、県】
- ・福井の魅力を実感してもらうため、宿泊施設や飲食店等において、平成29年に品種登録出願するポストこしひかりをはじめ、奥越の里芋、厚揚げ、へしこなど、地元の食材を使った郷土料理等を提供します。【民間】
- ・県民による各都道府県の応援団等を組織し、県民と各都道府県の選手・役員等との親交を深め、福井ファンを増やします。【県民】
- ・全国から訪れる多くの来県者を県民みんなで温かくお迎えするため、美化運動や花いっぱい景観づくり、地域の宝の紹介など、県民一人ひとりのおもてなし活動を推進します。【県民、市町、県】

例：①福井の情報発信

- ・福井の観光スポットや食文化、郷土料理等を来県者にアピールします。

②ふるさとの再発見

- ・地元にある、きれいな景観や自然、町の歴史遺産、おすすめの観光コースなどを知って、来県者に紹介します。

③観光おもてなし運動

- ・全国から集まる選手・役員等に進んで声かけし、道案内やお勧めの飲食店の紹介など、来県者を温かくおもてなしします。

④県下一斉の美化運動

- ・クリーンアップ運動への参加や、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用したり、スポーツの要素を取り入れたごみ拾い活動を行うことにより、会場や周辺の美化運動を推進します。

⑤花いっぱい運動

- ・競技会場や会場へのアクセス道路等を花いっぱいにする運動を展開します。

(2) 着地情報の充実・発信

現状と課題

- ・ 現地で得られる着地情報について、本県は全国でも低い評価となっています。
- ・ 観光客の約71%の人は、実際に現地で入手した情報により予定を変更していることから、周遊観光の推進のためには着地情報の充実が必要です。

※じゃらん宿泊旅行調査 2014 結果 (出典：㈱リクルートライフスタイルじゃらんリサーチセンター)
現地で良い観光情報を入手できた 福井県 19% (41位) (全国平均 26%)

※着地（旅行先）での行動についての計画タイプの比率 (出典：㈱リクルートライフスタイルじゃらんリサーチセンター)
現地で入手した情報による予定の追加・変更がたくさんある・いくつかある 71%

[方向性・目指す姿]

情報提供場所の分かりやすい掲示や、初めての来訪者でも理解ができる親切な情報内容など、駅や空港、ホテルなどに到着した観光客が、観光情報や交通情報をストレスなく収集できるよう工夫を行うとともに、観光案内所や宿泊施設等との連携を強化し、花やグルメなどの旬な着地情報を充実・発信します。

④ 観光案内所の機能の充実

- ・ 主要駅や道の駅、SAに設置されている観光案内所において、県内の宿泊施設や観光地、おいしい飲食店、着地型旅行商品などのおすすめ情報の提供を充実します。
【民間、市町】
- ・ 観光案内所においては、宿泊施設のあっせん、観光タクシー・観光ボランティアガイドの手配、宅配便の取次など、サービス機能の充実に努めます。【民間、市町】

④ 観光協会や宿泊施設等における着地情報の充実・発信

- ・ 観光客が求める桜の開花や紅葉、旬の食、各地のイベント、お得なキャンペーンなどの着地情報について、インターネット等を活用し、タイムリーに発信します。【民間、市町、県】
- ・ 地域で古くから受け継がれてきた風習や祭り、民俗芸能等について観光客に対して分かりやすく紹介します。【市町、県】

- ・公共交通機関を利用する観光客が、電車やバス等を利用して県内周遊が容易にできるよう、発着駅や乗継場所、運行ダイヤ等の情報が入ったガイドブックを作成します。また、それらのデータをインターネットで検索できるようにします。【県、市町、民間】
- ・観光協会や宿泊施設、道の駅、SA・PA、ガソリンスタンド、ドライブイン等における旬の観光情報の提供を充実します。【民間、市町】

(3) カワイイお土産の開発

現状と課題

- ・ 主な観光土産品であるお菓子等の食品について、製造・加工する事業者が少なく、製造品出荷額も全国最下位となっています。
- ・ 土産品の評価について、富山県、石川県と比べて低くなっています。

※食料品製造業（H24）（出典：総務省「平成24年経済センサス」）

事業所数 262 か所【全国43位】

製造品出荷額 595 億円【全国最下位】

※じゃらん宿泊旅行調査2014結果（出典：㈱リクルートライフスタイルじゃらんリサーチセンター）

魅力のある特産品や土産物が多かった

福井県 全国20位、石川県 15位、富山県 6位

[方向性・目指す姿]

観光客、特に観光消費の中心である女性が、旅先でつい買っていきたくなるカワイイお土産の開発を進めます。パッケージデザインや販路開拓等についてもサポートし、県民がお勧めできる優良土産品づくりを促進します。

⑨ 女性向けの観光土産品の開発促進

- ・ 県内在住のコーディネーターや都市圏百貨店のバイヤー等のアドバイスをもとに、女性のニーズにマッチした新たな観光土産品やスイーツの開発を進めます。【民間、市町、県】
- ・ 若い女性の購買意欲を促進する、小さくてカワイイ、おしゃれなパッケージデザインの土産品の開発を進めます。【民間】

⑩ 福井ブランドを活用した観光土産品の開発促進

- ・ 恐竜や大本山永平寺など福井の観光ブランドに関連したグッズや、百年以上続く老舗のブランドを活かした新たな土産品の開発を進めます。【民間、市町、県】
- ・ 漆塗りの和紙や、眼鏡枠製造技術を活かした箸など、福井のモノ作り技術を活かし、異業種間のコラボレーションによる新たな観光土産品の開発を促進します。【民間】

㊤ 観光土産品のコンテストの開催およびPR

- ・観光土産品のコンテストを充実するとともに、優秀な商品については、県の推奨ブランド品として、ふくい南青山291やSA・PA、道の駅をはじめ、県内外で売り込みます。また、平成30年の福井国体においても、県推奨のお土産として選手団等に紹介します。【民間、市町、県】
- ・新たに開発された観光土産品については、国際的に有名なコンペティションへ積極的に出品し、世界的な評価を販売促進に活用します。【民間】

(4) 地域や観光産業を担う人づくり

現状と課題

- ・ 観光を通じた地域の活性化に成功した地域の多くには、明確なビジョンを持って、地域の目指すべき姿や目標が地域内で浸透するまで普及に努め、諸機関や関係者の先導役を担う、熱意に溢れるリーダーが存在しています。
- ・ 本県においても、県内各地での観光ボランティアの養成をはじめ、観光まちづくりをリードする人材や地域の観光産業を牽引する観光事業者等を育成することが必要です。
- ・ 今後、全県的に観光客の受入れを拡大していくためには、県民の観光振興に対する関心を高め、観光によるまちづくりへの参画を促進することが重要です。

[方向性・目指す姿]

住民が地域に誇りと愛着を持ち、人をひきつける観光のまちづくりを進めるため、観光ボランティアガイドや観光まちづくり活動を牽引する人材を育成します。

また、観光事業者や観光団体、行政など直接観光に携わる人だけでなく、一般県民や児童・生徒など幅広い人々が観光まちづくりに参画する気運を醸成します。

⑨ 次世代を担う観光人材の育成

- ・ 児童・生徒が地元観光地のほか、歴史・文化、自然、景観等を学び、その魅力を自分の言葉で知人や来訪者等へ話すことができるよう、観光や地域を学ぶ学習を推進します。【市町、県】
- ・ 高校生や大学生などが観光を通して地域を学ぶフィールドワークや、県内の大学等における「観光ゼミ」の開講を推進します。また、職業系高校において、通年で地域の観光を学ぶ体制を整備するとともに、観光プランの全国コンテストである「観光甲子園」へ県内の高校生の参加を支援します。【県】
- ・ 旅館やホテル等の観光事業者における学生インターンシップを充実し、観光の現場を直に体験してもらい、次世代を担う人材の育成を図ります。【民間】

⑩ 地域の観光をリードする人材の育成

- ・ 観光の第一人者らを講師とする「福井観光アカデミー（仮称）」を創設し、宿泊施設や飲食店などの観光事業者等に、観光マーケティング力や商品開発力、プレゼンテーション力、高度なおもてなし力など実践的な能力を磨いていただき、地域の観光や観光産業を担う人材を育成します。【県】

- ・観光事業者に県内観光の新たな知識を習得してもらうための研修会や勉強会を定期的に開催します。【民間、県、市町】
- ・インターネットやスマートフォンの普及などを踏まえて、ICTを活用した情報発信やコミュニケーションに対応できる人材を育成します。【民間、市町、県】

④ 観光ガイド等の養成

- ・地域の魅力や語り継がれてきた歴史・文化等を観光客に分かりやすく紹介できる観光ボランティアガイドを養成するとともに、若い人材によるガイドの養成を図ります。【市町、県】
- ・観光ガイドができる人たちのグループ化、組織化を促進します。【市町】
- ・観光ボランティアガイドやNPO団体等が持続的に活動できる「場」の整備を進めます。【市町、県】
- ・まちなかの観光散策ルートや地域の特徴を活かした体験プログラムの造成に取り組む団体の活動について支援します。【市町、県】
- ・地域の魅力を発見するまちなか散策の実践的な研修会やガイド技術を高めあう語り部発表会や交流会などを充実して、観光客が楽しめるガイド技術の習得を図るとともに、ボランティア団体相互の協力・連携を進めます。【市町、県】

基本戦略6 世界から招く

東アジア・東南アジアを中心に誘客宣伝活動を強化するとともに、北陸新幹線を利用して東京と京都・大阪間を周遊する「第2 ゴールデンルート」や近隣の空港等を活かした外国人向けの広域観光ルートの構築、無料無線LANや多言語での看板表記などの受入環境の整備を進めます。

(1) 各国・地域のニーズにあった誘客活動の強化

現状と課題

- ・ 円安や東南アジア諸国からの観光ビザ発給要件の緩和、格安航空会社（Low Cost Carrier）の就航拡大等により、訪日外国人旅行者数は、平成26年には過去最高の1,341万人になるなど増加傾向にありますが、本県の外国人宿泊者数は全国45位と低い水準にあります。
- ・ 今後、外国人の誘客拡大のためには、近隣府県等と連携して、それぞれの国のニーズにあったプロモーション活動や情報発信を強化していく必要があります。

○国・地域別の現状等

国・地域名	現 状 等
台湾	<p>本県内宿泊者数 9,710 人(対前年比+141.5%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪日リピーター率が高く、大都市圏にはない地方の目新しい観光素材、体験等を求める傾向 ・ 一年を通じて暑い気候のため、紅葉や雪などの四季や、日本でしか味わえないグルメに興味がある。 ・ これまでの営業活動により、現地大手旅行社とも関係を築いており、着実に本県への観光客が増加している。
香港	<p>本県内宿泊者数 2,680 人(対前年比+ 23.7%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 従来から海外旅行意欲が高く、旅慣れており、個人旅行者が多い。 ・ 「食の都」と呼ばれるほど、グルメに関しての関心が高い。 ・ 訪日旅行における旅行支出額が、東アジアの中で中国に次いで高い。 ・ これまでの営業活動により、現地大手旅行社とも関係を築いており、着実に本県への観光客が増加している。
中国	<p>本県内宿泊者数 4,550 人(対前年比+ 3.2%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経済発展に伴い、海外旅行を楽しむ人が増加傾向 ・ 初来日の割合が約半数を占め、観光客の団体ツアー割合が60% ・ 日本では閑散期となる2月上旬の春節等に海外旅行に出かける傾向 ・ 歴史・文化より、買い物や最新の科学技術等に興味がある。 ・ 県内企業の進出も多く、ふくい上海ビジネスサポートセンターを設置しているほか、浙江省とも友好提携を締結している。

タイ	<p>本県内宿泊者数 210人(対前年比+31.3%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪日外国人宿泊者数が最も伸びている(対前年比+76.1%)。 ・ 経済成長が著しく、円安や観光ビザ発給要件緩和の措置により、今後さらに訪日観光客が増加する見込み ・ 一年を通じて暑い気候のため、紅葉や雪などの四季に興味がある。 ・ 平成26年11月にふくいバンコクビジネスサポートセンターを開設
シンガポール	<p>本県内宿泊者数 540人(対前年比+260.0%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪日リピーター率が高く、大都市圏にはない地方の目新しい観光素材、体験等を求める傾向 ・ 一年を通じて暑い気候のため、紅葉や雪などの四季に興味がある。
マレーシア、インドネシアその他	<p>本県内宿泊者数 10,770人(対前年比 +5.5%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マレーシア、インドネシアについては、今後、訪日旅行の増加が見込まれている。

* 宿泊者数は平成25年のデータ

[方向性・目指す姿]

外国人旅行者数が増加傾向にある東アジアおよび東南アジアの5つの国と地域(台湾、香港、中国、タイ、シンガポール)を本県の重点市場として位置付け、他県とも連携して観光プロモーションを強化します。

また、平成32年の東京オリンピック・パラリンピック開催に伴い、北陸新幹線等を利用する外国人観光客の増加が見込まれることから、海外で関心が高い大本山永平寺の「禅」をはじめ、和食や伝統的工芸品など福井の魅力の発信力を高めます。

併せて、インターネット等を利用した外国人の生の声での魅力発信の強化や、外国人が観光しやすい環境の整備や宿泊施設の充実を図ります。

㊦ 国や地域の特徴に応じた海外誘客の推進

- ・ 国や地域の特徴に応じて、近隣府県等と連携しながら、効果的な観光プロモーションや商談会を実施します。【県、市町、民間】
- ・ 県・市町の担当者によるインバウンド推進会議を定期的に開催し、緊密な意見交換や情報共有を行います。【県、市町、民間】

○台湾

- ・ 高校を対象に、嶺南での民宿に宿泊しての漁業体験や、嶺北での坐禅やウインタースポーツなどの雪上体験、県内の学校との交流を行う教育旅行を誘致します。【県、市町】

- ・これまで関係を築いた現地大手旅行社と連携しつつ、TVショッピングでの旅行商品販売や、各種体験を主としたツアーなど、新たな仕掛けで誘客を図ります。【県】
- ・西日本最大級のスキー場でのウインタースポーツや冬の越前海岸に代表される美しい冬景色など、福井で雪を満喫する旅を売込みます。【市町、県】
- ・石川県と連携し、台北便を運航している航空会社と関係の深い現地旅行社へ売り込むなど、小松空港を利用した誘客を強化します。【県】

○香港

- ・越前がにや若狭ふぐなどの新鮮な海産物やおろしそば、春の山菜、秋の里芋など四季折々の福井のグルメを堪能できる旅をPRします。【市町、県】
- ・本県のブランド大使を活用し、福井の「食」をメディアに売り込み、旅行商品の造成、販売まで一貫したプロモーションを行います。【県、市町】

○中国

- ・春節（旧正月 1月下旬～2月上旬頃）休暇の時期に、冬の福井を代表する味覚であるカニやフグを満喫する旅を売込みます。【市町、県】
- ・友好提携を結んでいる浙江省において、省政府と協力して誘客宣伝や観光商談会を継続的に実施します。【市町、県】
- ・嶺南での民宿に宿泊しての漁業体験や、嶺北での坐禅やウインタースポーツなどの雪上体験、県内の学校との交流を行う教育旅行を誘致します。【県、市】

○タイ

- ・ふくいバンコクビジネスサポートセンターを中心に、他県の海外事務所とも連携し、日系企業等に対し報奨旅行の誘致活動や共同プロモーションを実施します。【県】
- ・桜や紅葉、雪景色など、四季の景観や越前がに等の食をPRします。【市町、県】

○シンガポール

- ・日本の大手旅行社と連携し、教育旅行を誘致します。【県】
- ・石川県シンガポール事務所など他県の海外事務所と連携し、共同プロモーション等を実施します。【県】

○マレーシアおよびインドネシア

- ・ふくいバンコクビジネスサポートセンターを中心に、他県の海外事務所とも連携し、日系企業等に対する報奨旅行の誘致活動や共同プロモーションを実施します。【県】

○欧米豪

- ・欧米人の関心が高い、大本山永平寺での「禅」などについて、世界的に権威のあるガイドブックへの記事掲載を働きかけるほか、福井でしかできない旅を海外の旅行事業者等に売込みます。【県】

④ トップセールス等によるプロモーション活動の強化

- ・各国・地域の政府機関や有力な現地旅行会社等キーパーソンへのトップセールスにより強固な人脈を構築し、様々な誘客に活用するとともに、それに合わせ県内観光関係者との連携による現地観光説明会等を開催します。【県、市町、民間】

④ 外国語による情報発信の強化

- ・県や県観光連盟、市町、観光事業者等のホームページにおいて、外国語による旬の観光情報の発信を強化します。【県、市町、民間】
- ・近隣空港や主要駅からのアクセスガイドブックや広域観光マップを充実します。【県、市町】
- ・各国で人気の高い海外旅行雑誌や国際線航空機の機内誌などにおいて、福井県の観光地等の記事を掲載し、世界に向けてPRします。【県】

④ 県内在住外国人の目線による福井の情報発信

- ・県内在住外国人による県内の観光地を巡るモニターツアーを実施し、外国人目線による新たな魅力の掘り起こしとその情報を世界に向けて発信します。【県、市町】
- ・外国人観光客受入環境について、実地調査を実施します。【県、市町】
- ・県内在住外国人のコミュニティやグループ、同郷のサークル等におけるSNS等のツールを活用した、福井の魅力や旬な情報の定期的な発信を促進します。【民間、県】

※主な県内在住外国人数（平成25年12月末現在）

・台湾	38人	・中国（香港含む）	3,971人
・タイ	183人	・シンガポール	2人
・韓国・朝鮮	2,715人	・アメリカ	157人
・ブラジル	2,108人		

④ 小松空港を活用した誘客の強化

- ・石川県と連携して、小松空港に乗り入れている定期便等を利用した本県を含む広域観光コースを造成・PRし、県内への誘客拡大を図ります。【県、市町】
- ・国内航空会社と連携して、羽田乗継便等を活用し、海外からの誘客拡大を図ります。【県、市町】
- ・ふくい上海ビジネスサポートセンターおよびふくいバンコクビジネスサポートセンターと国内航空会社の現地支店等が連携して現地旅行社への訪問営業を実施します。【県】

④ 近隣空港を活用した誘客の強化

- ・外国人観光客の利用が拡大している関西国際空港や中部国際空港からの貸切バスを利用した誘客を促進します。【県】
- ・関西国際空港や中部国際空港からの利用者に対して、福井の観光地を組み入れた広域観光の旅行商品を売り込みます。【県、民間】

④ 「第2 ゴールデンルート」を活かした誘客拡大

- ・北陸新幹線を活かした東京～京都・大阪間の「第2 ゴールデンルート」に、外国人観光客の関心が高い大本山永平寺の「禅」をはじめ、食や温泉、伝統工芸品などを組み入れた新たな観光コースを構築します。【県】
- ・北陸新幹線沿線7都県、国、JRと連携し、沿線エリアの外国語ガイドマップの作成や海外の旅行会社の招へいによるニーズ調査、モデルルートの提案などを行い、誘客を拡大します。【県、市町】

④ 昇龍道プロジェクトによる誘客活動の強化

- ・中部地域の観光関係団体等で組織している「昇龍道プロジェクト」において、東南アジアへのハイレベルミッションの実施や各国での国際旅行博への出展により、広域的な観光ルートの提案や積極的なPR活動を行います。【県、市町、民間】
- ・昇龍道プロジェクトの「竜」を福井県の「恐竜」につなげてPRするとともに、中部国際空港を起点に東海北陸自動車道から中部縦貫自動車道を経由し本県へと至る新たな広域観光ルートを開発します。【県、市町、民間】

④ 個人旅行者の誘客強化

- ・訪日外国人の個人旅行者の増加に合わせ、国内旅行社の個人向け観光商品の造成を促進します。【県、民間】

(2) 外国人受入環境の整備

現状と課題

- ・ スマートフォンやタブレット端末の普及により、これらを活用した観光情報の入手、交通機関・宿泊施設の予約のほか、旅先でのツイッターやフェイスブックなどのSNS利用による体験談の発信などが盛んになっています。しかし、外国人が日本国内でこれらを利用するためには、普段自国内で利用しているものとは別に、日本の通信会社と通信契約をする必要があることから、無料で利用できる通信環境の整備が喫緊の課題となっています。
- ・ 気軽にまち歩きを楽しんでもらうためには、案内看板等の多言語表記や、デザインの統一が必要です。
- ・ 本県には、土産品等を購入の際の消費税が免税となる店舗が少ないため、免税店の増加を図ることも重要です。

※県内の消費税免税店舗数：3店（H26.11現在）（出典：観光庁）
全国 5,777店舗

[方向性・目指す姿]

外国人観光客が安心して快適に旅行できるよう、無料無線LAN環境や案内看板等の多言語表記、消費税免税店の増加を図るほか、市町や民間事業者に対して、外国人観光客の受入についての積極的な対応を促進します。

⑨ 無料無線LAN環境の整備

- ・ 観光スポットや宿泊、食などの情報取得や、景色や観光地での感動等の情報発信のため、外国人観光客が最も利用している無料無線LAN環境の整備を、宿泊施設や主要観光地において、市町と連携して支援します。【民間、市町、県】

⑩ 案内看板等の外国語表記・統一化

- ・ 主要観光地の道路や市街地、県内版多言語案内看板等の統一ガイドラインを作成するとともに、まち歩き等を楽しめるよう、市町と連携し多言語表記化を推進します。【市町、県】
- ・ 外国人観光客とのコミュニケーションを円滑に図るため、多言語（英語、中国語（繁体字・簡体字）、韓国語等）の指差し会話シートを作成し、宿泊施設や交通事業者等に提供します。【県、市町】

⑨ 観光事業者等における外国人対応の促進

- ・消費税免税店数の拡大を図り、外国人が気軽にショッピングを楽しめる環境を整えます。【民間】
- ・クレジットカードや銀聯カードが利用できる施設の拡大を促進します。【民間】
- ・イスラム教やベジタリアンなど禁忌のある観光客の誘致拡大のため、飲食店や宿泊施設等のハラール対応等について、先進事例の取組み方法を紹介するなどし、受入環境の整備を促進します。【県】

⑩ 宿泊施設からの外国語による情報発信の充実

- ・宿泊施設におけるホームページの掲載内容の充実や多言語での表記など、インターネットを活用した外国語による情報発信を充実します。【民間】

⑪ 外国人観光客をサポートできる人材の育成

- ・通訳案内士のほか、簡単な案内、解説ができる在住外国人・留学生による観光通訳ボランティア、観光案内所における外国語スタッフ等、外国人の旅行をサポートできる人材を育成します。【県、市町、民間】

(3) イベント・コンベンションの誘致推進

現状と課題

- ・ イベント・コンベンション（国際会議、イベント、展示会・見本市）の開催は、福井県の国際的な知名度とイメージの向上、国内外からの来訪者などによる交流人口の拡大、これに伴う経済効果の創出、観光交流の機会の創出、さらには、海外からの来訪者との交流を通じた国際感覚を養う機会の県民への提供などの効果をもたらし、地域の活性化・国際化につながっています。
- ・ 平成25年度に本県で開催された国際会議は7件です。今後、国際会議や国際的な展示会、報奨旅行・研修旅行等の誘致を拡大していく必要があります。

※福井県 7件、石川県 19件、富山県 10件（平成25年度実績）（各県調べ）

[方向性・目指す姿]

従来誘致を進めてきた国際会議や大規模イベントに加え、企業が行う会議、報奨旅行・研修旅行など、MICE全般の誘致に向けた取組みを推進します。

※MICE：企業などが行う会議（Meeting）、企業が行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際会議（Convention）、イベント、展示会・見本市（Event/Exhibition）の頭文字

④ MICEによる観光客誘致の促進

<情報収集、PR等>

- ・ MICEの誘致・開催に向けて、国際機関や国、大学などからの情報収集を強化するとともに、先進事例のノウハウを習得します。【民間、県】
- ・ 福井でMICEを開催するメリットを、「国際ミーティングエキスポ（IME）」等の国際的な展示会においてPRします。【民間、県】
- ・ MICE参加者向けのエクスカージョンへの助成、観光施設の割引特典の付与などにより県内周遊観光を推進します。【民間】

<企業などが行う会議>

- ・ コンベンションホールと温泉情緒が味わえる宿泊施設が一体となっている、あわら温泉の大規模旅館を活用した会議等を誘致します。【民間、市町、県】
- ・ 通常の会議場ではなく、寺社仏閣や博物館、美術館などを利用して会議やレセプションを開催する「ユニークベニュー」を企画・立案し、積極的にPRします。【民間、市町、県】

<報奨・研修旅行>

- ・訪日旅行を希望する海外の学校や現地旅行会社などに対する誘致活動を、他県の海外事務所と連携して実施します。【県、市町、民間】
- ・ふくいバンコクビジネスサポートセンターを中心に、東南アジアの日系企業等の報奨旅行向けの観光素材や観光ルート情報を提供するなどし、誘致を促進します。【県】

<国際会議>

- ・エネルギーや里山里海湖などの環境、教育、恐竜や年縞などの自然科学といった福井県の強みを生かした国際会議や学会の誘致を推進します。【県、市町】
- ・県内外の大学・研究機関の国際的なキーパーソンとなる教授や研究者等を訪問するなどし、大規模な国際会議や学会の誘致を促進します。【民間、県】

<イベント、展示会・見本市>

- ・国際的なスポーツイベントを誘致するとともに、東京オリンピック・パラリンピックのキャンプや合宿の誘致を進めます。【県、市町】
- ・産地の組合等と連携し、伝統的工芸品の国際的な展示会等の開催を推進します。【民間、市町、県】

第4章 推進体制

1 推進体制・進行管理

(1) 福井県観光新戦略推進委員会の設置

観光新戦略を計画的かつ着実に推進するため、福井県観光新戦略推進委員会を設置します。

進行管理に当たっては、社会経済情勢の変化に的確に対応するため、毎年度、事業の達成状況を検証し、その結果を踏まえ、戦略プロジェクト等の見直しを柔軟に行います。

(2) 福井県観光推進会議等の強化

県、市町、観光協会、商工団体、観光事業者等で構成する福井県観光推進会議を定期的で開催し、観光関係者の全県的な情報共有を図るとともに、必要に応じ、テーマごとに分科会を設置し、具体的な施策を推進します。

また、庁内関係部局との連携を強化して、各種施策を円滑かつ効果的に推進します。

(3) 観光統計の充実と施策等への活用

観光地や宿泊施設などでのヒアリングやインターネット調査を通じて、観光客入込数や観光消費額、訪問観光地点数だけでなく、観光客の動向（周遊パターン、流入経路、滞在時間等）やニーズ、満足度、リピート率など本県観光の実態を量的・質的な面から調査・分析します。

これらを観光新戦略のフォローアップに活用するとともに、市町の観光施策や観光地の活性化・魅力づくり、観光事業者の事業展開などにも活かします。

2 役割分担

観光新戦略を推進するためには、県のみならず、県民や観光事業者、関係団体、市町などがそれぞれの現状や課題を認識し、役割を担いながら力を結集することが重要です。

主体	主な役割
<p style="text-align: center;">県</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会経済情勢の変化に的確に対応しながら、新戦略の各プロジェクトを計画的かつ効果的に推進します。 ・新戦略推進のため、体制・組織を強化するとともに、観光統計の収集・分析・活用を充実するなど観光振興の基盤を整えます。 ・市町や観光団体等が相互に連携・協働できるよう、総合調整や支援を行います。 ・都道府県間や、テーマや目的に応じた広域的な観光推進団体等との連携を強化します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><具体的な役割の例></p> <ul style="list-style-type: none"> ○新戦略に掲げる施策の進行管理や成果等を踏まえた見直し ○観光客入込数など観光統計や市場動向を踏まえた観光マーケティングの分析・取りまとめ ○本県のイメージリーダーとなる観光拠点等の整備の推進 ○国内外への情報発信・誘客宣伝活動の強化 ○市町、観光関係団体、観光事業者などが行う自主的・主体的な観光振興活動への支援 ○近隣府県、広域観光団体との連絡調整、広域事業の実施 </div>
<p style="text-align: center;">県民</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県民がふるさとに誇りと自信を持つことが重要です。県民がおもてなしの主役であり、自らが本県の素晴らしさを再認識し、その発信に努めます。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><具体的な役割の例></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自らが住む地域の魅力の再発見・再認識 ○県内旅行による各地の歴史・文化、自然等の体験 ○来訪者へのあいさつや道案内など親切な対応 ○清掃や景観づくり、祭事・イベントなど地域づくり活動への積極的な参加、参画 ○県内外の友人・知人への福井の魅力のPR </div>

民間事業者
・民間団体

＜観光事業者（旅行業者、交通事業者、宿泊業者、飲食業者等）＞

- ・自らの企画力と経営力を高め、魅力ある商品・サービスの提供や顧客満足度の向上を図ります。
- ・観光振興の最前線での担い手として、自らの創意工夫により、観光地域づくりに参画し、観光客と地域を繋げる役割を担います。

＜具体的な役割の例＞

- 観光サービスの提供者として、おもてなしの心の醸成、質の高いサービスの提供
- 市町、観光協会と連携した着地型旅行商品の造成
- 事業者同士の連携等による新たな観光の魅力の創出
- 国内外の観光客のニーズやユニバーサルデザインに対応した宿泊・観光施設のグレードアップやリニューアル
- 地域の観光情報の収集と情報発信

＜その他の民間事業者（農林水産事業者、商工業者等）＞

- ・農林水産事業者や商工業者など、各々の立場で、地域全体の活性化・魅力づくりに努めます。

＜具体的な役割の例＞

- 農商工の連携による観光客のニーズにあった新たな商品やサービスの開発
- 農林漁業や食、里山里海湖での暮らしなど、魅力ある体験の提供
- 伝統工芸などのものづくりや工場見学など、本県のオンリーワン技術の見える化による観光商品の創出

＜市町観光協会＞

- ・観光地の活性化・魅力づくりの中心的な役割を担う団体であり、商工会・商工会議所、農・森林・漁協など多様な団体と連携し、地域の魅力ある資源の発掘、宣伝・売込みに努めます。

＜具体的な役割の例＞

- 市町と連携した観光素材を活用した商品の企画・造成や宣伝活動の実施、旅行業の登録
- 農・森林・漁協や商工会・商工会議所、NPOなどと連携した新商品・サービスの開発
- 着地型周遊観光商品の企画・造成

	<p><福井県観光連盟></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客ニーズの多様化を踏まえ、民間事業者間や、宿泊施設と観光施設などをつなぐ観光振興のコーディネート機能を担います。 ・国内外での誘客宣伝活動を強化します。 ・自らが旅行商品の企画・販売を実施します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><具体的な役割の例></p> <ul style="list-style-type: none"> ○民間事業者等との連携による観光素材の発掘・磨き上げ ○県内宿泊・観光施設と連携した、本県ならではの観光素材を活かした旅行商品の造成・販売 ○市町や近隣府県等と連携したテーマ性、ストーリー性を活かした広域的な旅行商品の企画・造成 ○国内外への情報発信・誘客宣伝活動の強化 </div>
<p>市町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光・まちづくりの主体として、その地域振興に向けたビジョン、具体的な施策の企画・調整機能を強化します。また、景観形成やハード整備を行い、魅力ある観光地づくりに努めます。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><具体的な役割の例></p> <ul style="list-style-type: none"> ○県民のふるさと意識の醸成を図るため郷土歴史講座の開催や小中学校での観光読本の普及、県内遠足の推進 ○観光協会や農・森林・漁協、商工会・商工会議所などと連携した観光素材の発掘・活用と総合調整 ○市町間で連携した広域観光の推進 ○伝統的工芸品や地場産業の振興、これらを活用した産業観光の推進、土産品の開発 </div>

(参考1) 福井県観光新戦略策定委員会

1 委員名簿

委員氏名	企業・団体・職名
いしかわ ひろし 石川 浩	福井県和紙工業協同組合 理事長
いぬかい ゆみこ 犬養 裕美子	レストランジャーナリスト
うえの せいじ 上野 清治	(一社)若狭湾観光連盟 会長
えんどう ふみお 遠藤 富美夫	(株)福井新聞社 編集局特別編集委員
かつき たけとし 勝木 健俊 (座長)	(公社)福井県観光連盟 会長
かとう ふみこ 加藤 史子	(株)リクルートライフスタイル ジャらんリサーチセンター 主席研究員
たかはし あつし 高橋 敦司	東日本旅客鉄道(株) 鉄道事業本部営業部次長
たがわ ひろみ 田川 博己	(株)ジェイティービー 代表取締役会長
たなか あきお 田中 章雄	(株)ブランド総合研究所 代表取締役社長
ともひろ みどり 友廣 みどり	(株)ウララコミュニケーションズ 取締役
みずた まさひろ 水田 雅博	西日本旅客鉄道(株) 営業本部 担当部長

(五十音順、敬称略)

2 委員会の開催経緯

○第1回委員会

日 時 平成26年6月5日(木)
 主な議題 委員会開催要領説明および座長選出
 新ビジットふくい推進計画の検証
 本県観光を取り巻く状況
 本県観光振興における課題
 観光新戦略の柱について(案)

○第2回委員会

日 時 平成26年7月30日（水）
主な議題 福井のブランド力の向上について
福井らしい魅力創出について

○第3回委員会

日 時 平成26年8月19日（火）
主な議題 おもてなし環境・交通アクセス等の向上について
観光情報の発信・誘客プロモーションの強化について
広域連携の推進について
国際観光の推進について

○第4回委員会

日 時 平成26年10月24日（金）
主な議題 観光新戦略の方向性（案）について
観光新戦略（案）について

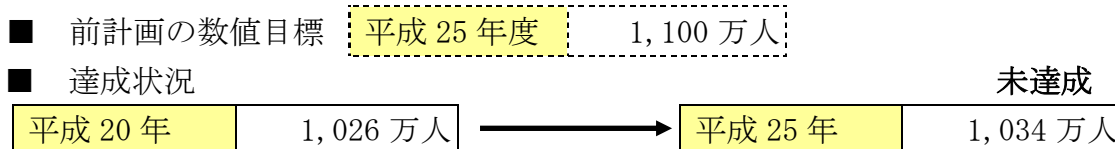
(参考2) 新ビジットふくい推進計画の検証

この推進計画は平成21年2月に策定したもの（計画期間 平成21年度～平成25年度）で、“ほんもののふるさと 越前・若狭”の基本理念の下、「みがく」、「たかめる」、「そだてる」、「しぼる」、「つたえる」の5つの戦略を展開してきました。

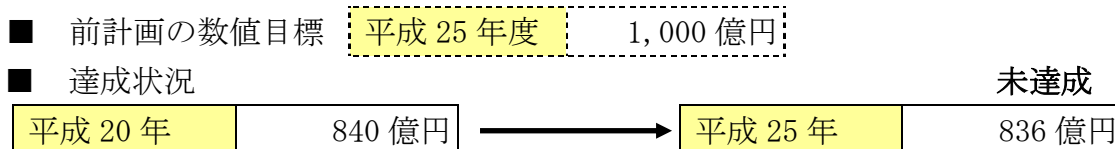
1 計画で掲げた数値目標の達成状況

- 平成25年の観光客入込数は1,034万人となりました。東日本大震災の影響による減少からの回復が遅れており、計画策定前（平成20年）の1,026万人と比べ0.8%の増加に止まりました。
- 平成25年の観光消費額は836億円となり、平成20年の840億円と比べ、0.5%の減少となりました。
- 平成25年の教育旅行受入数は6.9万人となりました。学生合宿の積極的な受け入れにより、目標の3.0万人を大きく上回って達成し、平成20年の1.2万人の約5.7倍に増加しました。
- 平成25年の外国人客数は2.8万人となりました。震災後の円高と原発事故による風評被害、日中・日韓関係の悪化等の影響を受けて低迷し、平成20年の2.2万人と比べ27.3%の増加に止まりました。

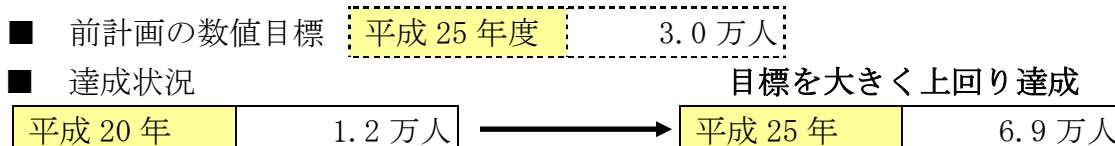
(1) 観光客入込数



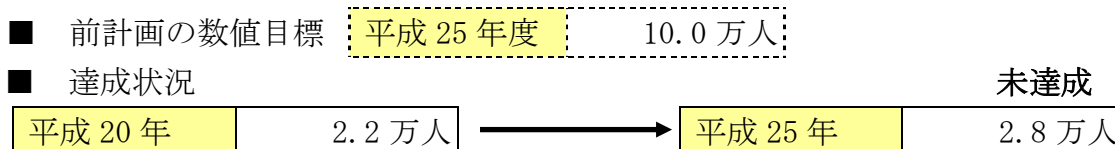
(2) 観光消費額



(3) 教育旅行受入数



(4) 外国人客数



2 計画の成果と課題（H21～25年度）

(1) みがく ～ 観光地の活性化 ～

観光地・施設、旅館の魅力づくりや土産品の販路開拓、観光基盤の整備

- 平成21年度から平成23年度にかけて、東尋坊、あわら温泉、永平寺門前において、目玉となる観光地づくりに取り組んだほか、平成22年度から恐竜博物館や一乗谷朝倉氏遺跡など観光拠点のスケールアップを進めています。また、平成24年度からはあわら温泉街や敦賀金ヶ崎、三方五湖周辺など県内7地区において観光まちなみの魅力アップ等を支援しています。
- 「福井ならではの」体験、「福井にしかない」見どころを中心に自然、景観、歴史・文化、体験等の観光素材の掘り起しと磨き上げを行っています。
- 福井の魅力を高め、誘客を拡大するため、観光客と地域住民双方の視点に立って、魅力ある地域づくりを進める必要があります。

ア 主な実施内容

①観光の魅力づくり

- ・ 恐竜博物館において、平成25年3月から、全長15mのカマラサウルスの実物化石を常設展示するなど、展示の充実を進めました。
- ・ 実際の化石発掘現場において恐竜足跡の化石展示や化石発掘体験の可能な「野外恐竜博物館」が平成26年7月にオープンしました。
- ・ 一乗谷朝倉氏遺跡において物見台の整備（平成24年度）や電線類の地中化など歴史的空間にふさわしい景観づくりを行っているほか、嶺南エリアでは、歴史文化観光の拠点としてガイド機能強化する若狭歴史博物館を平成26年7月にリニューアルオープンしました。
- ・ これらの結果、恐竜博物館の平成25年度の入館者数は70.8万人と平成20年度から80.2%増加するとともに、一乗谷朝倉氏遺跡の平成25年の来客数は67.4万人と平成20年の1.5倍に増加しました。

○ 恐竜博物館入館者および一乗谷朝倉氏遺跡入場者数

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25
恐竜博物館 入館者数	39.3万人	43.9万人	50.9万人	51.5万人	54.1万人	70.8万人
			80.2%増			

(県立恐竜博物館調べ)

年	H20	H21	H22	H23	H24	H25
一乗谷朝倉 氏遺跡入場 者数	44.6万人	54.0万人	72.1万人	93.8万人	72.1万人	67.0万人
			50.2%増			

(県観光振興課調べ)

- ・ 平成21年度から平成23年度にかけて、東尋坊、あわら温泉、永平寺門前において、目玉となる観光地づくりに取り組んでいます。
 - ・ 舞鶴若狭自動車道「若狭さとうみハイウェイ」全線開通や北陸新幹線金沢開業に向け、平成24年度からは、あわら温泉の景観整備など、県内7地区で市町が行う観光地の魅力アップの支援を行っています。
 - ・ あわら温泉では、平成26年4月に「芦湯」のオープンに続き、まち歩きを楽しむことができる街路整備を進めています。
 - ・ 敦賀金ヶ崎では、平成27年秋オープンを目指し、赤レンガ倉庫の耐震化と「鉄道と港」をテーマとしたジオラマ館などの整備を進めています。
 - ・ 三方五湖周辺では、縄文ロマンパークをはじめとする景観整備を進めています。
 - ・ このほか、福井市浜町界限、永平寺町永平寺門前、南越前町今庄宿および小浜市小浜西組周辺において、伝統的なまちなみや地域独自の歴史・文化を活かした観光まちなみ整備を進めています。
- ・ 平成24年度から、若狭の秘仏公開に合わせたガイド付きのバスツアーを実施しているほか、平成25年度からは、あわら温泉と恐竜博物館を結ぶ直通バスを運行するなど、観光客の交通の利便性の向上に努めています。
 - ・ 平成23年4月に「福井ふるさと百景」を選定したほか、景観づくり活動団体への支援、ふるさと百景ビューポイント（足羽山、五箇地区、早瀬地区等）の整備など、福井の美しい景観の保全と活用に努めました。
- ・ 平成24年度から、フェイスブックや宿泊予約サイトの活用セミナーを実施し、宿泊施設の情報発信力を強化しました。
 - ・ 土産品の魅力づくりを推進するため、県観光連盟において優良観光土産品を選定・推奨するとともに、大宮、東京、大阪などの大都市圏で物産と観光展を開催し、県産品の販路拡大に努めました。

②周遊・県境観光の推進

- ・ 越前加賀エリアで、広域観光マップの作成、ご当地グルメイベントの開催、県境を越えて案内できる観光ガイドタクシーの普及（研修、認定）および観光コースの設定のほか、越前加賀エリアや白山エリアでの周遊観光ルートの造成、レンタカーキャンペーンなど、周遊・県境観光を推進しました。
- ・ 平成27年10月に開催される「北陸デスティネーションキャンペーン」の開催に向けて、北陸三県、観光連盟等と実行委員会を設置し、準備を進めています。
- ・ 舞鶴若狭自動車道「若狭さとうみハイウェイ」全線開通に向けて中日本高速道路（株）、西日本高速道路（株）、京都府等と協議を進め、県内区間を含む周遊エリアを定額で周遊できるプランを設定しました。

③旅行会社との連携推進

- ・ 本県への観光商品造成を促進するための助成制度を設けるとともに、都市圏等における観光商談会や、旅行会社を県内に招聘して、観光地視察を実施するファミトリップを行うなど、旅行会社との連携を推進しました。
- ・ 越前加賀エリアへ首都圏からの誘客強化を図るため、東京で開催される国内最大級の観光博覧会であるツーリズムE X P O ジャパンに出展するとともに、首都圏旅行会社によるモニターツアーを実施しました。

○ 三大都市圏等の観光商談会の参加者数

都市名	H21		H25	
	旅行会社	県内事業者	旅行会社	県内事業者
東京	17社 29人	19社 30人	28社 60人	34社 42人
大阪	18社 46人	33社 49人	19社 37人	35社 44人
名古屋	21社 49人	51社 75人	16社 33人	42社 59人
計	56社 124人	103社 154人	63社 130人	111社 145人

(県観光連盟調べ)

○ 助成制度を活用した旅行会社の送客実績

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25
送客数	3.9万人	4.1万人	4.6万人	4.5万人	6.6万人	6.6万人

約 1.7 倍

(県観光振興課調べ)

イ 主な課題

- ・ 東尋坊や大本山永平寺など、古くからの観光地では、平成20年と比較して入込数が減少していることから、統一されたブランドコンセプトの下で、地域が一体となって、ハード・ソフトの両面から、さらなる観光地の魅力づくりに取り組む必要があります。
- ・ 恐竜博物館の集客効果を周辺観光地への周遊につなげることにより、県内での宿泊や土産品の購入を増やしていく必要があります。
- ・ 舞鶴若狭自動車道「若狭さとうみハイウェイ」全線開通や北陸新幹線金沢開業等の高速交通ネットワークの整備の効果を最大化するため、この土地ならではの商品を造成するなど、観光素材の継続的な磨き上げが必要です。
- ・ 主要観光地までの二次交通アクセスについて、県の支援による運行から民間主体での運行につなげていく必要があります。
- ・ 高速交通ネットワークの整備が進むことで、県境をまたいで周遊する観光客の増加が見込まれるため、近隣県との連携による誘客を一層、強化していく必要があります。
- ・ 県内の各地域がそれぞれに持つ魅力を組み合わせて、観光客に提案できるよう、福井坂井奥越、丹南、嶺南など、広域での観光の推進を図ることが必要です。

- ・ 県内の土産品事業者が、国内外へのコンペティションに積極的に参加するなど、県産品の国内外での評価と認知度を高めていく必要があります。
- ・ 都市圏等の旅行会社が、助成がなくても、旅行商品化したくなるよう、観光素材のさらなる魅力アップが必要です。

(2) たかめる ～ 推進体制の強化 ～

誘客・誘致体制と営業力の強化や観光統計の精度向上

- 平成21年4月に観光営業部を設置し、平成24年4月には文化振興、景観、食のブランド化、地産外消業務を同部に移管しました。
- 平成22年8月に県観光連盟が旅行業登録を行い、自主的に着地型旅行商品の企画・販売ができる体制を整備しました。

ア 主な実施内容

①体制・機能の強化

- ・ 平成21年4月に県庁に全国でも珍しい「営業」と名の付く「観光営業部」を設置し、同部が中心となって県庁全体で本県の魅力を売り込む営業体制を整備しました。また、平成24年4月には同部に文化振興、景観づくり、食のブランド化、地産外消業務を移管し、営業体制の強化を図りました。
- ・ 県観光連盟が平成22年8月に第2種旅行業の登録を行い、福井ならではの観光素材を活用した着地型旅行商品（ツアー291）の造成や定期観光タクシーの企画・販売を行いました。

○ ツアー291 催行回数および参加者数

年度	H22	H23	H24	H25
催行回数	23回	226回	233回	302回
参加者数	310人	1,171人	2,057人	2,037人

(県観光連盟調べ)

- ・ 県観光連盟の観光プロデューサーおよび誘客アドバイザーが県内の観光事業者に対して助言するとともに、専門家の視点から、「売れる」旅行商品の企画立案や効果的な誘客促進策の提案などを行いました。

②観光統計の整備

- ・ 北陸新幹線沿線エリアにおいて、本県の観光地等の認知度や来訪経験、来訪意向の調査を実施し、本県観光の課題の把握に努めました。さらに、アンケート結果に基づいた観光地ごとの課題について、地元市町等と共有しました。

イ 主な課題

- ・ ビックデータ等の活用や、「なぜ福井に来訪しないのか」など、課題を掘り下げる二次調査なども実施し、観光客の動態を的確に捉え、施策に反映させていくことが必要です。

(3) そだてる ～ 観光の人づくり ～

地域リーダー・語り部の育成やおもてなしの向上、県民のふるさと意識の醸成

- 観光ボランティアガイドの養成と能力向上、観光事業者等を対象にしたおもてなし研修を実施しています。
- 県民全体のおもてなし気運の醸成、おもてなし空間の整備が不十分です。

ア 主な実施内容

①観光人材の育成

- ・ 観光地の魅力を十分に伝え、観光客に楽しんでもらえるよう、語り部発表会や先進地視察、現地研修会などを支援し、観光ボランティアガイドの養成と能力向上を図りました。
- ・ 県内観光地を訪れる幅広い年齢層の観光客に楽しんでもらえるよう、アミューズメント性の高い観光ガイドを養成するため、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン等のプロの講師による実地講習を実施しました。
- ・ こうした取組みにより、県内の観光ボランティアガイド数は、平成20年度の336人から、平成25年度は384人となり、27.3%増加しました。

②おもてなしの向上

- ・ タクシー乗務員や土産品店の従業員等、観光客と接する機会の多い事業者を対象に、おもてなしのレベルアップを図る研修会を実施しました。
- ・ 平成22年度から、認定講習と認定試験を実施することにより、「おもてなし認定者」を増やし、おもてなしレベルの底上げを進めました。
- ・ 県内最大の宿泊地であるあわら温泉のおもてなし力を高めるため、すべての女将が平成25年4月に唎き酒師資格を取得するとともに、平成26年3月には、従業員を含む220人余りが参加した「おもてなし向上セミナー」を実施しました。

イ 主な課題

- ・ 観光ボランティアガイドをはじめ、観光人材の高齢化が進んでいるため、高校・大学生に対し、県内の観光素材を学び、紹介していくなど、観光人材の育成・確保が必要です。
- ・ 「笑顔であいさつ」や「丁寧な言葉遣い」など、実践を伴ったおもてなし意識の向上や、「まちの美化」や「花いっぱい運動」などおもてなしの空

間づくりなど、県民全体でのおもてなし気運の醸成やそれを推進する体制づくりが必要です。

(4) しぼる ～ 対象を絞ったアプローチ ～

年齢層や地域、目的など、対象を絞って観光客を誘致
これらの対象の“こだわり”に応える商品・サービスを提供

- 中高齢や女性などのニーズに合わせた着地型旅行商品の造成や学生合宿を含めた教育旅行の誘致を推進しています。
- 東アジアからの誘客拡大を図るため、近隣県と連携した誘客プロモーションや現地旅行会社の招聘やインセンティブツアーの実施を行っています。
- 今後、訪日外国人旅行者の増加に合わせて、各国の外国人観光客の動向等に的確に対応した誘客拡大を図っていく必要があります。

ア 主な実施内容

ターゲットごとのプロモーション

①中高齢、女性層

- ・ 旅行会社のトップカテゴリーに位置する旅行商品（プレミアムツアー）の造成を支援するとともに、医療観光の推進のため、PET検診施設や陽子線がん治療施設の説明資料の作成を行いました。
- ・ 女性歴史愛好家である「歴女」や女性カメラ愛好家である「カメラ女子」向けの着地型旅行商品を企画・販売しました。

②教育旅行

- ・ 学生合宿の誘致のための助成制度を設けるとともに、関西、中京および首都圏の大学やエージェントに対して営業活動を行った結果、平成25年度の教育旅行者数は69,100人と平成20年度の約5.7倍となりました。

○ 教育旅行受入数の推移

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25
教育旅行 受入数	1.2万人	1.6万人	3.6万人	5.9万人	6.6万人	6.9万人

約5.7倍

(県観光振興課調べ)

③外国人旅行者

- ・ 台湾・中国を中心に教育旅行の受入を推進するとともに、東アジアの旅行会社の招へいやインセンティブツアーの誘致を行いました。

○ 海外からの教育旅行受入数の推移

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25
海外からの教育旅行受入数	4校 146人	3校 89人	7校 262人	8校 315人	4校 116人	9校 315人
			2.2倍			

(県観光振興課調べ)

- ・ 小松空港を福井の玄関口と捉え、平成24年度から石川県と共働で、台湾へのプロモーション活動を展開するとともに、北陸、中部、関西の広域の連携組織に参画し、広域での観光ルートの売込みなどを行いました。
- ・ さらに、外国人観光客へのPRツールとして、外国人向けの観光マップや観光PRビデオ、県の観光情報ポータルサイトの外国語ページを作成しました。
- ・ こうした取組みにより、平成25年度の外国人客数は、2.8万人と平成20年度から、27.3%増加しました。

○ 外国人客数の推移

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25
外国人客数	2.2万人	1.6万人	2.0万人	1.3万人	2.1万人	2.8万人
			27.3%増			

(県観光振興課調べ)

④ コンベンション

- ・ 全国規模のコンベンションを全県挙げて誘致するため、平成21年6月に、経済、学術、教育・文化などの関係団体で構成される「福井県コンベンション誘致推進会議」を設置したほか、コンベンション開催のための助成や、学会・大学のキーパーソンへの営業訪問などを行いました。

○ コンベンション開催件数の推移

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25
コンベンション開催件数	194件	220件	287件	233件	266件	227件
			17.0%増			

(県観光振興課調べ)

イ 主な課題

- ・ ターゲットごとのニーズや他県等での成功事例等を把握し、常に新しい魅力を提案し続ける必要があります。
- ・ 教育旅行のさらなる誘致のために、修学旅行が多い京都等との連携を強化することが必要です。

- ・ クレジットカードや銀聯カード等への対応や、無料無線LAN環境の整備、多言語表記の共通ルールの策定など、外国人旅行者の受入環境の整備を進める必要があります。
- ・ 国際規模等の大きなコンベンション誘致には、宿泊施設と一体となった国際会議場の整備や、官民が一体となった誘致活動が必要です。

(5) つたえる ～ 情報発信の質と量の強化と優れた文化の次世代への継承 ～

本県の暮らしやすさや元気を国内外へ発信

本県の優れた生活文化を次世代に継承

- 平成24年度から「恐竜」や「食」などを前面に打ち出し、首都圏や北陸新幹線沿線等を中心に出向宣伝やPRイベントを実施しています。
- 平成25年4月に東京で2店目となるアンテナショップ「食の國 福井館」を銀座に開設しました。
- 観光情報の入手先としてインターネットの利用が高まっている中、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）等への対応が不十分です。

ア 主な実施内容

①情報発信（国内）

- ・ 平成24年度から北陸新幹線沿線エリアの大宮、高崎、長野において、「越前がに」と「恐竜」を前面に打ち出した大型広告の掲出と駅構内でのPRイベントを実施し、併せて地元メディアや旅行会社への営業訪問を実施しました。
- ・ 平成24年10月に、本県の観光情報ポータルサイト「ふくいドットコム」を全面リニューアルし、「旬の食材が食べられる店」の情報の掲載など、福井の主力の観光素材である「食」の情報を充実したほか、スマートフォンへの対応や、フェイスブックなどのSNSとの連携を図りました。
- ・ 平成25年4月には、東京・南青山に加え、本県の食の魅力を発信するため、銀座に「食の國福井館」を新たに開設しました。
- ・ 平成25年8月には、東京丸の内での「大恐竜展 in 丸の内 2013～福井県恐竜博物館コレクション～」や、東京駅およびその周辺の37店舗で県産食材を使用した特別メニューを提供した「ニッポンおいしいフェア 食の國福井」の開催により、東京駅周辺で「恐竜」と福井の「食」の魅力を集中的にアピールしました。
- ・ 平成25年8月には、県内でロケを行った映画の放映に合わせ、映画映像と県内観光地の映像をミックスしたコマーシャルの放送を行うなど、映画と連動した観光PRを実施しました。
- ・ 東京・名古屋・大阪に加え、平成26年1月からは新たに北陸新幹線沿線の主要駅である大宮駅前でも物産と観光展を開催し、本県の観光土産

品の販売・PRを実施しました。

- ・ JRやNEXCOとの連携による観光情報の提供を行いました。

○ ふくいドットコムへのアクセス数の推移

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25
トップページのアクセス数	84万件	91万件	97万件	75万件	88万件	111万件

32.1%増

(県観光振興課調べ)

②海外での戦略的誘客宣伝プロジェクト

- ・ ふくいドットコムやYouTube用の動画として、外国人向けのコンテンツを制作しました。
- ・ 平成24年12月の小松～台北便のデイリー化に向け、石川県と共同で平成24年10月に台湾で合同観光プロモーションを初めて行い、旅行社訪問営業や観光商談会、交流会等を実施しました。
- ・ 北陸国際観光テーマ地区推進協議会、中部広域観光推進協議会、関西地域振興財団など北陸、中部、関西の各エリアにおける広域連携を進め、各国で行われる国際旅行博等に共同で出展し、現地旅行社、メディア等へのPRを行いました。

イ 主な課題

①情報発信（国内）

- ・ 全国的に「恐竜王国 福井」や「食の国 福井」の認知度は高まりつつあるものの、福井県がどういうところで、どういう魅力があるかなどについて、広く知ってもらう必要があります。
- ・ 割引クーポンや限定メニューの開発など、民間主導による誘客への取組みを強め、また、飲食店などインターネット上で直接予約ができるようにする必要があります。
- ・ イベントや旬の食べ物、話題のスポットなど、現地のタイムリーな情報発信を行う必要があります。

②海外での戦略的誘客宣伝プロジェクト

- ・ 英語によるSNSの活用など、観光に携わるスタッフの生の声を発信する必要があります。
- ・ 各国の海外旅行に対するニーズを的確に捉えた売り出し方を工夫する必要があります。

(6) ブランド化の推進

新ビジットふくい推進計画では、「ブランド化の推進」という戦略の柱は掲げていませんでしたが、平成21年4月に観光営業部を設置し、観光振興とブランド対策を一体となって進めてきたことから、「ブランド化の推進」についても検証します。

他県との違いを明確にしたブランド化とブランドを活用したビジネスの推進

- 「恐竜王国 福井」の認知度が高まり、平成25年度には恐竜博物館の年間入館者が70万人を超えました。
- 平成26年2月に福井県恐竜公式ブランド「Juratic」の制作発表を行いました。今後、県内外における認知度を高め、キャラクターを活用した商品の開発・販売を進めることが必要です。
- 都市圏等で県産食材を使用した福井フェアを展開しています。今後、「福井の和食文化」の継承・発展と国内外への発信の強化が重要です。

ア 主な実施内容

①映画・ドラマ・小説の誘致

- ・ 平成22年11月に恐竜博物館が監修したニンテンドーDSゲーム「スーパーカセキホリダー」が全国発売されました。
- ・ 歴史小説家に対して福井県を舞台にした小説の執筆を働きかけ、平成23年9月に福井藩祖「結城秀康」を主人公とした歴史小説「家康の子」の出版を実現しました。
- ・ 福井県を舞台にした映画・ドラマの制作について、映画関係者等に対する営業活動やロケ支援等を行い、平成25年3月には「恐竜を掘ろう」、平成25年8月には「獣電戦隊キョウリュウジャー」が公開されたほか、平成25年9月にはNHK・BS番組「恐竜せんせい」が、平成26年4月には映画「サクラサク」が全国公開されました。

②恐竜博物館のレベルアップ

- ・ カマラサウルスの全身骨格化石を購入し、平成25年3月から常設展示を行いました。
- ・ 恐竜化石発掘調査や国内外の共同発掘調査・研究を継続して実施するとともに、県立大学恐竜学研究所やアジア恐竜協会を設立するなど、恐竜研究機能の強化を図りました。
- ・ 恐竜博物館が主な舞台となるテレビ番組や映画の全国放映、東京丸の内における恐竜展の開催や本県の恐竜化石発掘成果を展示した特別展の開催などにより、着実に知名度を高め、平成25年度の恐竜博物館の年間来館者数は、平成12年度の開館以来最大となる70.8万人を記録しました。

③恐竜ブランドビジネスの推進

- ・ 恐竜ネクタイや恐竜3Dポストカードなど恐竜博物館が監修する商品開発や、県外で開催される恐竜展への骨格標本貸出など、恐竜ビジネスを展開しました。
- ・ 平成26年2月に本県の公式恐竜ブランド「Juratic」を制作・発表し、当キャラクターを活用したビジネスセミナーを開催しました。

④食のブランド化

- ・ 都市圏における福井の食の知名度向上のため、ホテルや百貨店に対し福井県の食を紹介する「福井フェア」を開催しています。
- ・ 若狭地域の食のブランド化を図るために、昼食メニュー「若狭路ご膳」を平成25年にスタートしました。

○ 食のブランド化の主な取組み実績

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ ホテル、レストランでの「福井フェア」開催件数
平成24年度9件、平成25年度10件・ 都市圏の百貨店等での「福井フェア」の開催件数
平成24年度8件、平成25年度10件・ 「若狭路ご膳」
平成26年9月末現在 94店舗 117メニュー |
|---|

(県ブランド営業課調べ)

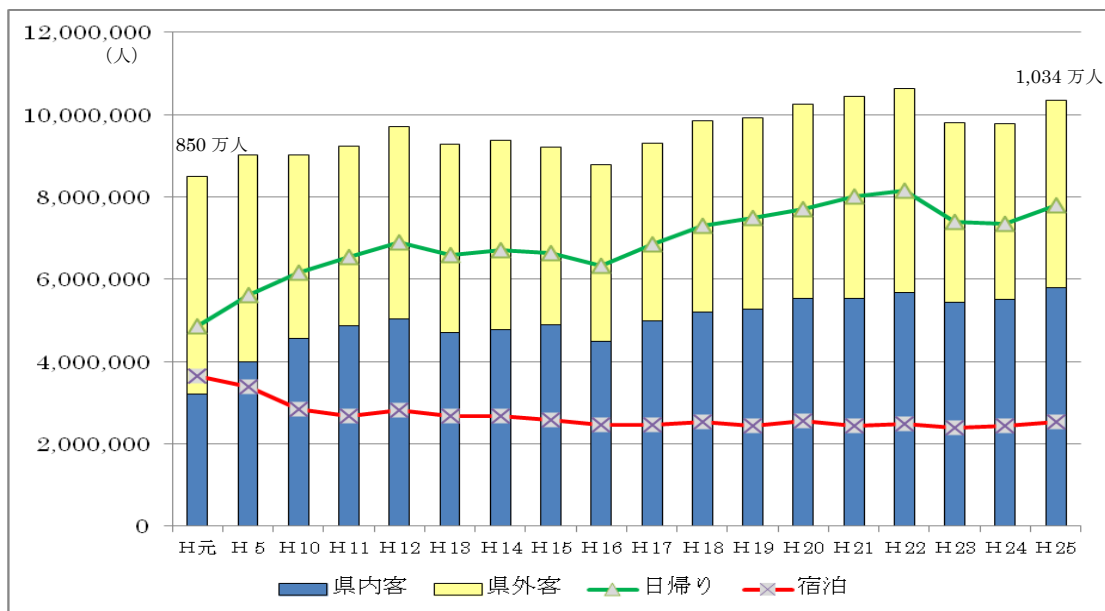
イ 主な課題

- ・ 福井を舞台にした大河ドラマなどの誘致を働きかけ、本県の魅力発信や誘客拡大を図る必要があります。
- ・ 恐竜博物館を核とした奥越一帯への誘客について、地元市との協議、民間企業の誘致活動等を実施し、新たな方向性を検討する必要があります。
- ・ 恐竜キャラクター等を活用した情報発信とオリジナル商品の開発・販売等を促進し、本県独自の魅力を活用したビジネスの拡大を図る必要があります。
- ・ 平成25年12月に「和食；日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されたのを機に、福井県の食や食文化の新たな魅力の向上を図り、国内外に発信していく必要があります。

(資料) 観光統計

1 本県観光の動向

(1) 観光客入込数の推移

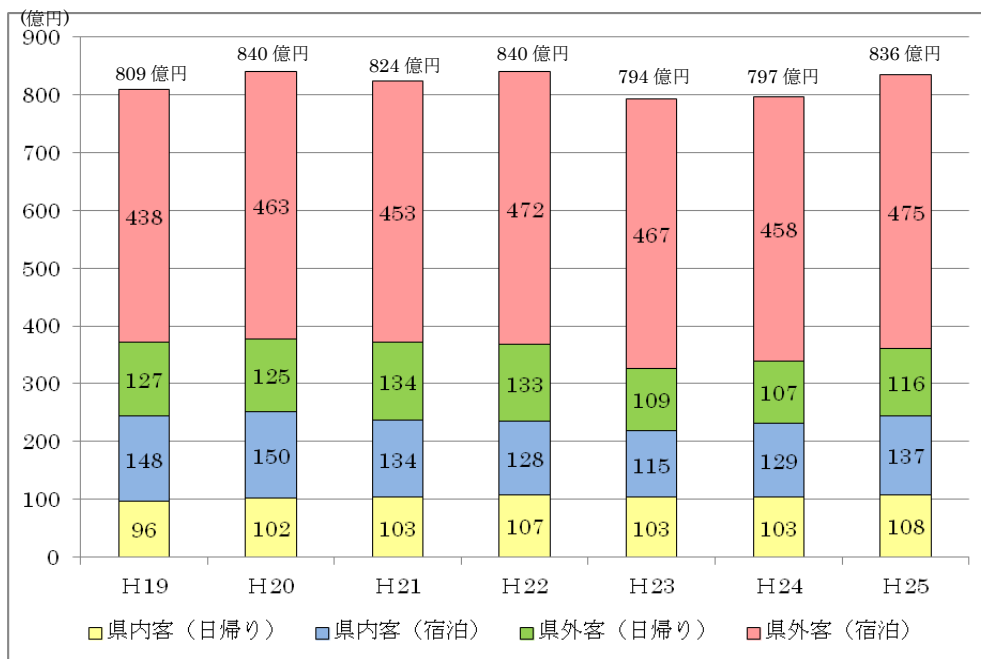


(単位：人)

年	観光客入込数(実人数)		地域別		日程別	
	合計	対前年比	県内客	県外客	日帰り	宿泊
H元	8,503,000	104.7	3,210,000	5,293,000	4,862,000	3,641,000
H 5	9,012,000	94.3	3,992,000	5,020,000	5,620,000	3,392,000
H10	9,015,000	99.3	4,549,000	4,466,000	6,164,000	2,851,000
H11	9,237,000	102.5	4,859,000	4,378,000	6,553,000	2,684,000
H12	9,715,000	105.2	5,042,000	4,673,000	6,896,000	2,819,000
H13	9,271,000	95.4	4,697,000	4,574,000	6,594,000	2,677,000
H14	9,382,000	101.2	4,777,000	4,605,000	6,707,000	2,675,000
H15	9,222,000	98.3	4,891,000	4,331,000	6,640,000	2,582,000
H16	8,793,000	95.3	4,493,000	4,300,000	6,325,000	2,468,000
H17	9,302,000	105.8	4,989,000	4,313,000	6,842,000	2,460,000
H18	9,851,000	105.9	5,191,000	4,660,000	7,312,000	2,539,000
H19	9,934,000	100.8	5,268,000	4,666,000	7,491,000	2,443,000
H20	10,259,000	103.3	5,537,000	4,722,000	7,708,000	2,551,000
H21	10,438,000	101.7	5,542,000	4,896,000	8,006,000	2,432,000
H22	10,626,000	101.8	5,683,000	4,943,000	8,148,000	2,478,000
H23	9,800,000	93.9	5,444,000	4,356,000	7,407,000	2,393,000
H24	9,774,000	99.7	5,501,000	4,273,000	7,346,000	2,428,000
H25	10,344,000	105.8	5,784,000	4,560,000	7,811,000	2,533,000

(注) 総観光客(実人数)・・・市町が集計した延べ人数を(公社)日本観光振興協会の「全国観光統計基準」により得られた係数(平均訪問観光地点数)一人当たりの県内観光地の訪問数で除して算出したもの。
(県観光振興課調べ)

(2) 福井県の観光消費額の推移



年	観光消費額	対前年比	県内客		県外客	
			日帰り	宿泊	日帰り	宿泊
H19	809 億円	98.1%	96 億円	148 億円	127 億円	438 億円
H20	840 億円	103.8%	102 億円	150 億円	125 億円	463 億円
H21	824 億円	98.1%	103 億円	134 億円	134 億円	453 億円
H22	840 億円	101.9%	107 億円	128 億円	133 億円	472 億円
H23	794 億円	94.5%	103 億円	115 億円	109 億円	467 億円
H24	797 億円	100.4%	103 億円	129 億円	107 億円	458 億円
H25	836 億円	104.9%	108 億円	137 億円	116 億円	475 億円

(注) 「平成 16 年観光客動向調査」による 1 人当たりの平均観光消費額に観光客数(実人数)を乗じて算出したもの。

(県観光振興課調べ)

(3) 県外客の発地別入込状況推移

(単位：千人)

年	関西	中京	関東	北陸	その他	計
H19 (実人数)	2,070	1,318	282	713	283	4,666
(構成比)	44.4%	28.2%	6.0%	15.3%	6.1%	100%
H20 (実人数)	2,064	1,331	268	756	303	4,722
(構成比)	43.7%	28.2%	5.7%	16.0%	6.4%	100%
H21 (実人数)	2,124	1,330	300	806	336	4,896
(構成比)	43.4%	27.2%	6.1%	16.5%	6.8%	100%
H22 (実人数)	2,212	1,256	273	806	396	4,943
(構成比)	44.8%	25.4%	5.5%	16.3%	8.0%	100%
H23 (実人数)	1,863	1,190	285	687	331	4,356
(構成比)	42.8%	27.3%	6.5%	15.8%	7.6%	100%
H24 (実人数)	1,830	1,169	279	694	301	4,273
(構成比)	42.8%	27.4%	6.5%	16.2%	7.1%	100%
H25 (実人数)	1,917	1,236	303	788	316	4,560
(構成比)	42.0%	27.1%	6.6%	17.3%	7.0%	100%

(注)「関西」・・・大阪府・京都府・兵庫県・奈良県・滋賀県・和歌山県

「中京」・・・愛知県・三重県・岐阜県

「関東」・・・東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・茨城県・群馬県・栃木県

「北陸」・・・石川県・富山県

「その他」・・・上記以外の道県および外国

(県観光振興課調べ)

(4) 市町別観光客数推移(延べ人数)

(単位:千人、%)

市町名	H22	H23	H24	H25	H25/H22 年比
福井市	3,043	3,193	3,155	3,122	102.6
敦賀市	2,011	1,880	1,894	1,754	87.2
小浜市	1,342	1,418	1,438	1,486	110.7
大野市	1,806	1,507	1,515	1,522	84.3
勝山市	1,558	1,545	1,568	1,702	109.2
鯖江市	1,154	1,388	1,148	1,194	103.5
あわら市	1,305	1,258	1,382	1,549	118.7
越前市	1,016	1,056	944	977	96.2
坂井市	5,315	3,777	3,907	4,331	81.5
永平寺町	627	564	558	637	101.6
池田町	137	122	117	119	86.9
南越前町	721	682	643	628	87.1
越前町	1,168	1,159	1,188	1,233	105.6
美浜町	851	714	714	847	99.5
高浜町	1,039	819	721	902	86.8
おおい町	892	810	803	1,038	116.4
若狭町	1,357	1,216	1,259	1,301	95.9
計	25,342	23,108	22,954	24,342	96.1

(県観光振興課調べ)

(5) 県内主要観光地の観光客数推移（平成25年の観光客数が5万人以上）

（単位：千人）

市町名	観光地 （施設）名	H22		H23		H24		H25	
		県外客	計	県外客	計	県外客	計	県外客	計
福井市	一乗谷朝倉氏遺跡	505	721	750	938	505	721	469	670
	越前海岸（福井市）	252	544	234	438	198	444	207	445
	健康の森温泉	10	149	10	156	10	156	10	156
敦賀市	氣比神宮	441	630	427	610	460	658	437	624
	あっとほうむ	25	149	21	120	23	135	26	152
	金崎宮	81	116	119	170	101	144	94	135
	敦賀きらめき温泉リラ・ポート	104	110	91	96	98	103	100	105
	氣比の松原（海水浴客を除く）	79	83	81	85	83	88	90	95
小浜市	道の駅「若狭おばま」	—	—	310	326	429	451	479	504
	蘇洞門めぐり	324	345	258	263	219	243	217	241
	御食国若狭小浜食文化館	215	228	173	186	149	160	126	168
	若狭塗箸施設	131	138	126	132	93	100	95	101
	国宝めぐり	115	122	95	101	85	90	86	90
	国立若狭湾少年自然の家	80	85	64	78	65	79	62	78
大野市	大野まちなか観光	533	752	395	563	399	513	444	574
	九頭竜湖	173	283	146	239	166	272	169	277
	六呂師高原	43	172	45	162	48	173	81	132
	道の駅「九頭竜」	80	131	71	116	67	109	28	108
	和泉ふれあい会館	43	70	49	80	51	83	38	63
	九頭竜峡	40	57	40	51	44	55	45	56
勝山市	恐竜博物館・かつやま恐竜の森	442	532	362	542	426	553	586	733
	スキージャム勝山	144	293	126	284	126	287	146	305
	平泉寺白山神社	86	168	81	159	77	155	93	126
	越前大仏・勝山城博物館	59	116	66	142	73	148	58	126
	ゆめおーれ勝山	26	110	64	110	71	112	86	120
	雁が原スキー場・勝山温泉センター水芭蕉	59	108	31	111	60	108	78	117
鯖江市	西山公園	268	838	309	1,031	232	772	247	824
	うるしの里会館	40	93	44	102	42	98	45	107
	めがねミュージアム	1	33	28	46	54	68	62	79
	ラポーゼかわだ	18	71	18	74	18	77	15	71
あわら市	あわら温泉	521	823	487	758	527	852	550	865
	金津創作の森	22	106	27	135	29	143	49	228
	北潟湖畔	17	93	19	105	20	111	23	144
	セントピアあわら	19	64	19	63	21	71	34	100
	吉崎御坊	73	92	59	75	56	71	59	75
越前市	しきぶ温泉湯楽里	20	200	12	224	121	216	108	192
	越前そばの里	107	166	83	130	72	108	78	112
	越前和紙の里	30	51	51	85	43	71	58	99
	越前の里味真野苑・万葉館	13	43	19	63	18	59	21	70
	紫式部公園	25	62	24	59	19	48	28	58

市町名	観光地 (施設)名	H22		H23		H24		H25	
		県外客	計	県外客	計	県外客	計	県外客	計
坂井市	東尋坊	1,041	1,270	962	1,180	953	1,169	961	1,179
	福井県児童科学館	64	124	55	138	56	146	113	563
	丸岡城	236	343	240	349	240	347	246	352
	芝政ワールド	1,384	1,577	250	284	289	348	295	339
	越前松島水族館	213	309	205	297	203	278	183	290
	ふれあいパーク三里浜	123	224	120	218	120	219	123	222
	福井県総合グリーンセンター	2	162	2	147	3	138	2	149
	地域交流センターいねす	16	156	15	151	14	149	12	145
	三国温泉ゆあぽーと	37	92	36	91	26	88	28	95
	三国湊町散策	51	79	39	77	40	73	42	76
永平寺町	大本山永平寺	530	580	481	525	425	500	404	481
池田町	溪流温泉冠壮	2	56	1	49	1	52	2	50
南越前町	道の駅「河野」	67	168	63	140	66	119	61	118
	花はす温泉そまやま	41	102	23	102	21	103	25	101
	今庄365温泉やすらぎ	20	93	19	85	18	83	18	81
	今庄365スキー場	52	81	56	81	53	77	43	62
越前町	越前海岸(越前町)	421	611	389	573	359	549	394	610
	うち露天風呂「漁火」	51	100	48	93	52	94	52	87
	劔神社	16	143	61	204	60	189	60	186
	越前陶芸村	59	115	58	113	32	117	36	105
美浜町・若狭町	レインボーライン	279	362	231	300	227	295	233	302
美浜町	がであんぱあく五湖の駅	49	82	51	73	22	75	23	76
高浜町	道の駅「シーサイド高浜」	330	359	209	260	178	198	256	301
	若狭高浜エルどらんど	86	132	78	107	71	102	74	98
	城山公園	35	49	40	44	37	43	47	54
おおい町	福井県子ども家族館	257	206	131	209	136	227	153	250
	道の駅「うみんびあ大飯」	—	—	—	—	—	—	118	196
	道の駅「名田庄」	181	201	135	152	138	154	129	144
	あみーシャン大飯	49	102	49	97	78	95	66	97
	きのこの森	38	54	41	49	36	43	42	55
若狭町	熊川宿・道の駅「若狭熊川宿」	257	321	224	280	285	356	303	379
	若狭瓜割名水公園	108	135	110	137	103	129	99	124
	常神半島	159	181	133	151	128	145	107	121
	みかた温泉「きららの湯」	35	117	34	113	31	105	29	97

(県観光振興課調べ)

(6) 主な催事の観光客数の推移 (平成25年の観光客数が5万人以上)

(単位：千人)

開催日 (H25)	開催地	催事名	観光客数			
			H22	H23	H24	H25
2月23日 ~ 2月24日	勝山市	勝山左義長まつり	110	120	120	100
4月1日 ~ 4月15日	敦賀市	花換まつり	94	84	65	47
4月1日 ~ 4月20日	坂井市	丸岡城桜まつり	60	50	60	55
4月1日 ~ 4月30日	福井市	ふくい春まつり	211	205	242	223
4月13日	福井市	越前時代行列	96	0	97	136
4月13日 ~ 4月27日	坂井市	竹田の里しだれ桜まつり	70	20	30	70
5月3日 ~ 5月4日	鯖江市	さばえつつじまつり	284	236	342	176
5月19日 ~ 5月21日	坂井市	三国祭	150	150	230	180
5月25日 ~ 5月27日	越前町	越前陶芸まつり	110	60	110	105
6月1日 ~ 6月30日	坂井市	ゆりフェスタ	55	56	57	59
8月2日 ~ 8月4日	福井市	福井フェニックスまつり	131	129	136	131
8月3日	おおい町	若狭おおいのスーパー大火勢	48	55	65	70
8月11日	坂井市	三国花火大会	200	200	220	220
8月13日 ~ 8月16日	大野市	おおの城まつり	120	118	56	108
8月13日 ~ 15日、18日	越前市	越前市サマーフェスティバル	112	113	93	120
8月16日	敦賀市	とうろう流しと大花火大会	215	220	215	198
9月1日 ~ 9月4日	敦賀市	敦賀まつり	168	75	161	141
10月3日 ~ 11月10日	越前市	たけふ菊人形	63	60	95	88

(県観光振興課調べ)

(7) 市町別季節別観光客数 (H25 延べ人数)

(単位：人)

市町名	春	夏	秋	冬	最も多い 時期
	(3～5月)	(6～8月)	(9～11月)	(12～2月)	
福井市	1,050,000	999,000	728,000	345,000	春
敦賀市	321,000	629,000	456,000	348,000	夏
小浜市	332,000	526,000	471,000	157,000	秋
大野市	391,000	436,000	558,000	137,000	秋
勝山市	375,000	500,000	323,000	504,000	冬
鯖江市	643,000	173,000	284,000	94,000	春
あわら市	372,000	478,000	418,000	281,000	夏
越前市	248,000	272,000	290,000	167,000	秋
坂井市	1,314,000	1,563,000	1,086,000	368,000	夏
永平寺町	136,000	208,000	197,000	96,000	夏
池田町	25,000	37,000	33,000	24,000	夏
南越前町	139,000	183,000	136,000	170,000	夏
越前町	291,000	289,000	300,000	353,000	冬
美浜町	184,000	437,000	155,000	71,000	夏
高浜町	131,000	557,000	128,000	86,000	夏
おおい町	195,000	474,000	263,000	106,000	夏
若狭町	370,000	434,000	345,000	152,000	夏
合計	6,517,000	8,195,000	6,171,000	3,459,000	夏
全体に占める割合	26.8%	33.7%	25.3%	14.2%	

(県観光振興課調べ)

(8) 宿泊旅行者の性別・年代別構成推移

(単位：%)

	性	年代	宿泊旅行者全体に占める割合				H25/H22
			H22	H23	H24	H25	年比
福井県	男性	20～34歳	7.0	9.4	6.5	11.2	160.0
		35～49歳	9.9	12.9	16.4	12.2	123.2
		50～79歳	25.2	27.6	26.0	29.8	118.3
		計	42.1	49.9	48.9	53.2	126.4
	女性	20～34歳	6.0	7.2	8.4	6.9	115.0
		35～49歳	11.8	11.2	12.5	10.0	84.7
		50～79歳	40.1	31.8	30.1	30.0	74.8
		計	57.9	50.2	51.0	46.9	81.0
合計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0%	
全国	男性	20～34歳	10.7	11.0	10.0	9.9	92.5
		35～49歳	12.6	13.0	12.9	13.1	104.0
		50～79歳	23.8	24.5	24.4	25.3	106.3
		計	47.1	48.5	47.3	48.3	102.5
	女性	20～34歳	12.0	11.6	11.4	11.4	95.0
		35～49歳	11.8	11.7	11.5	11.9	100.8
		50～79歳	29.0	28.3	29.9	28.5	98.3
		計	52.8	51.6	52.8	51.8	98.1
合計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0%	

(注)「延べ宿泊者数」…宿泊を伴う国内旅行(出張・帰省・修学旅行等を除く。)の都道府県(宿泊先)・性別・年代別の実施回数の調査結果から国勢調査人口をもとに推計したもの。

〈出典：㈱リクルート「じゃらん宿泊旅行調査 2011～2014」〉

発行 平成27年3月

編集 福井県観光営業部観光振興課

〒910-8580 福井県福井市大手3丁目17-1

電話 0776-20-0380

E-Mail kankou@pref.fukui.lg.jp

URL <http://www.pref.fukui.jp/doc/kankou/>